

The yashimamachi Site

八島町遺跡

- 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

2013

熊本県教育委員会

八島町遺跡

- 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

2013

熊本県教育委員会



白川上空より金峰山を望む



1. 万日山、花岡山を望む

2. 遺跡上空より



3区 完掘状況



竖穴建物 S001 出土遺物



竖穴建物 S048 出土遺物



竖穴建物 S066 出土遺物



竖穴建物 S095 出土遺物



竖穴建物 S099 出土遺物



竖穴建物 S145 出土遺物



竖穴建物 S156 出土遺物



排水處理槽预定地 土坑 S022 出土遺物



1



2

1. 穩穴建物 S080 出土遺物（重圈文系鏡）

2. 穗穴建物 S156 出土遺物（内行花文鏡）

序 文

本書は、九州新幹線建設工事に伴い、平成 16 年度に実施した八島町遺跡の発掘調査報告書です。

平成 23 年 3 月に九州新幹線が全線開業しました。熊本駅周辺ではますます開発が進み、景観は日々変貌を遂げています。急激に風景が変化していく中で、今日の私たちの生活や文化の礎となった先人たちの営み築いた歴史に目を向け、未来に継承していくことは、魅力ある街づくりにおいて、外には代えがたい柱の一つとなることだと思います。

八島町遺跡は、熊本市中央を西流する白川、井芹川、坪井川によって形成された標高 6 ~ 7 m の微高地上に立地する遺跡です。弥生時代後期の堅穴住居跡や掘立柱建物、井戸、溝、土坑等が検出されました。なかでも、2,3 区では多くの堅穴住居跡が検出され、調査地周辺に集落が広がっていたことが予想できました。今回、検出された遺構から大量の土器とともに、小形仿製鏡 2 点や銅鏃、鉄製鉋、ガラス玉などが出土しました。

本書が学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として学校教育や生涯学習など、幅広く活用され、さらにそれが県土の発展へと繋がることを切に希望します。

最後になりましたが、本事業において埋蔵文化財発掘調査にご理解、ご協力をいただきました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、熊本市教育委員会をはじめ、関係各位に対し心より感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月 31 日

熊本県教育長 田 崎 龍 一

八島町遺跡発掘調査報告

—九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

目 次

第1章 序言

1 調査に至る経緯（事業計画の概要）	1
2 事業への取り組み	1
3 調査組織	1
4 報告書の作成	2

第2章 調査

1 調査地域	7
(1) 地理的環境	7
(2) 歴史的環境	7
(3) 測量	8
(4) 地区割り	8
(5) その他	9
2 調査日誌抄	12

第3章 遺構

1 調査1区	17
2 調査2区	18
3 調査3区	24
4 調査4区	58
5 調査5区	60
6 排水処理槽予定地	62

第4章 出土遺物

第5章 総括

挿図目次 (Fig)

- Fig. 1 熊本県域における地形表記と九州新幹線建設工事により発生調査を実施した道路
Fig. 2 周辺道路地図
Fig. 3 道路の位置図 S=1/5000
Fig. 4 調査区全体図 S=1/1000
Fig. 5 1 区道構配図 S=1/150
Fig. 6 2 区道構配図 S=1/250
Fig. 7 2 区毎建築物断面図
Fig. 8 暫穴建物 S001 道構実測図
Fig. 9 3 区道構配図 S=1/500
Fig.10 捩立柱建物 S046 道構実測図
Fig.11 捩立柱建物 S131 道構実測図
Fig.12 暫穴建物 S048 道構実測図
Fig.13 暫穴建物 S066 道構実測図
Fig.14 暫穴建物 S069 道構実測図
Fig.15 暫穴建物 S079・S124 道構実測図
Fig.16 暫穴建物 S080 道構実測図
Fig.17 暫穴建物 S081 道構実測図
Fig.18 暫穴建物 S083 道構実測図
Fig.19 暫穴建物 S085・S086 道構実測図
Fig.20 暫穴建物 S089・S091 道構実測図
Fig.21 暫穴建物 S092・S093・S094 道構実測図
Fig.22 暫穴建物 S095・S096 道構実測図
Fig.23 暫穴建物 S099 道構実測図
Fig.24 暫穴建物 S101・S102 道構実測図
Fig.25 暫穴建物 S134 道構実測図
Fig.26 暫穴建物 S135 道構実測図
Fig.27 暫穴建物 S137 道構実測図
Fig.28 暫穴建物 S140 道構実測図
Fig.29 暫穴建物 S141 道構実測図
Fig.30 暫穴建物 S143・土坑 S190 道構実測図
Fig.31 暫穴建物 S145・S165 道構実測図
Fig.32 暫穴建物 S147 道構実測図
Fig.33 暫穴建物 S149 道構実測図
Fig.34 暫穴建物 S150 道構実測図
Fig.35 暫穴建物 S156 道構実測図
Fig.36 暫穴建物 S159 道構実測図
Fig.37 暫穴建物 S160 道構実測図
Fig.38 暫穴建物 S167 道構実測図
Fig.39 暫穴建物 S171・S172・S173 道構実測図
Fig.40 土坑 S097 道構実測図
- Fig.41 土坑 S148 道構実測図
Fig.42 土坑 S152 道構実測図
Fig.43 土坑 S188 道構実測図
Fig.44 4 区道構配図 S=1/200
Fig.45 5 区道構配図 S=1/200
Fig.46 排水処理槽予定期道構配図 S=1/200
Fig.47 排水処理槽予定期 土坑 S022 道構実測図
Fig.48 排水処理槽予定期 土坑 S020 道構実測図
Fig.49 暫穴建物 S001 出土遺物実測図-①
Fig.50 暫穴建物 S001 出土遺物実測図-②
Fig.51 暫穴建物 S001 出土遺物実測図-③
Fig.52 暫穴建物 S048 出土遺物実測図
Fig.53 暫穴建物 S066 出土遺物実測図-①
Fig.54 暫穴建物 S066 出土遺物実測図-②
Fig.55 暫穴建物 S066 出土遺物実測図-③
Fig.56 暫穴建物 S066 出土遺物実測図-④
Fig.57 暫穴建物 S066 出土遺物実測図-⑤
Fig.58 暫穴建物 S066 出土遺物実測図-⑥
Fig.59 暫穴建物 S066 出土遺物実測図-⑦
Fig.60 暫穴建物 S066 出土遺物実測図-⑧
Fig.61 溝 S078・暫穴建物 S079・S086・S089・S092 出土遺物実測図
Fig.62 暫穴建物 S095 出土遺物実測図
Fig.63 暫穴建物 S096・S099・土坑 S097 出土遺物実測図
Fig.64 暫穴建物 S099 出土遺物実測図
Fig.65 暫穴建物 S099・S101・S124・S134・S135 出土遺物実測図
Fig.66 暫穴建物 S135・S140・S141・S143・S145 出土遺物実測図
Fig.67 暫穴建物 S145・S147 出土遺物実測図
Fig.68 暫穴建物 S147・S149・S150・土坑 S148・S152 出土遺物実測図
Fig.69 暫穴建物 S156 出土遺物実測図
Fig.70 暫穴建物 S159・S160・S167・S172・土坑 S188 出土遺物実測図
Fig.71 排水処理槽予定期 土坑 S020・土坑 S022・調査区内出土遺物実測図
Fig.72 小形石製器、土埴、カラス玉、刀子、銅鏡、石製品実測図
Fig.73 石製品実測図-①
Fig.74 石製品実測図-②
Fig.75 石製品実測図-③
Fig.76 石製品実測図-④
Fig.77 八島町道跡 土器変遷図 (1)
Fig.78 八島町道跡 土器変遷図 (2)
Fig.79 (上段) 八島町道跡 土器変遷図 (3)
 (下段) 八島町道跡 道構変遷図
Fig.80 産様測地点 (No.1 ~ No.4)

写真目次 (PL)

- PL. 1 道路の遠景 白川上空より金峰山を望む
PL. 2 道路の遠景 1.万日山、花岡山を望む 2. 道路上空より
PL. 3 3 区完掘状況
PL. 4 暫穴建物 S001 出土遺物
PL. 5 暫穴建物 S048 出土遺物
PL. 6 暫穴建物 S066 出土遺物
PL. 7 暫穴建物 S095 出土遺物
PL. 8 暫穴建物 S099 出土遺物
PL. 9 暫穴建物 S145 出土遺物
PL.10 暫穴建物 S156 出土遺物
PL.11 排水処理槽予定期 土坑 S022 出土遺物
PL.12 1. 暫穴建物 S080 出土遺物 小形彷彿鏡 (重複文鏡)
 2. 暫穴建物 S156 出土遺物 小形彷彿鏡 (内行花文鏡)
PL.13 1. 1 区完掘状況 2. 2 区完掘状況
 3. 暫穴建物 S001 完掘状況 4.3 区完掘状況
 5. 捩立柱建物 S046 完掘状況 6. 捩立柱建物 S131 完掘状況
PL.14 1. 暫穴建物 S048 完掘状況 2. 暫穴建物 S066 完掘状況
 3. 暫穴建物 S080 小形彷彿鏡出土状況
 4. 暫穴建物 S084 完掘状況 5. 暫穴建物 S095 完掘状況
 6. 暫穴建物 S096 完掘状況
PL.15 1. 暫穴建物 S140 完掘状況 2. 土坑 S152 完掘状況
 3. 5 区調査区完掘状況 4. 排水処理槽予定期出土状況
 5. 排水処理槽予定期 土坑 S020 道構出土状況
 6. 排水処理槽予定期 土坑 S022 完掘状況
PL.16 暫穴建物 S001 出土遺物-①
PL.17 暫穴建物 S001 出土遺物-②

写真目次 (PL)

- PL.18 窒穴建物 S001 出土遺物—③
PL.19 窒穴建物 S001 出土遺物—④
PL.20 窒穴建物 S048 出土遺物—①
PL.21 窒穴建物 S048 出土遺物—②
PL.22 窒穴建物 S066 出土遺物—①
PL.23 窒穴建物 S066 出土遺物—②
PL.24 窒穴建物 S066 出土遺物—③
PL.25 窒穴建物 S066 出土遺物—④
PL.26 窒穴建物 S066 出土遺物—⑤
PL.27 窒穴建物 S066 出土遺物—⑥
PL.28 1. 2. 窒穴建物 S066 出土遺物—⑦ 3. 窒穴建物 S079 出土遺物 4. 窒穴建物 S086 出土遺物
PL.29 1. 窒穴建物 S089 出土遺物 2.3. 窒穴建物 S092 出土遺物 4. 窒穴建物 S095 出土遺物—①
PL.30 窒穴建物 S095 出土遺物—②
PL.31 1.2. 窒穴建物 S095 出土遺物—③ 3. 窒穴建物 S096 出土遺物 4. 土坑 S097 出土遺物
PL.32 窒穴建物 S099 出土遺物—①
PL.33 1. 土坑 S097 出土遺物 2.3.4. 窒穴建物 S099 出土遺物—②
PL.34 窒穴建物 S099 出土遺物—③
PL.35 1. 窒穴建物 S099 出土遺物—④ 2. 窒穴建物 S101 出土遺物 3. 窒穴建物 S134 出土遺物
PL.36 1. 窒穴建物 S124 出土遺物 2. 窒穴建物 S134 出土遺物 3.4. 窒穴建物 S135 出土遺物—①
PL.37 1. 窒穴建物 S135 出土遺物—② 2. 窒穴建物 S140 出土遺物 3. 窒穴建物 S141 出土遺物 4. 窒穴建物 S143 出土遺物
PL.38 窒穴建物 S145 出土遺物—①
PL.39 1.2. 窒穴建物 S145 出土遺物—② 3. 土坑 S148 出土遺物
PL.40 1. 窒穴建物 S147 出土遺物 2. 窒穴建物 S149 出土遺物 3. 窒穴建物 S150 出土遺物
PL.41 窒穴建物 S156 出土遺物—①
PL.42 窒穴建物 S156 出土遺物—②
PL.43 1. 土坑 S152 出土遺物 2. 窒穴建物 S159 出土遺物 3. 窒穴建物 S160 出土遺物 4. 窒穴建物 S167 出土遺物
PL.44 1.2. 窒穴建物 S172 出土遺物 3. 土坑 S188 出土遺物 4. 調査区内出土遺物
PL.45 排水施設埋設予定地土坑 S022 出土遺物—①
PL.46 排水施設埋設予定地土坑 S022 出土遺物—②
PL.47 1. 排水施設埋設予定地 墓 S020 出土遺物 2. ジョッキ型土器 3. 土鍤 4. 砧石 5. ガラス玉 6. 路 (ヤリカンガ)
PL.48 1. 窒穴建物 S080 出土遺物 小形彷彿鏡 (圓面文系鏡) 2. 窒穴建物 S156 出土遺物 小形彷彿鏡 (内行花文鏡)
PL.49 1. 石鏡 2. 銅鏡 3. 石砲丁 4. 磨石 5. 石斧
PL.50 1. 磨石 2. 台石 3. 砧石

表目次 (Tab)

- Tab.1 九州新幹線（新八代～博多間）建設工事に伴う熊本県内の発掘調査—①
Tab.2 九州新幹線（新八代～博多間）建設工事に伴う熊本県内の発掘調査—②
Tab.3 調査区内基準点測量結果
Tab.4 道路地名表
Tab.5 出土遺物観察表—①
Tab.6 出土遺物観察表—②
Tab.7 出土遺物観察表—③
Tab.8 出土遺物観察表—④
Tab.9 出土遺物観察表—⑤
Tab.10 出土遺物観察表—⑥
Tab.11 鉄製品・銀製品出土遺物観察表
Tab.12 石製品出土遺物観察表
Tab.13 土製品出土遺物観察表
Tab.14 ガラス製品出土遺物観察表

八島町遺跡 発掘調査報告

—九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

第1章 序言

1 調査に至る経緯（事業計画の概要）

八島町遺跡発掘調査は、九州新幹線建設工事に伴い当該遺跡の地下に埋蔵されている文化財が建設工事により影響を受けると判断されたことからそれらを記録・保存し、後世に伝えていくことを目的に平成15年5月27日から平成15年10月27日、平成16年2月12日から平成16年2月28日まで事業の施主である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 九州新幹線建設局（以下、「鉄道・運輸機構」という。）から委託を受け、熊本県教育委員会が実施したものである。

調査の起因となった九州新幹線鹿児島ルートは、国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興を図る目的で「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設されるもので、福岡市から熊本市、鹿児島県川内市付近を経由し鹿児島市に至るまでの総延長約249kmの九州縦軸の大動脈である。完成により、移動時間の短縮、県内総生産にもたらす経済波及効果及び地域間交流の拡大等多くのメリットがもたらされることから、各界から早期の開業が望まれている。

当該ルートは、昭和48年11月13日に整備計画の決定及び建設の指示がなされた後、昭和61年8月29日に工事実施計画認可申請がなされたが、その後の経済状況や社会情勢の変化に伴い、平成3年8月22日先行して八代・西鹿児島間にについて工事実施計画が認可され、同年9月7日に起工した。その後、平成10年3月12日に船小屋・新八代間の工事実施計画が認可され、同年3月21日に起工。さらに平成13年4月25日に博多・新八代間の工事実施計画が追加認可され、同年6月2日に博多・船小屋間が起工している。

2004年（平成16年）3月13日には新八代駅・鹿児島中央駅（旧・西鹿児島駅）間がフル規格で部分開業し、続いて2011年（平成23年）3月12日には博多駅・新八代駅間が開業し、整備計画の決定から38年を経て全線で営業運転を開始した。

2 事業への取り組み

熊本県内における九州新幹線建設事業への取り組みは、平成4年（1992年）に日本鉄道建設公団九州新幹線建設局により八代・水俣間の事業計画が示された事により始まった。平成8年（1996年）には水俣市において「長野遺跡」を確認し、平成9年（1997年）12月より発掘調査に着手した。その後引き続き、芦北郡津奈木町内における試掘調査を皮切りに、八代市域を含む先行着手区間ににおいて同事業における取り組みが本格化した。平成12年（2000年）8月には熊本県内で起点となる八代市において「西片百田遺跡」「中片小路遺跡」の調査が始まり、平成15年8月の「宮地小畠遺跡（側道部）」の調査をもって、新八代・鹿児島中央間の調査は終了した。

その後、工事計画の中心は博多→新八代間へと移り、用地買収の進捗とともに当該地区を含む県央、同じく熊本駅周辺、県北部域となる玉名市域へと発掘調査の範囲は拡大していった。

3 調査組織

【発掘調査】

平成15年度

調査責任者 文化課長 成瀬烈大

調査統括 課長補佐 島津義昭

調査指導 課長補佐（文化財調査第一係担当） 高木正文

調査担当者 参事 坂口圭太郎

非常勤職員 坂本亜矢子

平成 16 年度

調査責任者 文化課長 島津義昭

調査総括 課長補佐 倉岡 博

調査指導 課長補佐（文化財調査第一係担当）高木正文

調査担当者 参事 坂口圭太郎

非常勤職員 坂本亜矢子

4 報告書の作成

【整理報告書作業】

平成 24 年 2 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

整理責任者 文化課長 小田信也

整理総括 文化財調査第一係長 村崎孝宏

整理担当者 参事 長谷部善一（岩手県教育委員会派遣）

文化財保護主事 佐藤哲郎

非常勤職員 唐木ひとみ、稻葉貴子

整理作業員 福島典子（班長） 藤井美智子（副班長） 小早川隆春 塩田喜美子

今崎光成 石田敦子 潤淵俊子 本田頼子（以上、一次整理）

土田みどり 岩下恵美子 田中裕子 井上真優（以上、二次整理）

第二・三章原稿執筆 株式会社 埋蔵文化財サポートシステム熊本支店 上高原聰

調査指導機関及び調査助言・協力者

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部 九州新幹線建設局

九州旅客鉄道株式会社熊本鉄道事業部

熊本市教育委員会

河野真理子 原田範昭 林田和人 山下宗親

杉本和樹

調査（整理）業務に伴う委託事業一覧

測量業務 株式会社 水野建設コンサルタント

遺構実測業務 株式会社 九州文化財研究所

空中写真撮影業務 写測エンジニアリング株式会社

九州航空株式会社

遺物一次整理業務 株式会社 埋蔵文化財サポートシステム

遺構・遺物デジタルトレース業務 株式会社 埋蔵文化財サポートシステム

遺物撮影及び図版版下作成業務 株式会社 埋蔵文化財サポートシステム

原稿執筆支援業務 株式会社 埋蔵文化財サポートシステム

地名	No.	遺跡名	所在地	調査面積 (× 2面)	調査期間	調査担当者	遺跡の年代	調査種別	報告書
熊本県南部（水俣・八代市域）	1	長野遺跡	水俣市長野町	1,500 ㎡ (× 2面)	H9.12.8 ～ H10.3.31	村崎孝宏・中川裕二	調査後期 先生後期・古代	本縦	第189集
	2	古籠城跡遺跡	八代市古籠町	3,800 ㎡	H12.12.5 ～ H13.5.31	出田久喜・米村大	中世	本縦	第227集
	3			2,200 ㎡	H13.10.9 ～ H14.4.30	古城史雄・水野智郎 青柳博光・松尾慶 宮崎祐	古代・中世 近世	本縦	
	4	古籠能寺遺跡	八代市古籠町字能寺	4,528 ㎡ (× 2面)	H13.4.28 ～ H14.3.20	青木勝士・松尾繁	古代・中世	本、電鑽	第216集
	5	古籠城下遺跡	八代市古籠町字城崎	500 ㎡ (× 2面)	H14.1.18 ～ H14.4.20	青木勝士・米村大 松尾繁・本田麻紀	古代・中世	本縦	
	6	宮地航行寺遺跡	八代市宮地町字航行寺	1802.7 ㎡ (× 4面)	H13.10.9 ～ H14.6.30	山城敏明・典田賀二 濱田朋生・宇田員得 藤原加寿子・濱田教培	古墳・古代 中世	本縦	第235集
	7			352.4 ㎡ (× 2面)	H15.5.6 ～ H15.9.30	高田美樹・長谷部善一 宇田員得	古墳・古代 中世	辺道	
	8	宮地小須遺跡	八代市宮地町字小須	1,072.1 ㎡ (× 4面)	H14.2.1 ～ H14.6.3	坂口圭太郎 長谷部善一・中村泰宏 上高原聰・宇田員得 内藤成香・酒崎明子 村中智輔	古代・中世	本縦	第235集
	9			1,530.4 ㎡ (× 3面)	H14.4.1 ～ H15.10.12	長谷部善一・高田美樹 坂口圭太郎・三七一王	古代・中世	辺道	
	10	中片小路遺跡	八代市中片町字小路	3,800 ㎡ (× 2面)	H12.8.1 ～ H13.3.31	出田久喜・米村大	古代・中世	本縦	第228集
	11				H13.16.1 ～ H14.2.28	坂口圭太郎・森貴史	古墳・古代 近世	本縦	
	12			1,200 ㎡ (× 3面)	H14.12.4 ～ H15.3.12	長谷部善一・村中智輔	古代・近世	辺道	
	13	西片稻村遺跡	八代市西片町字稻村	2,800 ㎡	H13.4.15 ～ H13.9.28	坂口圭太郎・森貴史	弥生後期・古代 中世	本縦	第228集
	14	西片首田遺跡	八代市西片町字首田	6,292 ㎡ (× 2面)	H12.7.1 ～ H14.4.19	長谷部善一・諸方智子 上高原聰・荒木隆宏 酒崎明子	弥生中期～後期 古墳初期	本 新八駆	第242集 第236集に 一部記載あり
	15	上日賀女夫木遺跡	八代市上日賀町字女夫木	2,800 ㎡	H13.10.1 ～ H14.3.29	中村幸宏・高畠和生 河合敬士・濱田教培	弥生前期～後期 古墳初期	八駆	
	16	島田遺跡	八代市島田町	1,530.4 ㎡ (× 2面)	H13.8.6 ～ H14.3.29	野田英治 内田成香・西山由美子	弥生前期～後期	本縦	第241集 第236集に 一部記載あり
	17	水田手水田遺跡	八代市千手町新牟田	240 ㎡	H15.1.14 ～ H15.3.31	坂口圭太郎	近世（文政2年） 1819年～	本縦	
	18	四百町開田遺跡	八代市綾町四出	60 ㎡	H16.11.5 ～ H16.12.24	坂口圭太郎	近世（寛政11年） 1799年～	本縦	第254集
宇城市域	19	古曾部遺跡	宇城市不知火町小曾部 字中津 1983-6, 1984-3	360 ㎡	H16.11.1 ～ H16.12.20	坂口圭太郎	中世	本縦	第265集
	20	南諏遺跡	宇城市不知火町小曾部 字南諏 1989-1, 1989-2	980.37 ㎡	H18.9.20 ～ H18.12.28	坂口圭太郎・尾方圭子 坂本恵子	古代	本縦	
	21	高良柳遺跡	宇城市不知火町 大字高良字柳原	286 ㎡	H14.9.17 ～ H14.12.27	坂口圭太郎 宇田員得・和田敏郎	古墳	本縦	
	22	下江中島遺跡	熊本市南区富合町吉岡 1287-1 1287-5番	7,107.49 ㎡	H18.12.4 ～ H19.5.31	長谷部善一・吉田徹也 早田利宏・手塚智晴 園田照子	古墳時代初期 古代（平安）	本縦 整施	第278集
熊本古域	23	川尻外城遺跡	熊本市南区川尻3丁目831他6番	1,756.91 ㎡	H18.9.20 ～ H19.3.30	坂口圭太郎 松森由美・多賀晴司	中世・古代	本縦	第279集
	24	上ノ郷遺跡	熊本市南区島田1丁目304-1他5番	2,000 ㎡	H15.5.21 ～ H16.1.31	村和徳・和田敏郎 宇田員得・横田光智	弥生中期～後期 古代	本縦	第239集

Tab.1 九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う熊本県内の発掘調査 -①-

地城	Yn	道路名	所在地	調査面積	調査期間	調査担当者	道路の年代	調査種別	報告書
熊本古城	25	八島町道路	熊本市西区蓬台寺4丁目132-3 他11箇	3,800 m ²	H15.6.5 H15.10.31	坂口圭太郎 坂本姫子	弥生後期 古代	電施	本書
	26		熊本市西区蓬台寺4丁目578-6	250 m ²	H16.2.17 H16.3.31				
熊本古都域	27	二本木遺跡群	熊本市西区田崎1丁目117番の1	700 m ²	H8.1.29 ～H8.3.25	帆足俊文	縄文後期 弥生後期 古代	連立	第174集
	28	二本木遺跡群 (田崎地区)	熊本市西区田崎1丁目	3,138,42 m ²	H15.11.27 ～ H16.3.31	宮崎勝士 福永雅美	古代	連立	第280集
	29			2,300 m ²	H17.11.11 ～ H18.8.31	坂口圭太郎 尾方圭子 多賀聰司	弥生 古墳 古代	本籍	
	30	二本木遺跡群 (田崎法橋)	熊本市西区田崎1丁目	48 m ²	H19.5.7 ～H19.6.6	松森山美 水上正孝	弥生後期 古代 中世	市替	
	31	二本木遺跡群 (春日地区) 原古河調査	熊本市西区春日3丁目1605番地	78.6 m ²	H19.10.1 ～ H19.11.1	埴住克 横田光智	古代 近世	迂通	
	32	二本木遺跡群 (春日地区) 第14次調査	熊本市西区春日3丁目	12,700 m ²	H17.11.7 ～ H18.12.26	長谷部善一 吉田徹也 早田利宏 古井英志	古代 中世 近世	熊駅	第271集
	33	花園山・万日山遺跡群	熊本市西区横手2丁目 1183-21(2-8番)	3,133,54 m ²	H17.1.21 ～ H18.12.18	坂口圭太郎 遠山宏	古代	本籍	
	34	新馬鹿遺跡	熊本市西区横手1丁目 1142番地は5-6番	550 m ²	H18.6.30 ～ H20.1.4 ～ H20.1.31	坂口圭太郎 遠山宏 埴住克	中世 古代	本籍	第266集
	35	北島遺跡群	熊本市西区池田4丁目 519-12(5-11番)	3,450 m ²	H18.6.15 ～ H19.2.28	今村和徳 横田光智 遠山宏	弥生後期 古代 中世	本籍	
	36	万楽寺出口遺跡	熊本市西区太部追町 474-2ほか2箇	984.52 m ²	H19.5.1 ～ H19.10.30	坂口圭太郎 埴住克	縄文後期 古代	本籍	
熊本古都域 (玉名古都域)	37	長山前田道路	玉名郡南關町長山字前田	600 m ²	H16.4.27 ～ H18.5.21	坂口圭太郎	弥生後期 中世	本籍	第268集
	38	福代津留遺跡	玉名郡東町福代	2,273.54 m ²	H16.3.27 ～ H17.12.29	尾方圭子 今村和徳 遠山宏	弥生後期 古墳 古代	本籍	第263集
	39	豊田下遺跡	玉名市津留字豊田下233-2 (2小9箇)	5762 m ² (×2面)	H16.6.1 ～ H16.10.27	長谷部善一 吉田徹也 早田利宏 園田熟子	中世 近世	本籍	第247集
	40	小國遺跡	玉名市大字小國345-2 (2小13箇)	2,406 m ²	H16.6.14 ～ H16.10.31	坂口圭太郎 松森山美 坂本姫子 遠山宏	弥生後期 中世 近世	本籍	第256集
	41	太郎丸遺跡	玉名市大字津留字白拾子 373-2(2小13箇)	14,148 m ²	H16.11.1 ～ H17.10.31	長谷部善一 吉田徹也 早田利宏 園田熟子	古代 中世	本籍	第250集
	42	西星敷遺跡	玉名市大字西星敷2660-3 (2小4箇)	325 m ²	H17.4.9 ～ H17.5.4	長谷部善一 吉田徹也 早田利宏 園田熟子	近世	本籍	第250集
	43	瀬萩遺跡	玉名市津留川瀬103-3 (2小3箇)	4,344 m ²	H17.4.19 ～ H17.9.30	吉田徹也 早田利宏	古墳 古代 中世	本籍	第250集
	44	両追田口渡遺跡	玉名市両追田	742.92 m ²	H18.8.23 ～ H18.10.10	坂口圭太郎 龜田学	弥生 古墳	玉駅	第268集
	45	玉名平野条里跡 (古關田地区)	玉名市両追田字古關前158-2 (2小9箇)	2,537.85 m ²	H19.6.1 ～ H20.1.31	長谷部善一 吉田徹也 早田利宏 園田熟子	弥生後期 古墳 (前・後) 古代 中世	本籍	第261集
	46	西安寺遺跡	玉名郡玉東町西安寺1018	518 m ²	H19.11.26 ～ H19.12.26	坂口圭太郎	中世 近世	工道	第263集

凡例	
工道	工事用道路
玉駅	新玉名駅
地駅	新熊本駅
連立	複数事業
市替	市道切り替え
迂通	迂回道路
整備	新設整備施設
八駅	新八代駅
電施	電源施設

Tab.2 九州新幹線（新八代－博多間）建設工事に伴う熊本県内の発掘調査 -②

九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

- 『二本木遺跡群』熊本県文化財調査第 174 集 熊本県教育委員会編 1999
- 『長野遺跡』熊本県文化財調査報告 第 189 集 熊本県教育委員会編 2000
- 『古龍能寺遺跡 古龍城下遺跡』熊本県文化財調査報告 第 216 集 熊本県教育委員会編 2003
- 『古龍城跡』熊本県文化財調査報告第 227 集 熊本県教育委員会編 2005
- 『中片小路遺跡』熊本県文化財調査報告 第 224 集 熊本県教育委員会編 2005
- 『西片福村遺跡 中片小路遺跡』熊本県文化財調査報告 第 228 集 熊本県教育委員会編 2005
- 『宮地小畠遺跡 宮地銀行寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 235 集 熊本県教育委員会編 2006
- 『島田遺跡 上日置女夫木遺跡、西片百田遺跡』熊本県文化財調査報告第 236 集 熊本県教育委員会編 2006
- 『西片百田遺跡』熊本県文化財調査報告第 242 集 熊本県教育委員会編 2007
- 『上ノ郷遺跡』熊本県文化財調査報告 第 239 集 熊本県教育委員会編集 2007
- 『鷹田遺跡』熊本県文化財調査報告 第 241 集 熊本県教育委員会編 2007
- 『祭田下遺跡』熊本県文化財調査報告第 247 集 熊本県教育委員会編 2009
- 『太郎丸遺跡、西屋敷遺跡、漸萩遺跡』熊本県文化財調査報告第 250 集 熊本県教育委員会編 2010
- 『八代平野千拓遺跡群(高田手永旧堤防・四百町開旧堤防)』熊本県文化財調査報告第 254 集熊本県教育委員会編 2010
- 『小園遺跡』熊本県文化財調査報告第 256 集 熊本県教育委員会編 2010
- 『古曾部遺跡、南請遺跡、高良柳追遺跡』熊本県文化財調査報告第 261 集 熊本県教育委員会編 2011
- 『花岡山・万日山遺跡、新馬借遺跡、北島遺跡群、万楽寺出口遺跡』熊本県文化財調査報告第 266 集 熊本県教育委員会編 2011
- 『福佐津留遺跡、西安寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 263 集 熊本県教育委員会編 2011
- 『玉名平野条里跡(古闕前地区)』熊本県文化財調査報告第 261 集 熊本県教育委員会編 2011
- 『長山前田遺跡、兩迫間日渡遺跡 1』熊本県文化財調査報告第 268 集 熊本県教育委員会編 2012
- 『二本木遺跡群(春日地区) 5』熊本県文化財調査第 271 集 熊本県教育委員会編 2012
- 『下江中島遺跡(上日置女夫木遺跡)』熊本県文化財調査第 278 集 熊本県教育委員会 2013
- 『川尻外城跡』熊本県文化財調査第 279 集 熊本県教育委員会 2013
- 『二本木遺跡群 7 田崎地区、田崎市道切替、田崎陸橋』熊本県文化財調査報告第 280 集 熊本県教育委員会 2013
- 『八島町遺跡』熊本県文化財調査第 281 集 熊本県文化財調査第 281 集 熊本県教育委員会 2013

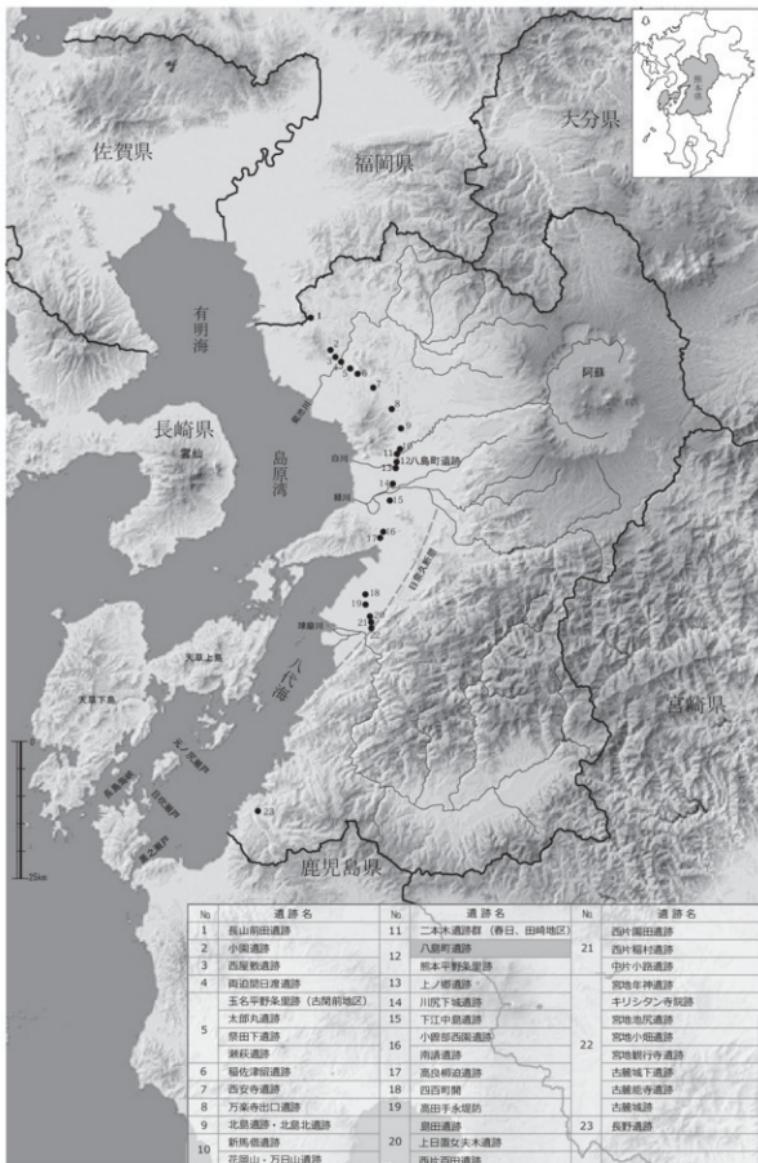


Fig.1 熊本県域における地形表記と九州新幹線建設工事により発掘調査を実施した遺跡

第2章

調査

1. 調査地域

(1) 地理的環境

熊本市は九州の中央である熊本県の西北部に位置する。熊本市の北西部は金峰山を主峰とする複式火山帯とこれに連なる立田山等の台地からなり、西方に面する有明海と内陸部とを隔てる。また、北部から東部一帯は火碎流台地や河成段丘が発達し、これらは東方へ高度を増しつつ阿蘇外輪山の斜面へ続く。そして、南部には白川・緑川などによって東部の台地や段丘が浸食された結果、流送された土砂の堆積によって形成された沖積平野である、いわゆる「熊本平野」が広がる。この熊本平野では、流量豊かな河川と豊富な地下水を背景に早くから稲作農業が展開してきた。なお、熊本平野の総面積は約 775Km²を測り、福岡県の筑紫平野に次いで九州で第2の広さを有する。

本遺跡が所在する熊本平野北部には、白川が南流する。白川は標高 1500 m の阿蘇を水源とする全長 74km の1級河川であり、熊本市域を貫流する。この川は古くから「暴れ川」として知られており、これらの河川の堆積作用によって熊本平野北部は形成された。白川は戦後から現在までに7度氾濫し、最近では平成24年7月の九州北部豪雨によって8度目の氾濫を起こした。白川の本格的な変化は、近世初頭の加藤清正に端を発し、現在に至るまで多くの河川改修が行われている。また、本遺跡内を南流する坪井川は、本来、熊本城東方で湾曲する白川と合流していたが、加藤清正の治水によって改変された人工流路である。

発掘調査を行った八島町遺跡は熊本県熊本市西区蓮台寺4丁目に所在する。調査地は、熊本市中心地を南流する白川・坪井川が、その流れをほぼ 90° 西方に変化させる箇所である白川の右岸および坪井川の左岸の狹小な土地に立地する。国土交通省発行の治水地形分類図によると、調査地は微高地に位置する。発掘調査以前は、JR九州の操車場であった。

(2) 歴史的環境

本遺跡は沖積平野上に立地しており、旧石器時代の遺跡は周辺では確認されていない。直近の遺跡では本遺跡の北方に位置する金峰山麓上の遺跡が挙げられる。

縄文時代には、本遺跡では該期の遺構・遺物は認められず、当時の遺跡は石神原遺跡や千原台遺跡、野添平遺跡 (Fig.2-1)、島崎遺跡、戸坂遺跡 (Fig.2-3) といった遺跡が金峰山の丘陵裾部に集中する。これらの遺跡では、縄文時代早期～中期の遺物も出土しているが、最も盛んだった時期は縄文時代後・晚期である。また、熊本城が立地する京町台地の端部からも縄文時代晩期の土器が出土し、当時は丘陵端部上に遺跡の主体があつたものと考える。近隣の二木本遺跡群内で縄文時代中期～後期の土器が僅かに出土する。

弥生時代前期には、遺跡数は激減し、遺跡の立地も丘陵部から低地へ移動する。本遺跡周辺では、白川左岸の本庄遺跡 (Fig.2-51) や平田町遺跡 (Fig.2-45) が挙げられる。弥生時代中期には、船場町遺跡 (Fig.2-38) や上ノ郷遺跡 (Fig.2-9)、白藤遺跡群 (Fig.2-11) などの平野部を中心に集落や婁柏墓を有する墓域が確認される。弥生時代後期になると、遺跡数は激増し、それまで立地していた平野部に加え、金峰山の丘陵裾部や台地部にまでその分布は拡がり、大小の集落が確認される。これらの中には二木本遺跡群（方格規矩鏡片、小形彷製鏡、銅鏡）(Fig.2-26) や戸坂遺跡（方格規矩鏡、小形彷製鏡、銅鏡）(Fig.2-3)、平田町遺跡（小形彷製鏡）(Fig.2-45) などの銅製品を所有する集落も認められる。八島町遺跡でも、今回の発掘調査において

1 治水地形分類図は、治水対策を進めるため国が直接管理する河川（直轄河川）流域の平野部を対象に、昭和51年度から53年度にかけて整備した範囲が 2 万 5 千分 1 の地図である。現在では広く共有すべき資料として平成17年8月から一般に公開され、平成20年2月からホームページでも閲覧が可能となっている。（<http://www.gsi.go.jp/geoww/cmf/cmf.html>）

2面の小形仿製鏡が出土している。

古墳時代には、弥生時代から引き続き集落が営まれた遺跡として千原台遺跡群と古町遺跡（Fig.2-39）が挙げられるが、検出された集落遺跡数は少ない。本遺跡の近隣では花岡山・万日山遺跡群（Fig.2-4）や万日山山頂古墳、北岡横穴群（Fig.2-23）などの墓域は確認されるが、その集落遺跡は確認されていない。熊本県上益城郡益城町所在の小柳遺跡（益城町教育委員会 2010）では、生産拠点である低湿地に集落を形成し、墓域をその周辺の高地に形成することが推定されており、熊本平野でも墓域の状況から同様のことが考えられる。よって、古墳時代集落は弥生時代と異なる場所の熊本平野内に造営されていると推測される。

古代には、八島町遺跡を含む白川右岸一帯は飽田郡に属する。飽田郡は宮前・加幡・小坂・私部・栗北・天田・川内・水門・殖木・下田・蚕カイの12郷を郡域とした肥後唯一の上郡であった。「和名抄」では「阿基岐多」と訓を付す。この時期は、二本木遺跡群が最も盛行した時期にあたり、周辺遺跡においても該期の遺構・遺物の出土は顕著である。特に8世紀後半から9世紀前半の時期の遺構・遺物は充実しており、官衙施設や村落内寺院が確認されている。近年は新幹線建設工事に伴う発掘調査や区画整理事業に伴う発掘調査が多数行われており、土地区画や土地利用も明らかになりつつある。

中世においても古代後半から再び盛行した二本木遺跡群が継続して主体である。特に、12～13世紀の熊本県内では、検出された遺構や遺物は質・量共に突出しており、都市的な様相を呈する。しかし、17世紀に入り、加藤清正の肥後入国を契機として、肥後の中心はそれまでの二本木地域から隈本古城を中心とした古町遺跡一帯に移動する。さらに、細川藩政期には八島町遺跡は横手手承に属し、「八島村」として熊本城下への大根の供給地となっていたように、都市部の縁辺地として存在し、現在に至る。

（3）測量（Fig.80）

八島町遺跡発掘調査を開始するにあたっては、事前に基準点測量と水準測量を実施した。基準点は調査の契機となった九州新幹線建設事業に伴い鉄道・運輸機構が設置した日本測地系に基づく国土座標II系により設置している。

2002年（平成14年）4月1日から施行された改正測量法に伴い、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、本事業における基準点がすべて日本測地系に基づいていることから、熊本県内における埋蔵文化財発掘調査で設置する基準点はすべて日本測地系に基づいている。なお、世界測地系との整合をとるために設置した基準としている杭の数値を日本測地系、世界測地系でそれぞれ示す。

点名	日本測地系		世界測地系	
	X座標	Y座標	X座標	Y座標
座標点 No.1	-24900	-29140	-24527.8033	-29361.0243
座標点 No.2	-24940	-29140	-24567.8045	-29361.0244
座標点 No.3	-25000	-29150	-24627.8064	-29371.0243
座標点 No.4	-25110	-29170	-24737.8099	-29391.0244

Tab. 3 調査区内基準点測量成果

（4）地区割り（Fig. 4）

八島町遺跡では、今回の報告にあたって新たにグリッドを設定した。それは、 $(X,Y)=(-24890,-29190)$ を起点として、調査地全域を包括する東西75m、南北240mの範囲に1辺5mの方形区画を区切り、これを1単位とした「グリッド」とした。グリッド名称については起点から東西方向に「A～O」、南北方向に「1～49」という英数を付した。したがって、グリッドは「東西グリッドA」、「南北グリッド1」の場合、「A-1」で表記される。

以上のことから、調査1区は「J-1～J-3」、調査2区は「F-7～D-14」、調査3区は「N-15～B-35」、調査4区は「F-43～G-48」、調査5区は「A-43～D-48」、排水処理槽予定地は「I-1～K-5」グリッドに位置

2 和名類聚抄（わみょうるいじょうしゃう）の略称である。平安時代中期（承平年間（931-938年））に勤子内親王の求めに応じて源順（みなものしたご）が編纂した辞書である。

する。

(5) その他

発掘調査時に検出した遺構は、「S」に番号（S001、S002・・・）を付して呼称しており、本報告においても調査当時の遺構名をそのまま使用している。

遺物観察表に使用している色調については「新版基準土色帳」1999を使用した。

引用・参考文献

- 松本寿三郎・板楠和子・工藤敬一・猪飼隆明 1999『熊本県の歴史』県史 43 山川出版社
下中邦彦編 1985『熊本県の地名』日本歴史地名体系第四四巻 平凡社
新熊本市史編纂委員会 1996『新熊本市史』史料編 第一巻 考古資料
新熊本市史編纂委員会 1998『新熊本市史』通史編 第一巻 自然・原始・古代
熊本県教育委員会 1999『二木木遺跡群』熊本県文化財調査報告第 174 集
熊本県教育委員会 2012『二木木遺跡群（春日地区）5』熊本県文化財調査報告第 271 集
熊本県教育委員会 2007『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集』平成 18 年度
熊本県教育委員会 2008『智照院細川家墓所』
熊本県教育委員会 2008『八ノ坪遺跡IV』
熊本県教育委員会 2009『戸坂遺跡』
熊本県教育委員会 2011『二木木遺跡群 XV』熊本市の文化財第 9 集
益城町教育委員会 2010『小柳遺跡』益城町文化財調査報告第 21 集

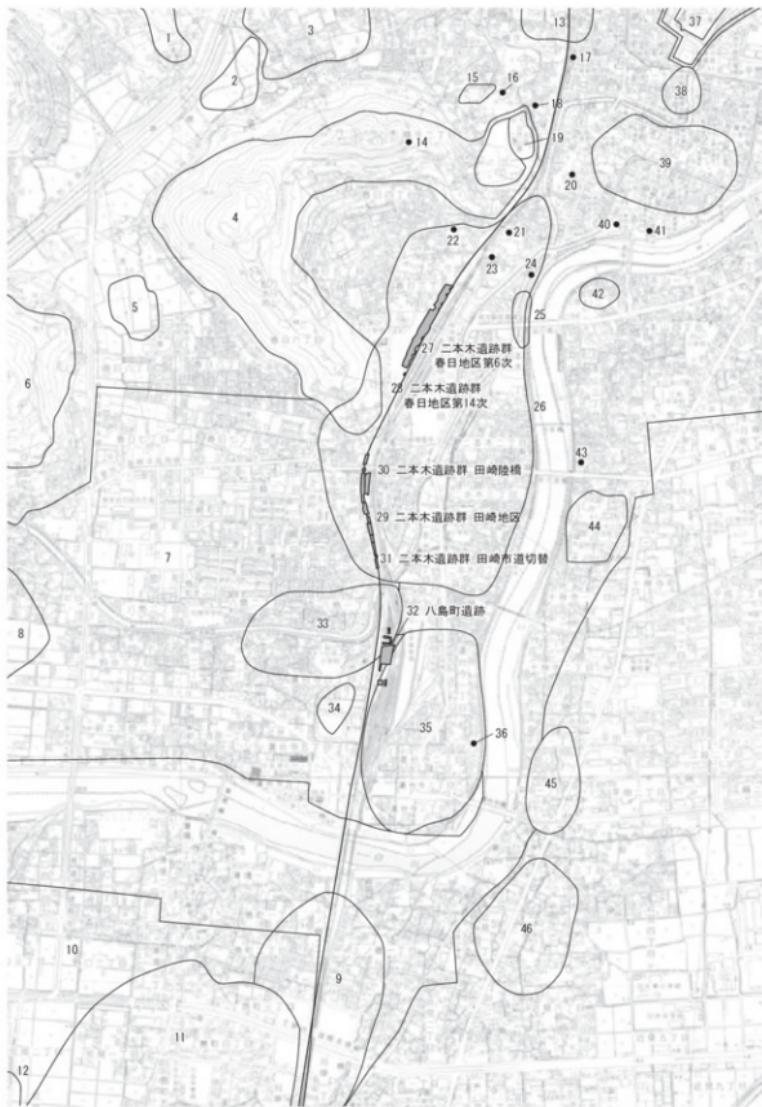


Fig.2 周辺遺跡地図



遺跡 番号	遺跡名	遺跡の時代
1	野添平	縄文～中世
2	戸坂御山跡	縄文～中世
3	ノ坂	弥生～平安
4	花岡台・万古山遺跡群	古墳
5	清水原	縄文～中世
6	被塙山遺跡群	古墳～中世
7	熊本平野美里跡	古代～中世
8	上代町遺跡群	縄文～平安
9	上ノ郷遺跡	弥生～中世
10	熊本平野美里跡	古代～中世
11	白藤遺跡群	弥生～中世
12	古瀬跡	弥生～中世
13	新馬場	古墳～平安
14	花岡山箭毒理跡地	明治
15	吉祥寺第六古墳	古墳
16	穂手町二荒古墳	近世
17	古住佐高跡	近世
18	廟行寺跡	近世
19	綿川吉尾・妙解寺跡	江戸
20	板知町・鹿之町田跡	近世
21	花岡神社内古墳	古墳
22	山内雲院（春日寺）	江戸
23	北河横六古墳	古墳
24	熊本城跡の石垣	近世
25	石垣（白川橋）	弥生～中世
26	一本木通跡群	弥生～中世
27	一本木通跡群 春日井山・卫門次	古墳～近世
28	一本木通跡群 春日井山第14次	古代～近世
29	一本木通跡群 田崎	弥生～近世
30	一本木通跡群 田崎	古墳～近世
31	一本木通跡群 田崎市役所前	古代～近世
32	八戸町遺跡	弥生
33	八鳥町	弥生
34	近町方	弥生～古代
35	南新町	弥生～中世
36	蓬台寺・松原塔	中世
37	熊本城跡遺跡群	古墳～近世
38	船場町	弥生
39	古町（旧唐人町）	弥生～明治
40	光明寺跡	近世
41	津信寺跡	中世
42	木山城跡（木山城跡）	弥生～中世
43	無量寺跡	中世
44	世安神田	弥生～中世
45	平山町	弥生～平安
46	近見	縄文～中世
47	山崎山遺跡	古墳
48	花畠遺跡	近世
49	幸町	弥生～古墳
50	代謝神社の跡地	中世
51	木庄（廣大別荘地）	古墳～平安
52	新屋敷	弥生～中世
53	大江遺跡群	縄文～明治
54	不動院跡の六地蔵塔	中世
55	熊本平野美里跡	古代～中世
56	山水御前跡	弥生～中世
57	田道下乙	古代～中世
58	西無田	弥生～平安
59	御幸山御神社	弥生～中世
60	下乙地遺跡群	中世

Tab.4 遺跡地名表

2. 調査日誌抄

1区

2003年

- 05.27 表土剥ぎを開始する。
- 05.28 熊本市教育委員会文化財課 山下宗親文化財保護主事が来跡する。1層の掘削を開始する。1層からは、近世の染付や青磁片、弥生土器片などが出土する。いずれも磨滅が著しい。
- 05.29 1層の掘削およびトレンチの掘削を行う。土層観察の結果、1層以下100cm以上の深度まで遺物が出土することが確認された。
- 05.30 雨天のため、調査を午前中で終了する。
- 06.02 引き続き表土剥ぎを行う。表土剥ぎ済みの箇所では遺構検出を行う。1層の上層は昭和27年6月26日の洪水跡の砂層である。
- 06.03 作業員に対して安全講習を行う。遺構検出を行う。
- 06.04 非常勤職員 横田光智氏が明日まで調査に加わる。遺構検出を行う。
- 06.05 本日より非常勤職員 米村俊治・松野直子氏が調査に加わる。
- 06.06 遺構検出を行う。調査区北側には多くの遺構があるが、検出プランが確定しない。
- 06.09 調査区北端を拡張し、調査区北側の遺構検出の精度を高める。
- 06.10 調査区北側で認められる黒色土を遺構検出した結果、大きな溝を検出する。
- 06.11 調査区中央部を遺構検出した結果、東西方向に帯状に広がる鉄分の集積を検出する。
- 06.12 雨天の為、調査を午前中で終了する。2層の掘削を行う。調査区中央部で検出された鉄分の集積は、2層を振り込んでいることが明らかになった。
- 06.13 調査区中央部で検出された鉄分が集積した溝の調査を行う。
- 06.14 昨日からの降雨のため、調査区が冠水する。
- 06.16～19 雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で、出土遺物の整理などを行う。
- 06.20 調査区内に溜まった雨水の排水および崩落土の処理を行う。
- 06.24 調査区内に溜まった雨水の排水および崩落土の処理を行う。
- 06.25 熊本市教育委員会文化財課 林田和人文化財保護主事が来跡する。連日の降雨による流出土砂の除去など調査区の復旧作業を行う。
- 06.26 包含層掘削および遺構検出を行った。4層上面で遺構を検出する。
- 06.27 調査を中止する。
- 06.30 雨天の為、調査を午前中で中止する。
- 07.01 雨天の為、調査を中止する。
- 07.02 調査区断面の土層観察を行う。
- 07.03 調査区土層断面の実測を行う。
- 07.04 雨天の為、調査を中止する。
- 07.16 連日の降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。
- 07.22 株式会社 水野建設コンサルタントによるメッシュ杭の設置を行う。降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。
- 07.23 溝S024の調査を行う。
- 07.26 土坑S025の調査を行う。
- 07.28 検出遺構の調査および3層の掘削を行う。
- 07.29 雨天の為、調査を中止する。
- 07.30 土坑S025の調査および3層の掘削を行う。
- 07.31 溝S026、竪穴建物S027、土坑S028の調査を行う。
- 08.19 溝S026、竪穴建物S027、土坑S028の調査を行う。
- 08.20 溝S026、竪穴建物S027、土坑S028の調査を行う。
- 08.21 完掘状況を撮影する。
- 08.22 調査区西壁の土層断面を実測・撮影する。

2区

2003年

- 06.02 表土剥ぎを開始する。
- 06.03 調査区整備を行う。
- 06.04 遺構検出を行う。
- 06.05 本日より非常勤職員 米村俊治・松野直子氏が調査に加わる。遺構検出および検出遺構の調査を行う。
- 06.06 調査区東側の黒色砂層および1層の掘削を行う。
- 06.09 表土剥ぎ終了状況の撮影を行う。
- 06.10 調査区北東端に設定したトレンチ内より、溝を検出する。
- 06.11 調査区北側で新しい時期（近世？）の溝を検出する。
- 06.12 雨天の為、調査を午前中で終了する。調査区北西～南西部分の表土剥ぎを行う。その結果、調査区南西端より弥生土器が大量に出土するので、竪穴建物などが想定される。
- 06.13 引き続き表土剥ぎを行う。調査区全体を2層まで掘削する。その間、調査区北端で検出された溝からは、針金などが出土している。
- 06.14 引き続き表土剥ぎを行う。

- 06.16～19 雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で、出土遺物の整理などを行う。
- 06.20 調査区内に溜まった雨水の排水および崩落土の処理を行う。
- 06.21 引き続き表土剥ぎを行う。
- 06.24 調査区内に溜まった雨水の排水および崩落土の処理を行う。
- 06.25 熊本市教育委員会文化財課 林田和人文化財保護主事が来跡する。土層断面の2層中程に中世の面があるとの指導をいただく。連日の降雨による流出土砂の除去など調査区の復旧作業を行う。その後、調査区北側で検出された柱穴群の調査を行う。調査の結果、近現代の遺構と判断する。
- 06.26 調査区北側柱穴群の調査および南側遺構検出を行なう。調査区南側で認められる竪穴建物は、複数の溝によって削平を受けている。
- 06.27 調査を中止する。
- 06.30 雨天の為、調査を午前中で中止する。調査区東側を4層まで掘削し、遺構検出を行う。竪穴建物や溝などが確認され、遺物の出土量も多い。
- 07.01 雨天の為、調査を中止する。
- 07.02 検出した「溝1～3（飯称）」の調査を行う。
- 07.03 「溝1（飯）」を中心に調査を行う。
- 07.04 雨天の為、調査を中止する。
- 07.07 調査区北側の2層掘削および遺構検出を行う。
- 07.08 遺構検出および包含層掘削を行う。
- 07.09 遺構検出および包含層掘削を行う。
- 07.10 検出溝の調査および遺構検出を行う。
- 07.11 平面とトレーニング断面の双方から検出された溝の調査を行う。
- 07.12 調査区が冠水したため、終日排水作業を行う。
- 07.14 調査区が冠水しており、調査を中止する。
- 07.15 雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で、実測図面の整理や今後の調査方針について検討する。
- 07.16 連日の降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。
- 07.17 竪穴建物S017・018の調査を開始する。
- 07.18 竪穴建物S017・018の調査を行う。S018は四隅にベッド状遺構を確認する。
- 07.22 株式会社 水野建設コンサルタントによるメッシュ杭の設置を行う。降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。
- 07.23 竪穴建物S012・017・018の調査を行う。
- 07.24 雨天の為、調査を午前中で中止する。
- 07.26 検出した竪穴建物の調査を行う。
- 07.28 竪穴建物S012・017・018の調査を行う。
- 07.29 雨天の為、調査を中止する。
- 07.30 竪穴建物S011・017・018、溝S021の調査および4層掘削を行う。
- 07.31 竪穴建物S011・012・022・023、土坑S019、溝S020・021の調査を行う。
- 08.04 竪穴建物S011・012・017・018、土坑S019、溝S020・021・022の調査を行う。
- 08.05 竪穴建物S011の調査および4層の検出を行う。4層上面に複数の遺構を確認する。
- 08.06 熊本県文化課 宮崎敬士主任学芸員が来跡する。竪穴建物S011・017・018・023・029の調査および4層の掘削を行う。
- 08.07 河野真理子教諭が来跡する。竪穴建物S017・018・029の調査および包含層の掘削を行う。竪穴建物S029からは柱穴や柱穴、ベッド状遺構は検出できなかつた。
- 08.08 台風の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。
- 08.11 熊本県文化課 成瀬烈大課長が来跡する。竪穴建物S011・012・016～019・023・030の調査および包含層の掘削を行う。新たに竪穴建物S030を検出する。
- 08.12 雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理および出土遺物の洗浄を行う。
- 08.13～17 盆体
- 08.18 竪穴建物S011・016・023の調査を行う。
- 08.19 竪穴建物S011・016・022・023・030の調査を行う。新たに竪穴建物S031・032を検出し、調査を開始する。
- 08.20 竪穴建物S011・016・022・030～032の調査を行う。竪穴建物S022・030～032において床面を検出する。
- 08.21 竪穴建物S011・016・027・030～032、溝S022の調査および2層掘削を行う。
- 08.22 熊本県文化課 非常勤職員 横山明代、岡田基子、坂本千恵氏が来跡する。竪穴建物S011・016・030～032の調査および検出溝の調査を行う。この溝は弥生時代の竪穴建物より後出する。
- 08.25 竪穴建物S001・014・030の調査を行う。新たに竪穴建物S035を検出し、調査を行う。
- 08.26 雨天のため、調査を中止する。
- 08.27 竪穴建物S001・014・016・030の調査を行う。
- 08.28 荒天のため、発掘調査は午前中で中止する。竪穴建物S001・015・036の調査を行う。
- 08.29 竪穴建物S001・015・017・030・036～039の調査を行う。
- 08.30 検出遺構をほぼ完掘し、調査区の完掘状況を撮影する。

8.31 壁穴建物 S001 の調査および調査区南壁土層断面の実測を終了し、2区の調査を完了する。

3区

2003年

06.23 表土剥ぎを開始する。

06.25 表土剥ぎを行う。

07.01 表土剥ぎを行う。

07.04 表土剥ぎを行う。

07.07 表土剥ぎを行う。現在2層上面まで掘削を行っている。

07.08 調査区北側の2層の掘削を行う。畠または水田の区画と推定される遺構を確認する。

07.09 2層の掘削を行う。

07.10 2層の掘削を行う。

07.11 2層の掘削および遺構検出を行う。

07.16 連日の降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧を行う。あわせて、調査区周辺に排水溝を掘削する。

07.17 2層および調査区周辺の排水溝掘削を行う。

07.18 表土剥ぎを行う。

07.22 降雨による流出土砂の除去など、調査区の復旧および排水溝掘削を行う。

07.23 2層の掘削を行う。

07.24 雨天の為、調査を午前中で中止する。表土剥ぎを終了する。

07.26 調査区整備を行う。

07.28 検出した近代の溝の掘削を行う。

07.29 雨天の為、調査を中止する。

08.06 調査区北東端の3層掘削を行う。

08.07 調査区北東端の3層掘削を行う。

08.08 台風の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。

08.11 調査区北東端の3層掘削を行う。

08.12 雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理および出土遺物の洗浄を行う。

08.13～17 盆体

08.18 L8グリッドより南北に走行する溝を2条検出する。この2条の溝は検出状況から近代のものと判断する。

08.21 検出した近代の溝の調査を行う。これまでの溝と切り合い関係にある新たに近代の溝を検出し、調査を行う。

08.25 表土剥ぎを行う。

08.28 荒天のため、発掘調査は午前中で中止する。調査区整備を行う。

09.01 調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。

09.02 調査区整備を行う。

09.03 調査区東側の先行引き渡し範囲の北側の遺構検出を行う。掘立柱建物 S046、壁穴建物 S048・049、柱穴群を検出し、調査を開始する。

09.04 掘立柱建物 S046・047、壁穴建物 S048～050、溝 S051～053の調査を行う。

09.05 壁穴建物 S048～050、溝 S053の調査を行う。

09.08 壁穴建物 S048～050の調査を行い、新たに壁穴建物 S057・059、井戸 S058、溝 S064を検出し、調査を開始する。

09.09 掘立柱建物 S046・047、壁穴建物 S050、溝 S053の調査および調査区北西端の遺構検出を行う。遺構検出では複数の壁穴建物や溝が確認された。

09.10 壁穴建物 S065・066、溝 S064の調査を行う。

09.11 壁穴建物 S048・065・066、溝 S051～053の調査を行う。

09.12 検出遺構の調査を中心に行う。

09.13 重機を用いて、近代に堆積した3層の除去を行う。

09.16 本日より、株式会社九州文化財研究所が遺構実測業務を開始する。3層の除去は本日で終了する。壁穴建物 S048・050、井戸 S056、検出柱穴の調査を行う。

09.19 壁穴建物 S080の中央、床面上より小形彷製鏡が出土する。鏡面を上方、鏡を床面に接して出土した。鏡の周囲には炭が多く含まれており、鏡面にはベンガラ様の赤土が付着していた（裏面にはない）。

09.22 壁穴建物 S057・059・067・080～083・089・092・095～097の調査を行う。

09.23 壁穴建物 S048・050・067・084・100の調査を行う。

09.24 壁穴建物 S048・050・066・067・069・080・082～084・089・092・095・096・099・101、溝 S051の調査を行う。

09.25 壁穴建物 S097・099・110・112の調査を行う。

09.29 壁穴建物 S095・114・120・121・122・125・130の調査を行う。

09.30 本日、調査区の一部を鉄道・運輸機構に引き渡す。壁穴建物 S049・050・121・123～125の調査を行う。

10.02 壁穴建物 S064・069・088・090・092・095・097・101・102・106・130の調査を行う。

10.07 本日より、非常勤職員 和田敏郎氏が調査に加わる。壁穴建物 S085・097・099・102・108・132～135・137の調査を行う。

10.08 壁穴建物 S085・093・108・133・135・137・141の調査を行う。

10.09 壁穴建物 S108・132～135・141・147～152の調査を行う。

- 10.13 壁穴建物 S086・088・093・102・108・132・134・137・144・147・153の調査を行う。
- 10.15 壁穴建物 S049・150・154～157の調査を行う。
- 壁穴建物 S156 の埋土中より小形彷製鏡とガラス玉が出士する。
- 10.16 本日より、非常勤職員 横田光智氏が調査に加わる。検出壁穴建物の調査を行う。
- 10.18 壁穴建物 S066・087・104・105・153・166の調査を行う。
- 10.27 空中写真撮影および完掘状況の撮影を行う。
- 02.19 壁穴建物 S003・013～015の調査及び遺構検出を行う。
- 02.20 壁穴建物 S013～015の調査を行う。
- 02.27 調査区西側の複雑部の掘削及び壁穴建物 S013・015、土坑 S020・021の調査を行う。
- 02.28 壁穴建物 S003・013、土坑 S017～022の調査を行う。検出遺構を全て完掘し、調査区全体の完掘写真を撮影した。

4 区

2003 年

- 09.09 清掃を開始する。
- 09.10 包含層を掘削する。3区で弥生時代の壁穴建物の検出面とした橙色の層を確認する。
- 09.11 検出した溝やイモ穴を完掘し、4区の完掘状況を撮影する。
- 09.12 検出遺構の実測を行う。

5 区

2003 年

- 08.27 調査予定地の周辺整備を開始する。
- 09.02 調査区整備を行う。
- 09.03 遺構検出を開始する。東西方向に走行する溝や井戸を検出する。これら検出遺構に S041～045 の名称を付す。
- 09.04 井戸 S041 の調査を行う。
- 09.05 検出遺構の調査を行う。
- 09.08 井戸 S041・061、イモ穴 S042・043、溝 S044・045・060・062・063 を完掘する。
- 09.09 完掘状況を撮影する。
- 09.10 検出遺構の実測を行う。
- 09.16 検出遺構の実測を行う。

排水処理槽予定地

2004 年

- 02.12 調査区整備を行う。
- 02.13 引き続き調査区整備を行う。
- 02.16 摂乱坑の掘削および溝 S001、壁穴建物 S003、土坑 S004などを検出し、調査を開始する。
- 02.17 摂乱坑の掘削および溝 S001、壁穴建物 S003、土坑 S004 等検出遺構の調査を行う。
- 02.18 調査区の西側は擾乱が著しく、掘削に時間を要している。壁穴建物 4軒など新たな遺構も検出されている。

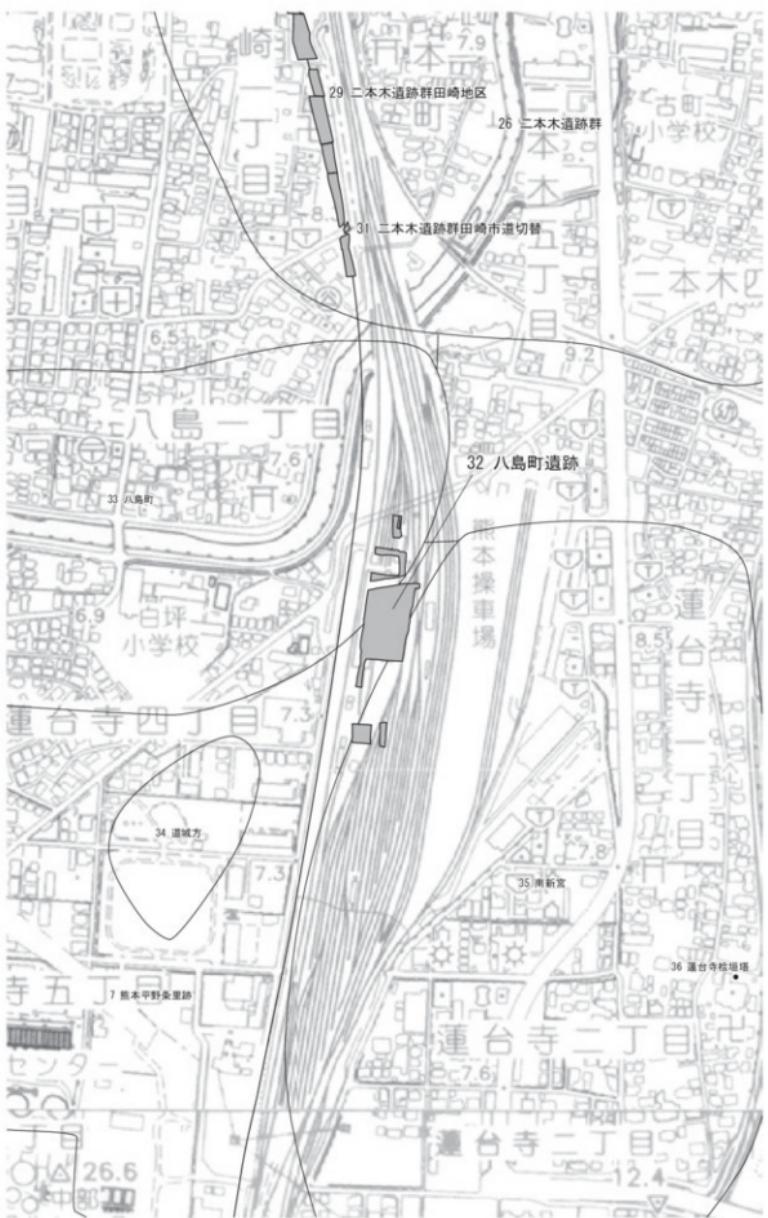


Fig.3 遺跡の位置図 1/5000

第3章

遺構



Fig.4 調査区全体図 S=1/1000

- 17 -

1 調査1区

(1) 概要 (Fig.5)

1区は今回発掘調査を行った全調査区のなかで最も北に位置し、J-1 グリッド～J-3 グリッドにかけて設定された。その平面形は南北に全長 13.5 m、東西に最大幅 2.5 m を測る長方形を呈し、発掘調査面積は 31.4m²である。

(2) 遺構各説

a 溝

S026 (Fig.5)

J-2・3 グリッドで検出した。幅 371cm、検出面からの深度は 77cm を測り、断面形は緩やかな鉤鉢状を呈する溝である。重複する溝 S025 を削平し、両端は調査区外へ延びる。検出東西辺から推測される遺構の主軸は N-84°・E を測る。

S025 (Fig.5)

J-2 グリッドで検出した。検出最大幅 163cm、検出面からの深度は 33cm を測り、断面形は緩やかな鉤鉢状を呈する溝である。重複する溝 S026 に削平され、両端は調査区外へ延びる。検出東西辺から推測される遺構の主軸は N-64°・E を測る。

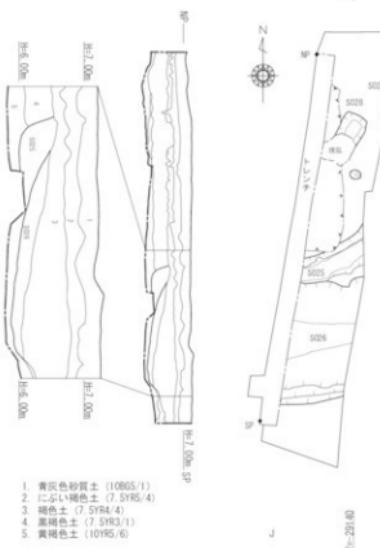
b 土坑

S024 (Fig.5)

K-1 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びるため、平面形は不明である。検出長は 93cm、検出面からの深度は 50cm を測る。

S028 (Fig.5)

J・K-1 グリッドで検出した。遺構の南側は擾乱坑によって削平される。平面形は楕円形を呈すると推測され、検出長は 78cm、検出面からの深度は 12cm を測る。基底直上には灰色の荒砂が敷詰められていた。



2 調査2区

(1) 概要 (Fig.6)

2区は1区の12m南側に位置し、F-7グリッド～D-14グリッドにかけて設定された。平面形は最大南北長24m、最大東西長35m、最大幅8.7mを測る。
Xe-24905「コ」字形を呈する。その発掘調査面積は452m²を測る。

本調査区からは、溝11条、井戸1基、
5 積穴建物18軒、土坑2基、柱穴などを検出した。調査区の北側は東西方向に走行する溝が認められたのに対して、
Xe-24910 調査区中央から南側にかけては積穴建物の集中が認められた。これらの積穴建物は、出土遺物から弥生時代後期に
6 比定できる。

(2) 遺構各説

a 積穴建物

S001 (Fig.8)

E-13・14グリッドで検出した。遺構の西側および南側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確で

ある。検出長軸4.7m、検出短軸3.5mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は42cmを測る。検出長軸から推測される遺構の主軸はN-13°-Wを測る。

遺構の北側および南東・南西では、ベッド状遺構(B1～B3)を検出した。B1は遺構北側東西辺に沿って検出した。その上面は遺構北端壁面に接しており、最大幅97cm、最少幅53cmの不定形な方形を呈し、遺構北東端で収束する。その高さは床面と比較して、20cm高く構築されている。B2は遺構東側南部で検出した。その上面は検出長辺230cm、検出短辺177cm、幅74cmの台形を呈し、床面と比較して20cm高く構築されている。B3は調査区南西隅で僅かに検出した。したがって、平面形・規模は不明である。その上面の検出最大長辺は54cmを測り、床面と比較して6cm高く構築されている。土坑は2基(K1・K2)を検出した。K1は遺構中央で検出した。その平面形は長軸66cmの楕円形を呈する。床面からの深度は21cmを測り、基底は北東に向かって緩やかに傾斜する。K2はK1の西側で検出し、西側の一部は柱穴P1に削平される。その平面形は長軸85cm、短軸70cmの楕円形を呈する。床面からの深度は10cmを測り、基底は平坦面を形成する。柱穴は3基(P1～P3)を検出した。P1は遺構西側中央で検出し、K2を一部削平する。その平面形は長軸20cmの円形を呈し、床面からの深度は34cmを測る。P2は遺構東側中央で検出し、B2を一部削平する。その平面形は長軸26cmの円形を呈し、床面からの深度は28cmを測る。P3は遺構中央南部で検出した。その平面形は長軸24cmの円形を呈し、床面からの深度は6cmを測る。その内、P1・P2の芯心距離は354cmを測る。本遺構では出土した甕・壺・高杯・鉢や敲石を図化した(Fig.49～51・73)。

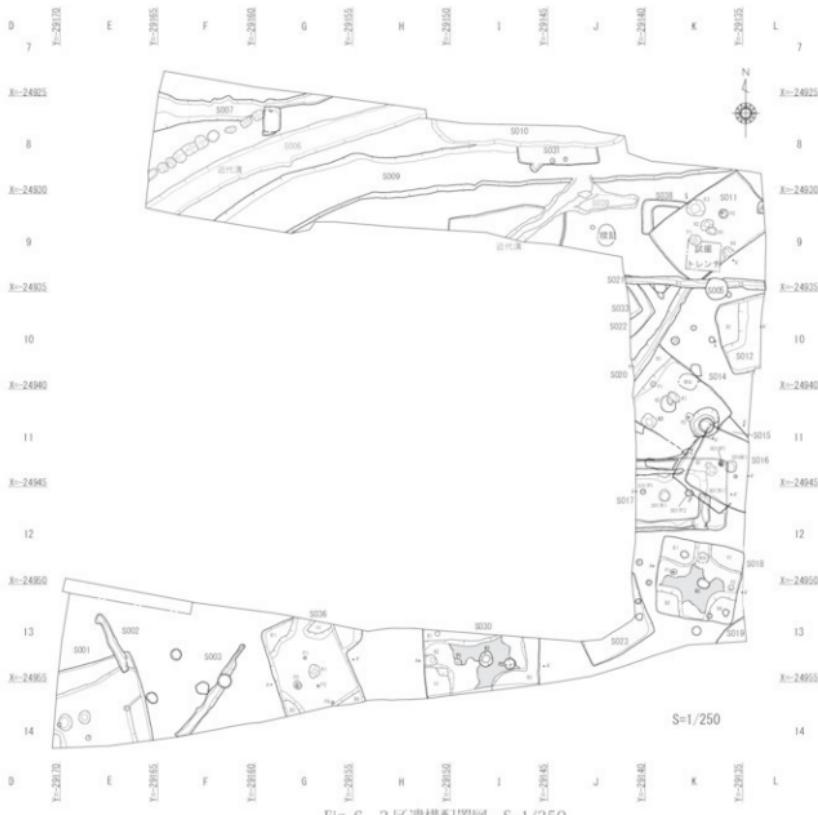


Fig. 6 2区遺構配置図 S=1/250

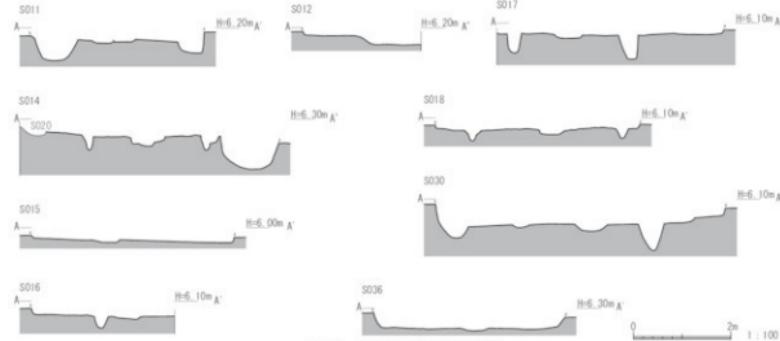


Fig.7 2区豎穴建物断面図

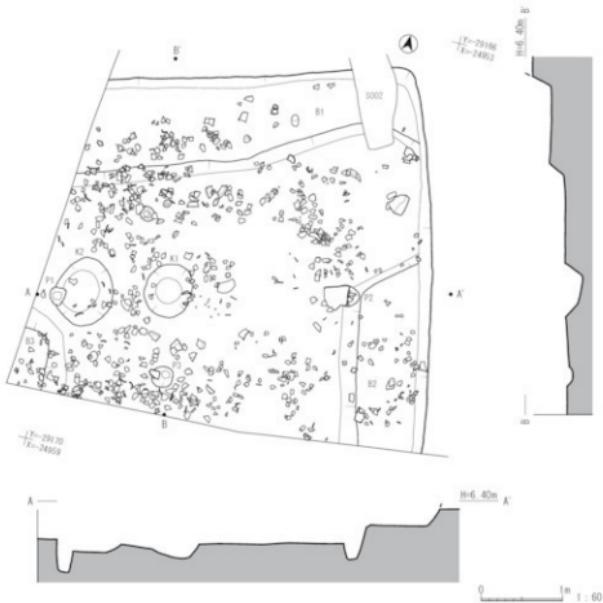


Fig. 8 堆穴建物 S001 遺構実測図

S011 (Fig.6・7)

K-9 グリッドで検出した。遺構の東側は調査過程の過掘削のために不明確であるが、平面形は、長軸 5.7 m、短軸 3.6 m の長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30 cm を測る。遺構の主軸は N-54°-E を測る。

本遺構では土坑 4 基 (K1 ~ K4) を検出した。K1 は遺構中央で検出し、K2 に後出す。K1 は長軸 57cm、短軸 39cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K2 は遺構中央で検出し、遺構の東側は K1 に削平される。K2 は長軸 71cm、短軸 47cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1・K2 は共に焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。その重複関係から K2 廃絶の後、K1 が作成されたと推測する。K3 は遺構西側中央で検出した。K3 は長軸 93cm、短軸 90cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 42cm を測る。その断面形状は「V 字」形を呈する。K4 は遺構東側中央で検出した。K4 は長軸 54cm、短軸 54cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 25cm を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 64cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 64cm を測る。P2 は遺構北側中央で検出した。その平面形は長軸 50cm の円形を呈し、床面からの深度は 63cm を測る。その基底から 13 上方には幅 19cm の段が巡る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 197cm を測る。

S012 (Fig.6・7)

K-L-10 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 3.6 m、検出短軸 2.5 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30cm を測る。遺構の主軸は N-10°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 201cm、東西長 116cm を測り、長方形を呈し、床面と比較して 20cm 高く構築されている。

S014 (Fig.6・7)

K-10・11 グリッドで検出した。遺構の北側は後出する溝 S020、東側は掠乱坑、南側は井戸や竪穴建物 S015 によって削平され、西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 5.6 m、短軸 3.6 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 18cm を測る。遺構の主軸は N - 47° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 の南側は調査区外へ延びる。したがって、その平面形・規模は不明確である。上面は長軸 288cm、短軸 91cm を測り、長方形を呈すると推測され、床面と比較して 8 cm 高く構築されている。土坑は 3 基 (K1 ~ K3) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 68cm、短軸 44cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 13cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K2 は K1 と重複して検出した。その北側は K1 に削平されているが、長軸 42cm、短軸 25cm の長楕円形を呈し、基底からの堀込は 19cm を測る。K1・K2 は共に焼土や炭化物を含有しており、か跡である。その重複関係から K2 痛絶の後、K1 が作成されたと推測する。また、K1・K2 を中心に床面全体に硬化面の広がりを確認した。K3 は遺構南側中央で検出した。K3 は長軸 74cm、短軸 62cm の隅丸方形を呈し、床面からの深度は 14cm を測る。その断面形状は擂鉢状を呈する。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は遺構西側中央で B1 に接して検出した。その平面形は長軸 28cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 34cm を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 45cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 27cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 250cm を測る。

S016 (Fig.6・7)

K-11・12 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S015・017 に後出する。遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 3.4 m、短軸 3.4 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 18cm を測る。遺構の主軸は N - 65° -W を測る。

本遺構では土坑を 1 基 (K1) 検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 63cm、短軸 56cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 6 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、か跡である。柱穴は 1 基 (P1) を検出した。P1 は遺構中央で検出した。その平面形は長軸 29cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 23cm を測る。

S017 (Fig.6・7)

K-11・12 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S016・015 に先行する。遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 4.7 m、短軸 3.7 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 11cm を測る。遺構の主軸は N - 88° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構北側および東側で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 465cm、南北長 342cm、最大幅 109cm、最少幅 54cm を測る「鍵」形を呈し、床面と比較して 3 cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 63cm、短軸 57cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 8 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は炭化物や灰を含有しており、か跡である。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 30cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 38cm を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 39cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 48cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 230cm を測る。

S018 (Fig.6・7)

K-12・13 グリッドで検出した。平面形は、長軸 4.3 m、短軸 4.0 m を測り、方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 8 cm を測る。遺構の主軸は N - 78° -W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 4 基 (B1 ~ B4) 検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 160cm、南北長 110cm を測る長方形を呈し、床面と比較して 10cm 高く構築されている。B2 は遺構北東隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 168cm、南北長 98cm を測る長方形を呈し、床面と比較

して5cm高く構築されている。B3は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長122cm、南北長96cmを測る長方形を呈し、床面と比較して11cm高く構築されている。B4は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長113cm、南北長124cmを測る長方形を呈し、床面と比較して8cm高く構築されている。土坑は1基（K1）を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸63cm、短軸46cmの楕円形を呈し、床面からの深度は8cmを測る。その基底は東側が最も深い。K1は炭化物を多く含有しており、炉跡である。また、K1を中心し硬面が広がる。柱穴は2基（P1・P2）を検出した。P1は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸34cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は21cmを測る。その基底から12cm上方には幅11cmの段を有する。P2は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸30cmの楕円形を呈し、床面からの深度は19cmを測る。P1・P2は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は306cmを測る。

S030 (Fig.6・7)

I・H-13グリッドで検出した。その両端は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は、長軸5.8m、検出短軸3.2mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は37cmを測る。遺構の主軸はN - 86°-Eを測る。

本遺構ではベッド状遺構を3基（B1～B3）検出した。B1は遺構北西側で調査区に沿って検出した。その上面は東西長376cm、南北長56cmを測る長方形を呈し、床面と比較して13cm高く構築されている。B2は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長151cm、東西長117cmを測る長方形を呈し、床面と比較して20cm高く構築されている。B3は遺構東側で壁面に沿って検出した。その上面は南北長226cm、最大幅234cm、最少幅59cmの「鍵」形を呈すると推測され、張出部の南北長は88cmを測る。B3は床面と比較して10cm高く構築されている。土坑は2基（K1・K2）を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸81cm、短軸69cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は13cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は炭化物を多く含有しており、炉跡である。また、K1を中心し硬面が広がり、焼土や炭が認められる。K2は遺構西側中央で壁面に接して検出した。K2は長軸60cm、短軸56cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は23cmを測る。柱穴は2基（P1・P2）を検出した。P1は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸37cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は6cmを測る。P2は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸55cmの円形を呈し、床面からの深度は54cmを測る。P1・P2は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は272cmを測る。

S036 (Fig.6・7)

G-13・14グリッドで検出した。遺構の両端は調査区外へ延び、北東部は重複する土坑に後出する。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は検出長軸4.8m、短軸4.0mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は25cmを測る。遺構の主軸はN - 24°-Wを測る。

本遺構ではベッド状遺構を4基（B1～B4）検出した。B1は遺構北西側で壁面に沿って検出した。その上面は東西長156cm、南北長109cmを測る歪な三角形を呈し、床面と比較して19cm高く構築されている。B2は遺構北東側で調査区に沿って検出した。その上面は南北長64cm、最大幅89cm、最少幅59cmを測る台形を呈し、床面と比較して14cm高く構築されている。B3は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長82cm、最大幅60cm、最少幅20cmの台形を呈し、床面と比較して15cm高く構築されている。B4は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長133cm、南北長60cmを測る三角形を呈し、床面と比較して20cm高く構築されている。土坑は1基（K1）を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸70cm、短軸58cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は4cmを測る。その断面形状は播鉢状を呈する。K1は炭化物を多く含有しており、炉跡である。柱穴は4基（P1～P4）を検出した。P1は遺構中央北側で検出した。その平面形は長軸16cmの円形を呈し、床面からの深度は24cmを測る。P2は遺構中央南側で検出した。その平面形は長軸13cmの円形を呈し、床面からの深度は24cmを測る。P3はP2の西方108cmで検出した。その平面形は長軸46cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は8cmを測る。その基底から4cm上方には幅11cmの段がある。P4は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸16cmの円形を呈し、床面からの深度は11cmを測る。



Fig. 9 3 JX造構配置図 S=1/500

3 調査3区

(1) 概要 (Fig.9)

3区は、2区の8.4 m南側に位置し、N-15 グリッド～B-35 グリッドにかけて設定された。平面形は最大南北長81.7 m、最大東西長53.4 mを測る長方形を呈し、南西隅に南北長29.4 m、東西長6.2 mの長方形の張り出し部を持つ。その発掘調査面積は3,693m²を測る。

本調査区からは、多くの竪穴建物や掘立柱建物などを検出した。調査区の中央から西側は竪穴建物の集中が認められるが、調査区東側では竪穴建物の密度が低くなる。これらの竪穴建物は、出土遺物から弥生時代後期に比定できる。

(2) 遺構各說

a 据立柱建物

S046 (Fig.10)

M-15・16 グリッドでP1～P14の14基の柱穴を検出した。桁行3間×梁行2間の総柱建物の北西部に桁行1間×梁行1間の張出部を有する。P4-P8 軸から想定する建物の主軸はN-27°Eを測る。

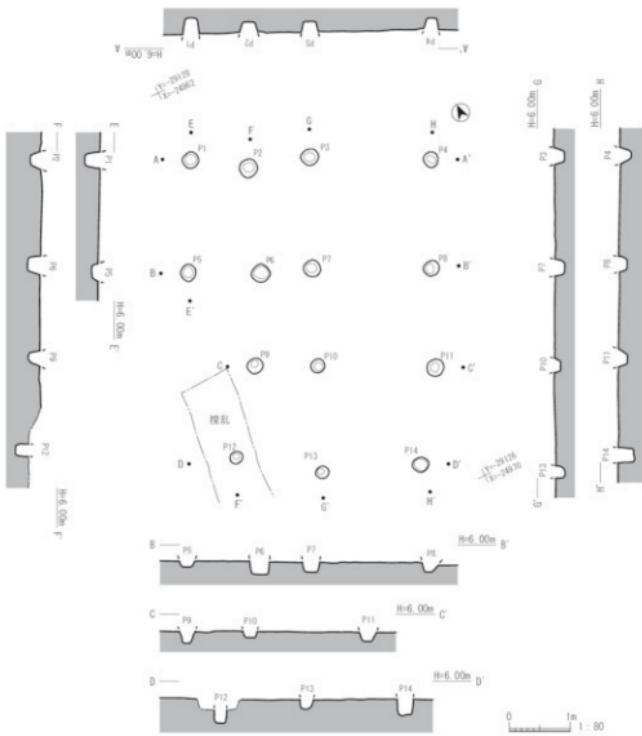


Fig.10 掘立柱建物 S046 遺構実測図

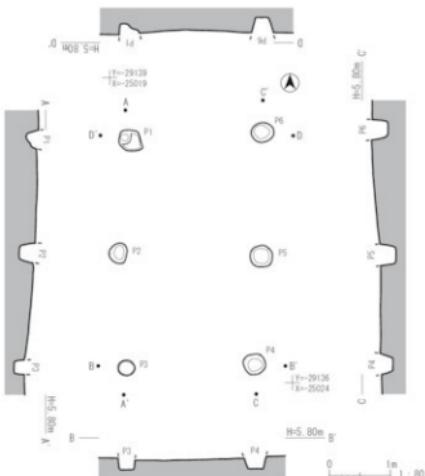


Fig.11 掘立柱建物S131遺構実測図

各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 22 ~ 30cm を測り、近似する。検出面からの深度は P5・P10 の 10cm、P12 の 40cm 以外は、15 ~ 28cm を測る。桁側の柱間は最大桁間 (P1-P5) 185cm、最小桁間 (P6-P9、P9-P12) 150cm を測る。梁側の柱間は最大梁間 (P3-P4) 200cm、最小梁間 (P6-P7) 85cm を測る。

S131 (Fig.11)

K-27 グリッドで P1 ~ P6 の 6 基の柱穴を検出した。桁行 2 間 × 梁行 1 間での側柱建物である。建物の主軸は N-0°-W を測る。各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 28 ~ 43cm、検出面からの深度は 16 ~ 26cm を測る。桁側の柱間は P1-P2 間が 188cm、P2-P3 間が 190cm、P5-P6 間が 204cm、P4-P5 間が 177cm を測る。梁側の柱間は P1-P6 間が 224cm、P3-P6 間が 214cm を測る。

b 積穴建物

S048 (Fig.12)

J・K-18・19 グリッドで検出した。平面形は長軸 4.9 m、短軸 4.4 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20cm を測る。東西辺から推測される遺構の主軸は W-5°-S を測る。遺構埋土は黒褐色土の單層である。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構南西隅で検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は南北長 192cm、幅 129cm の長方形を呈し、床面と比較して 9cm 高く構築されている。土坑は 2 基 (K1・K2) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は直径 80cm の円形を呈し、床面からの深度は 17cm を測る。その基底は西側に僅かな段を有する。K1 内は 3 層に分層され、焼土や炭化物を多く含む。また、K1 の北西側は検出長 58cm の炭化物の広がりが認められ、それらの上には焼土の広がりが認められる。よって K1 はが跡である。K2 は遺構中央南端で検出した。K2 はその南端を遺構壁面に接し、長軸 130cm、短軸 102cm の梢円形を呈する。床面からの深度は 7cm を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は 4 基を検出したが、ここでは P1・P2 の 2 基を報告する。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 40cm の円形を呈し、床面からの深度は 5cm を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 34cm の円形を呈し、床面からの深度は 12cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 428cm を測る。が跡から遺構北側にかけて多量の遺物が出土しており、甕・壺・鉢を同化した (Fig.52)。

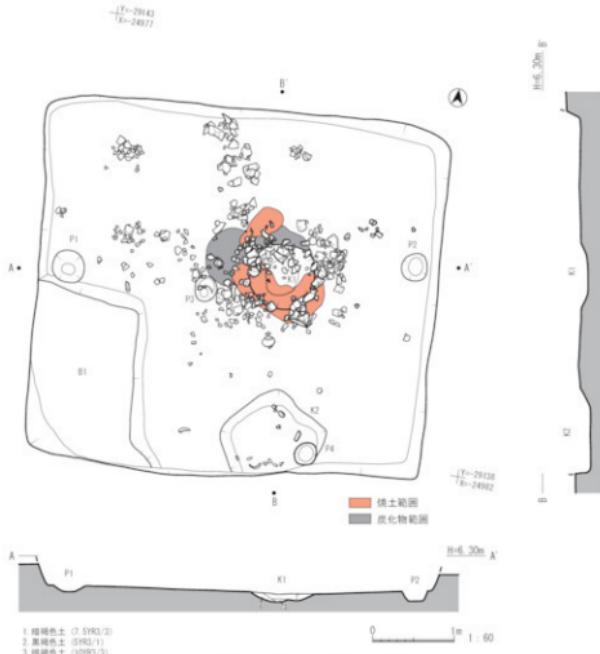


Fig.12 烧穴建物 S048 遺構実測図

S066 (Fig.13)

D・E-19 グリッドで検出した。平面形は長軸 5.8 m、短軸 5.0 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 40cm を測る。遺構の主軸は N-12°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構東側全体で検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は最大幅 112cm、最少幅 96cm の長方形を呈し、床面と比較して 14cm 高く構築されている。土坑は 3 基 (K1 ~ K3) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 95cm、短軸 79cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 4 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。K2 は K1 の北方 22cm で検出した。K2 は長軸 75cm、短軸 52cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 と K2 の長軸方向は約 90° 異なっている。K3 は B1 上で検出した。擾乱坑のため平面形・規模は不明確であるが、長軸 80cm の長楕円形を呈すると推測され、B1 上面からの深度は 18cm を測る。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は北側中央で検出し、K2 と重複関係にあり、K2 より後に出する。その平面形は長軸 27cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 16cm を測る。P2 は南側中央で検出した。その平面形は長軸 19cm の円形を呈し、床面からの深度は 13cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯距離は 329cm を測る。

本遺構の北部からは多量の遺物が出土した。これらの遺物量は本遺跡で最多である。ここでは、甕・壺・高环・鉢・砥石などを図化した (Fig.53 ~ 60)。

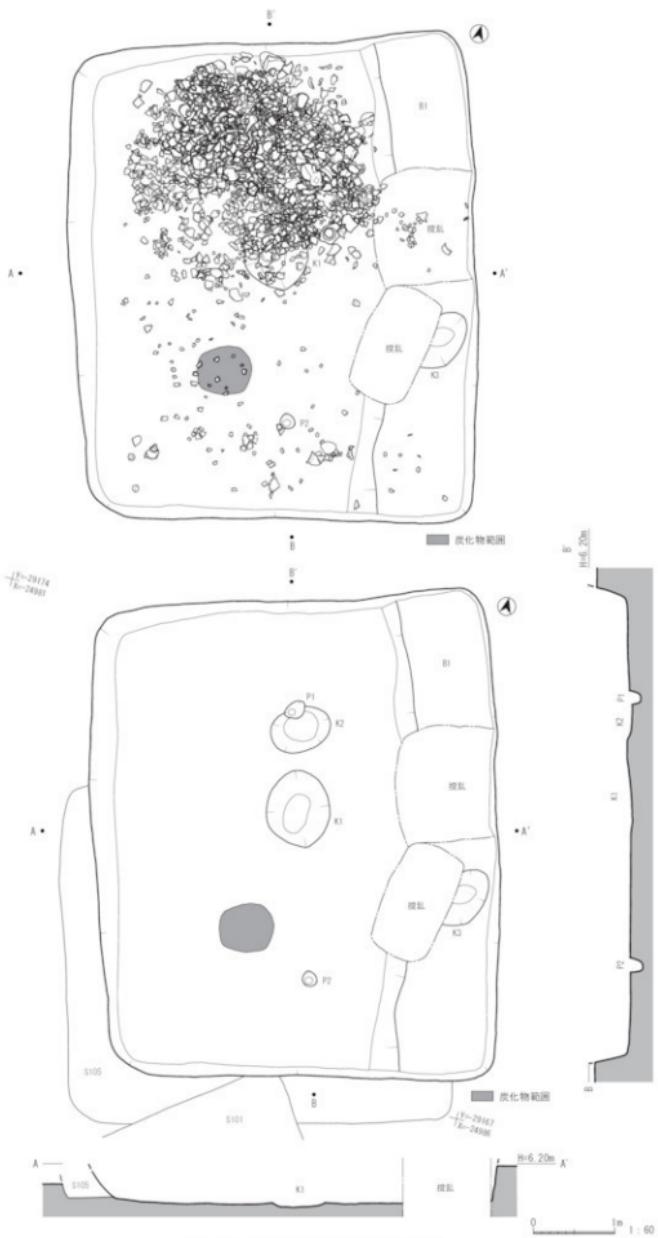


Fig.13 穹穴建物 S066 遺構実測図

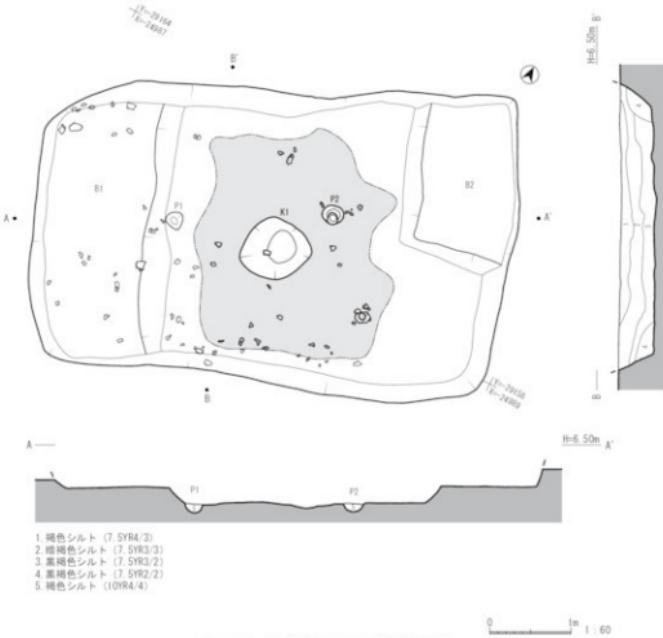


Fig.14 積穴建物S069 遺構実測図

S069 (Fig.14)

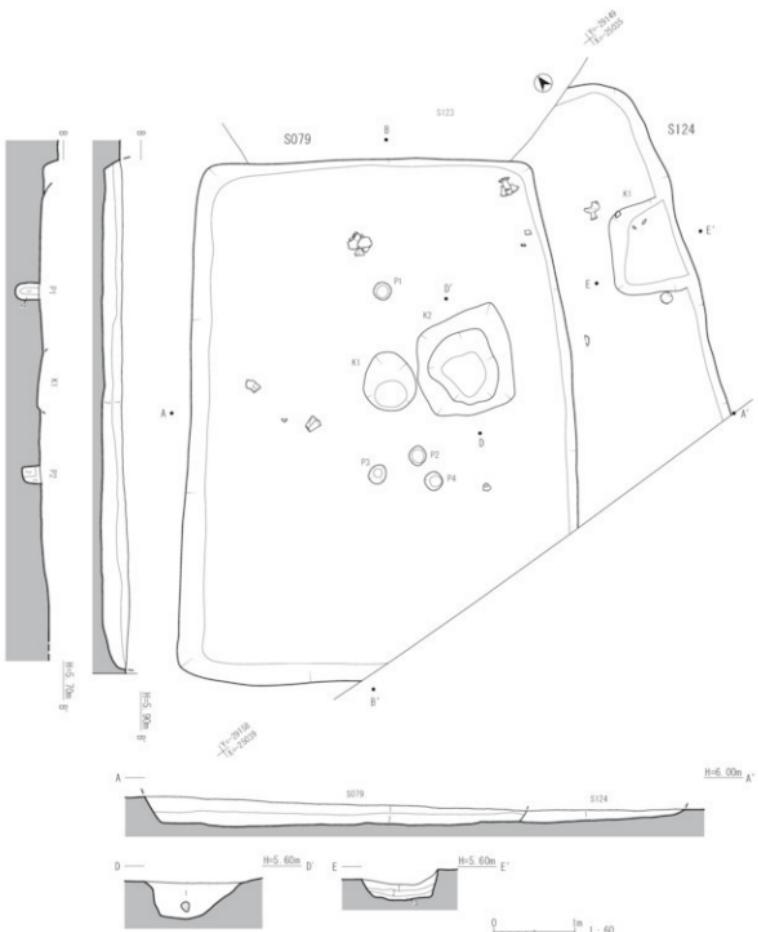
F・G-20 グリッドで検出した。重複する積穴建物S088・171より後出す。平面形は長軸 5.9 m、短軸 3.6 m の長方形を呈する。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 43cm を測る。遺構の主軸は N-66°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基 (B1・B2) 検出した。B1 は遺構西側全体で検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は南北長 308cm、東西長 131cm の長方形を呈し、床面と比較して 20cm 高く構築されている。B2 は遺構北東隅で検出した。B2 は遺構壁面に接しており、その上面は南北長 198cm、東西長 110cm の長方形を呈し、床面と比較して 20cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 90cm、短軸 77cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 4cm を測る。その断面形は捕鉢状を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、遺構中央では硬化面も検出した。硬化面は K1 を取り囲むように不定形に広がり、B1・B2 には至らない。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 22cm の円形を呈し、床面からの深度は 9cm を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 27cm の円形を呈し、床面からの深度は 9cm を測る。本遺構では出土した安山岩製の石礫を図化した (Fig.72)。

S079 (Fig.15)

G・H-30 グリッドで検出した。重複する積穴建物S123・124に先行する。遺構の南側は調査区外へ延びるが、平面形は長軸 6.4 m、短軸 4.7 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、検出面から床面までの深度は 19cm を測る。遺構の主軸は N-42°-E を測る。

本遺構では土坑 2 基 (K1・K2) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 72cm、短軸 64cm の楕



S079

1. 黒褐色シルト (SYR2/3)
2. 黒褐色シルト (SYR2/2) 売土を多く含む

S079(P1)

1. 滅褐色シルト (SYR2/2)
2. 黒褐色シルト (SYR3/1)

S079(P2)

1. 滅褐色シルト (SYR4/3)
2. 滅褐色シルト (SYR4/6)

S124

1. 滅褐色シルト (SYR4/3)

D-D'

1. 明赤褐色シルト (SYR3/2)

E-E'

1. 黒褐色シルト (SYR2/1)

2. 黒褐色シルト (SYR2/1)

3. 赤褐色シルト (SYR2/3)

Fig.15 積穴建物 S079・S124 遺構実測図

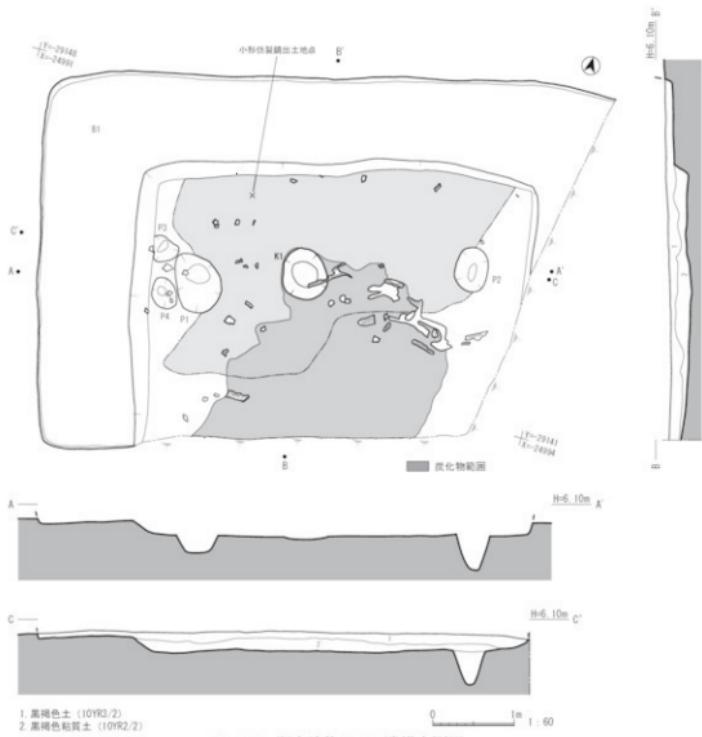


Fig.16 窓穴建物 S080 遺構実測図

円形を呈し、床面からの深度は3cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。K2はK1の東方に隣接して検出した。K2は長軸122cm、短軸119cmの隅丸方形を呈し、床面からの深度は43cmを測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は4基(P1～P4)を検出した。P1は北側中央で検出した。その平面形は長軸22cmの円形を呈し、床面からの深度は28cmを測る。P1からは、幅9cm、床面からの深度23cmの柱痕跡が土層断面より確認された。P2は南側中央で検出した。その平面形は長軸24cmの長梢円形を呈し、床面からの深度は22cmを測る。P3はP2の東側で検出した。その平面形は長軸24cmの円形を呈し、床面からの深度は32cmを測る。P4はP3の南方で検出した。その平面形は長軸22cmの円形を呈し、床面からの深度は44cmを測る。本遺構では、出土した器台・石包丁を図化した(Fig.61・72)。

S124 (Fig.15)

H-30グリッドで検出した。後出する窓穴建物S079・123によって遺構の西側の大半は削平され、南端は調査区外へ延びる。したがって、遺構の平面形・規模は不明である。平面形は検出長軸4.8m、検出短軸1.6mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面は緩やかに立ち上がり、検出面から床面までの深度は15cmを測る。長軸から推測される遺構の主軸はN-22°-Eを測る。

本遺構では土坑を1基(K1)検出した。K1は遺構中央東端で検出した。K1はその東端を遺構壁面に接し、長軸112cm、短軸79cmの隅丸方形を呈する。床面からの深度は27cmを測り、その基底は平坦面を形成する。本遺構では出土した台付鉢・鉢、砥石を図化した(Fig.65・74)。

S080 (Fig.16)

I-J-21 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S160 に後出し、遺構の東・南側は擾乱によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 6.2 m、短軸 4.4 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 18cm を測る。遺構の主軸は N 73° E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は北壁・西壁と接する。また、東壁もその検出状況から両壁と同様と推測され、その上面は幅 1 m の「コ」字形を呈する。床面と比較して 15cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 65cm、短軸 56cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 3cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、が跡である。柱穴は 4 基 (P1 ~ P4) を検出したが、ここでは P1・P2 について報告する。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 77cm、短軸 50cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 22cm を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 54cm、短軸 40cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 43cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯距離は 340cm を測る。

本遺構内には B1 北面から南側にかけて広範囲に硬化面が認められる。この硬化面は P1・P2 を避けて形成される。硬化面上の K1 周辺から遺構南側には、広範囲におよぶ炭化物や木目を残す炭化材が出土している。硬化面上からは、鏡面を上方に向けて、水平に安置された状態で小形彷製鏡 (Fig.72) が出土しており、図化した。



Fig.17 竪穴建物 S081 遺構実測図

S081 (Fig.17)

1-20 グリッドで検出した。遺構南東部を竪穴建物 S147 に削平される。また、遺構北側の一部は、遺構検出時にベッド状遺構 (B1) 上面まで削平する。平面形は長軸 5.1 m、短軸 3.5 m の長方形を呈する。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 15cm を測る。遺構の主軸は N-47° E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基 (B1・B2) 検出した。B1 は遺構北側で検出した。B1 の北側は過掘削のために不明確であるが、遺構北壁に接すると推測される。B1 の上面は、幅 115cm の長方形を呈し、西端から東方へ 107cm、南方へ 41cm の長方形の張出部を形成する。B1 は床面と比較して 12cm 高く構築されている。B2 は遺構南西隅で検出した。B2 は遺構東壁・南壁に接しており、その上面は南北長 124cm、東西長 106cm の長方形を呈する。柱穴は 3 基 (P1～P3) を検出した。P1 は北側中央の B1 上で検出した。その平面形は長軸 29cm の楕円形を呈し、B1 上面からの深度は 10cm を測る。P2 は北側中央で検出した。その平面形は長軸 29cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 23cm を測る。その基底から 8cm 上方には幅 5cm の段を有する。P3 は南側中央で検出した。その平面形は長軸 31cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 25cm を測る。P2・P3 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 194cm を測る。遺構中央の床面では炭化物塊および炭化物の集中部を検出した。

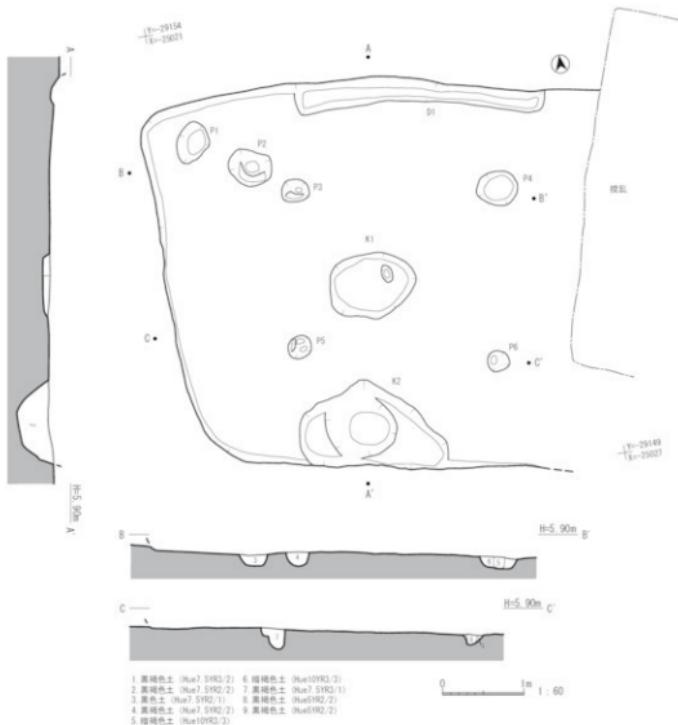


Fig.18 竪穴建物 S083 遺構実測図

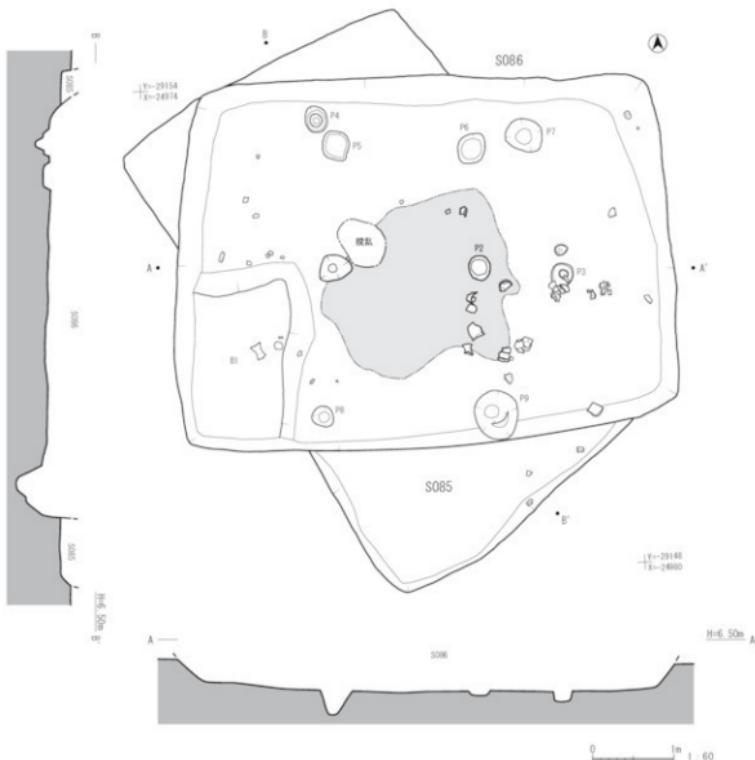


Fig.19 突穴建物 S085・086 遺構実測図

S083 (Fig.18)

H-27・28 グリッドで検出した。検出時の過掘削により検出状況は悪く、遺構全体の検出には至らなかった。西側は擾乱によって削平される。したがって、遺構の平面形・規模は不明確であるが、遺構の東側は擾乱によつて削平される。平面形は残存長軸 4.9 m、短軸 4.5 m を検出し、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 1 ~ 11 cm を測る。遺構の主軸は N-80°-W を測る。

本遺構では溝を 1 条 (D1) 検出した。D1 は遺構北側中央から東側で検出した。D1 は東西に走行し、長さは 305cm、幅は 26cm ~ 35cm を測り、床面からの深度は 10cm 程度である。その基底は平坦面を形成する。土坑は 2 基 (K1・K2) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 107cm、短軸 77cm の長椭円形を呈し、床面からの深度は 3 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。その基底の北東には長軸 22cm の長椭円形の堀込を有する。K1 基底からの深度は 5 cm を測る。K1 は焼土や炭化物を含有しており、煙跡である。K2 は遺構南側中央で遺構壁面に沿つて検出した。長軸 181cm、短軸 105cm の半円形を呈し、床面からの深度は 36cm を測る。その基底は平坦面を形成し、基底の 26cm 上方には幅 28 ~ 61cm の段が巡る。柱穴は 6 基 (P1 ~ P6) を検出した。P1・P2・P4 は長軸約 50cm を測り、床面からの深度は約 20cm を測る。P3・P5・P6 は長軸約 30cm を測り、床面からの深度は P3・P5 は約 30cm、P6 は 54cm を測る。本遺構では出土した砥石を図化した (Fig.75)。

S085 (Fig.19)

H-17・18 グリッドで検出した。後にする竪穴建物 S086 によって、その大半を削平される。したがって、隅部のみを検出した。平面形は長軸 6.5 m、短軸 4.1 m を測り、長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 13cm を測る。遺構の主軸は N-31°-W を測る。本遺構では出土した砥石を図化している (Fig.74)。

S086 (Fig.19)

H-1・18 グリッドで検出した。竪穴建物 S085 に後にする。平面形は長軸 6.1 m、短軸 4.6 m を測り、長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27cm を測る。遺構の主軸は N-90°-W を測る。遺構埋土は黒褐色シルトの單層である。

本遺構ではベッド状遺構 (B1) を検出した。B1 は遺構南西側で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 179cm、東西長 109cm の長方形を呈し、床面からの深度は 15cm を測る。柱穴は 9 基 (P1 ~ P9) を検出した。それらの長軸は 27 (P3・P8) ~ 59 (P9) cm を測り、床面からの深度は 3 (P6) ~ 65 (P4) を測る。ここでは主柱穴と想定される P1・P2 について報告する。P1 は中央西側で検出した。その平面形は長軸 40cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 31cm を測る。P2 は中央東側で検出した。その平面形は長軸 31cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 4 cm を測る。また、本遺構では遺構中央部に硬化面の広がりが認められた。出土した器台・鏡石を図化した (Fig.61・73)。

S089 (Fig.20)

D-22 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S090・091 に後出し、遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 5.3 m、短軸 4.3 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 44cm を測る。遺構の主軸は N-82°-W を測る。

本遺構では土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 74cm、短軸 64cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 10cm を測る。その断面形は擂鉢状を呈する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、か跡である。また、遺構南端中央の床面では、長軸 136cm、短軸 48cm の半円形の焼土の集中部を検出した。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 38cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 18cm を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 57cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 40cm を測る。その基底から 6 cm 上方には幅 22cm の段を有する。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯距離は 214cm を測る。本遺構では出土した壺を図化した (Fig.61)。

S091 (Fig.20)

C・D-23 グリッドで検出した。遺構の北側は竪穴建物 S089 に削平され、遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。長軸 4.2 m、検出短軸 3.0 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 22cm を測る。遺構の主軸は N-81°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構東側で検出した。B1 の北側は竪穴建物 S089 による削平のために不明確であるが、遺構東壁に接し、北側へ延びることが推測される。検出した B1 の上面は検出南北長 177cm、最大幅 116cm を測り、床面と比較して 14cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 92cm、短軸 76cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 7 cm を測る。その断面形は擂鉢状を呈する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、か跡である。また、K1 周辺には硬化面が広がる。硬化面上の K1 東側には炭化物が広がるが、その範囲は削平のために不明である。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 36cm の円形を呈し、床面からの深度は 25cm を測る。その基底から 9 cm 上方には幅 6 cm の段が巡る。P2 は東側中央の S201 下で検出した。その平面形は長軸 26cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 21cm を測る。その基底から 5 cm 上方には幅 8 cm の段を有する。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯距離は 217cm を測る。

S092 (Fig.21)

F・G-23・24 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S093 に後出す。平面形は、長軸 4.6 m、短軸 3.3 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 39cm を測る。遺構の主軸は N-84°・E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基 (B1・B2) 検出した。B1 は遺構東側で検出した。B1 は遺構西壁に接し、北端と南端は遺構東側へ向かって張り出し、「コ」字状を呈する。B1 の北端は東側へ 53cm、幅 96cm、南端は東側へ 117cm、幅 60cm、中央は幅 70cm を測る。B1 は床面と比較して 28cm 高く構築されている。B2 は遺構東側北部で検出した。遺構東壁に接し、その上面は南北に最大 174cm、最少 113cm、幅 79cm の台形を呈し、



Fig.20 竪穴建物 S089・S091 遺構実測図

床面と比較して27cm高く構築されている。土坑は1基(K1)を検出した。K1は遺構中央部で検出した。K1は長軸62cm、短軸55cmの楕円形を呈し、床面からの深度は6cmを測る。その断面形は擂鉢状を呈する。K1は焼土や炭化物を含有しており、が跡である。また、K1周辺には硬化面が広がり、土器片が多く出土している。柱穴は3基(P1～P3)を検出した。P1は西側中央で検出した。その平面形は長軸49cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は12cmを測る。P2は東側中央で検出した。その平面形は長軸69cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は27cmを測る。その基底から8cm上方には幅4～13cmの段が巡る。P1・P2は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は145cmを測る。ここでは、壺・鉢・台付鉢を図化した(Fig.61)。

S093 (Fig.21)

G-23・24グリッドで検出した。重複する竪穴建物S094に後出し、遺構の西側は竪穴建物S092に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は長軸4.4m、短軸3.0mの長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は13cmを測る。遺構の主軸はN-7°Wを測る。

本遺構では土坑を1基(K1)検出した。K1は遺構中央部で検出した。K1は長軸60cm、短軸50cmの楕円形を呈し、床面からの深度は5cmを測る。その基底は平面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、が跡である。柱穴は4基(P1～P4)を検出した。P1は北側中央で検出した。その平面形は長軸27cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は15cmを測る。P2はP1の南方13cmで検出した。その平面形は長軸27cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は20cmを測る。P3は南側中央で検出した。その平面形は長軸28cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は30cmを測る。その基底から7cm上方には幅5cmの段を有する。P4は東側南

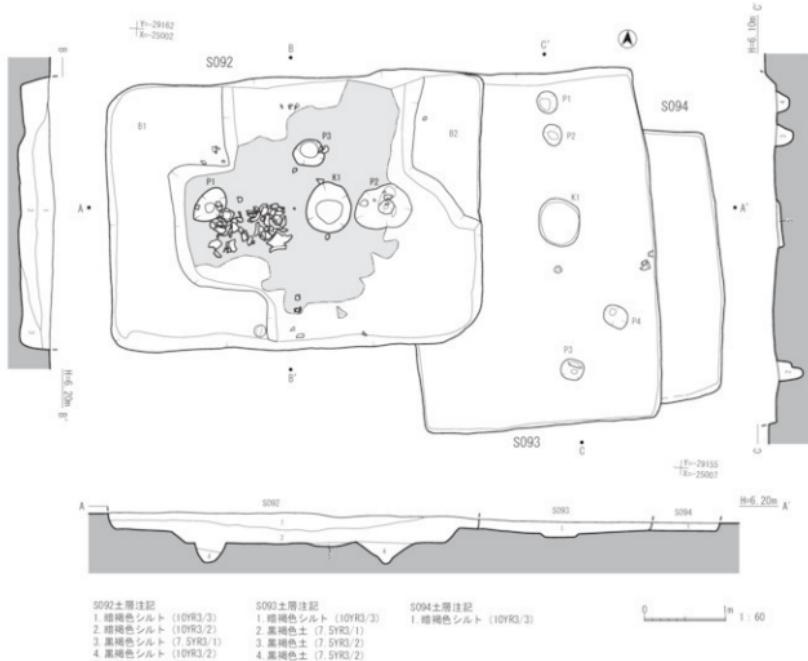


Fig.21 竪穴建物S092・S093・S094 遺構実測図

部で検出した。その平面形は長軸 32cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は 29cmを測る。出土した磨製石斧を図化した (Fig.73)。

S094 (Fig.21)

G-23・24 グリッドで検出した。後出する竪穴建物 S093 によってその大半を削平されている。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は残存長軸 3.3 m、残存短軸 0.8 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 10cmを測る。遺構の主軸は N-7° -W を測る。本遺構では遺構内遺構は検出できなかった。



Fig.22 竪穴建物 S095・S096 遺構実測図

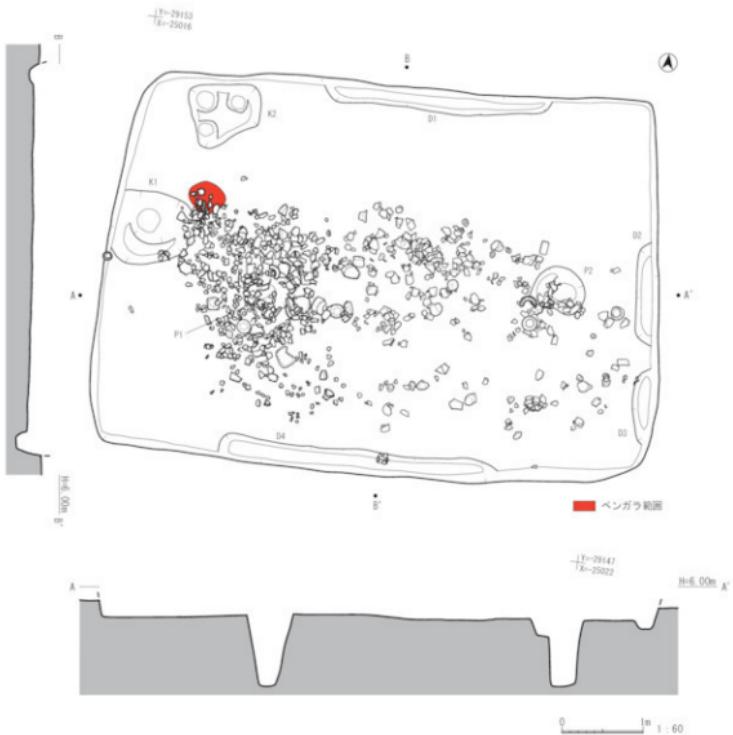


Fig.23 竪穴建物 S099 遺構実測図

S095 (Fig.22)

C-29 グリッドで検出した。遺構の南西部は後出する竪穴建物 S096 に削平され、西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は、検出長軸 4.8 m、短軸 3.5 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 12cm を測る。遺構の主軸は N-75°・E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基 (B1・B2) 検出した。B1 は遺構西側で検出した。B1 の西側は調査区外へ延びるため不明確であるが、遺構西壁に接すると推測される。その上面は南北長 114cm、検出幅 57cm の長方形を呈し、東方へ 90cm 張り出す。B1 は床面と比較して 21cm 高く構築されている。B2 は遺構東側北部で検出した。B2 の北側および東側は遺構壁に接し、その上面は南北長 209cm、幅 116cm の長方形を呈する。B2 は床面と比較して 13cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 92cm、短軸 85cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 11cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、灰跡である。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 22cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 28cm を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 30cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 23cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 179cm を測る。本遺構では出土した甕・壺・鉢を図化した (Fig.62)。

S096 (Fig.22)

C-30 グリッドで検出した。重複する S095 に後出し、西側は調査区外へ延びる。また、遺構南側中央は概乱坑によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は残存長軸 4.1 m、短軸 3.8 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20cm を測る。遺構の主軸は N-84°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構東側北部で検出した。B1 の北側および東側は遺構壁に接し、その上面は南北長 150cm、幅 125cm の長方形を呈する。B1 は床面と比較して 7cm 高く構築されている。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 28cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 9cm を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 31cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 42cm を測る。本遺構では出土した台付鉢を図化した (Fig.63)。

S099 (Fig.23)

H・I-26 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S113・164 に後出す。平面形は長軸 6.8 m、短軸 4.8 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 17cm を測る。遺構の主軸

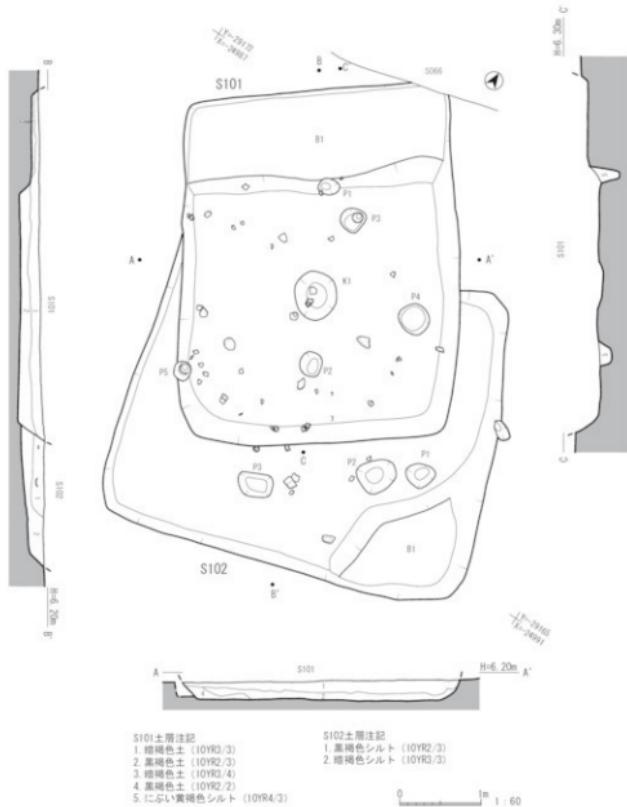


Fig.24 竪穴建物 S101・S102 遺構実測図

は N-87°・E を測る。

本遺構では溝を 4 条 (D1 ~ D4) 検出した。いずれも遺構壁に沿って検出されているが、全周には巡らない。D1 は遺構北側で壁面に沿って検出した。東西に走行し、長さ 280cm、幅 20cm を測り、床面からの深度は 4 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。D2 は遺構東側中央で壁面に沿って検出した。南北に走行し、長さ 128cm、幅 20cm を測り、床面からの深度は 9 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。D3 は D2 の南方 28 cm で壁面に沿って検出した。南北に走行し、長さ 94cm、幅 21cm を測り、床面からの深度は 9 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。D4 は遺構南側中央で壁面に沿って検出した。東西に走行し、長さ 94cm、幅 21 cm を測り、床面からの深度は 9 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。土坑は 2 基 (K1・K2) を検出した。K1 は遺構西端中央で壁面に接して検出した。K1 は長軸 96cm、短軸 92cm の梢円形を呈し、床面からの深度は 52cm を測る。その基底は平坦面を形成する。基底から 34cm 上方には幅 18cm の段を有する。K2 は遺構西で検出した。K2 は長軸 85cm、短軸 66cm の台形を呈し、床面から 8 cm 下方で長軸 62cm の基底に至る。その基底の北西側は長軸 23cm、深度 15cm、北東側は長軸 18cm、深度 23cm、南西側は長軸 19cm、深度 12cm の堀込みを持つ。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は西側中央で検出した。その平面形は長軸 57cm の梢円形を呈し、床面からの深度は 88cm を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 64cm の不定形な円形を呈し、床面からの深度は 81cm を測る。その基底から 60cm 上方には幅 15cm の段を有する。本遺構では出土した、甕・壺・鉢・石砲丁・磨石・砥石・磨製石斧を図化した (Fig.64・65・72 ~ 74・76)。

S101 (Fig.24)

D・E-20 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 S102 に後出し、遺構北西部の一部は竪穴建物 S066 に削平される。平面形は、長軸 4.2 m、短軸 3.4 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20cm を測る。遺構の主軸は N-35°・W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構西側で壁面に沿って検出した。その上面は幅 104cm の長方形を呈し、床面と比較して 22cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央部で検出した。K1 は長軸 60cm、短軸 51cm の梢円形を呈し、床面からの深度は 7 cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、がれ跡である。柱穴は 5 基 (P1 ~ P5) を検出した。ここでは主柱穴と想定される P1・P2 について報告する。P1 は西側中央の B1 に接して検出した。その平面形は長軸 26cm の長梢円形を呈し、床面からの深度は 25cm を測る。P2 は東側中央で検出した。その平面形は長軸 30cm の長梢円形を呈し、床面からの深度は 14cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 220cm を測る。本遺構では出土した鉢を図化した (Fig.65)。

S102 (Fig.24)

E-20・21 グリッドで検出した。遺構の西側から中央は後出する竪穴建物 S101 によって大きく削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は、長軸 4.6 m、短軸 3.9 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 17cm を測る。遺構の主軸は N-67°・E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構南東隅に壁面に沿って検出した。その上面は長軸 126cm、短軸 84cm、幅 87cm の台形を呈し、床面と比較して 25cm 高く構築されている。柱穴は 3 基 (P1 ~ P3) を検出した。P1 は東側北部で検出した。その平面形は長軸 37cm の長梢円形を呈し、床面からの深度は 13cm を測る。P2 は P1 の西方 13cm で検出した。その平面形は長軸 47cm の長梢円形を呈し、床面からの深度は 12cm を測る。P3 は中央で検出した。その平面形は長軸 43cm の長梢円形を呈し、床面からの深度は 9cm を測る。

S134 (Fig.25)

D・E-28 グリッドで検出した。遺構東側中央から南東部にかけて壊乱溝によって削平され、遺構中央も一部壊乱坑によって削平される。平面形は、長軸 7.2 m、短軸 4.5 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 24cm を測る。遺構の主軸は N-64°・E を測る。



Fig.25 積穴建物 S134 遺構実測図

本遺構ではベッド状遺構を2基（B1・B2）検出した。B1は遺構北及び西側で壁面に沿って検出した。その上面は東西長293cm、幅86cmの長方形を呈し、遺構西端で南方へ127cm、幅61cmの張出部を形成する。B1は床面と比較して19cm高く構築されている。B2は遺構北東隅に壁面に沿って検出した。その上面は長軸187cm、短軸135cmの長方形を呈し、床面と比較して11cm高く構築されている。溝は1条（D1）を検出した。D1は遺構南側中央で検出した。D1は幅16cmを測り、東西長209cmで収束する。床面からの深度は17cmを測り、その基底は中央が最も低い。土坑は1基（K1）を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸92cm、短軸48cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は6cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、灰燄である。また、K1以南には硬化面が広がる。柱穴は4基（P1～P4）を検出した。P1は西側中央のB1に接して検出した。その平面形は長軸54cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は23cmを測る。P2はP1の東方14cmで検出した。その平面形は長軸27cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は33cmを測る。P3は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸26cmの円形を呈し、床面からの深度は30cm測る。その基底から19cm上方には幅5cmの段が巡る。P4はB1とB2の間で検出した。その平面形は長軸32cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は7cmを測る。本遺構では出土した甕・壺・鉢を図化した（Fig.65）。S135（Fig.26）

D-26・27 グリッドで検出した。重複する積穴建物 S149 に後出す。平面形は、長軸4.3m、短軸4.2m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は22cmを測る。遺構の主軸はN-80°-Eを測る。

本遺構ではベッド状遺構を3基（B1～B3）検出した。B1は遺構西側全面で壁面に沿って検出した。その上面は最大幅124cm、最少幅88cmの長方形を呈し、床面と比較して20cm高く構築されている。B2は遺構北

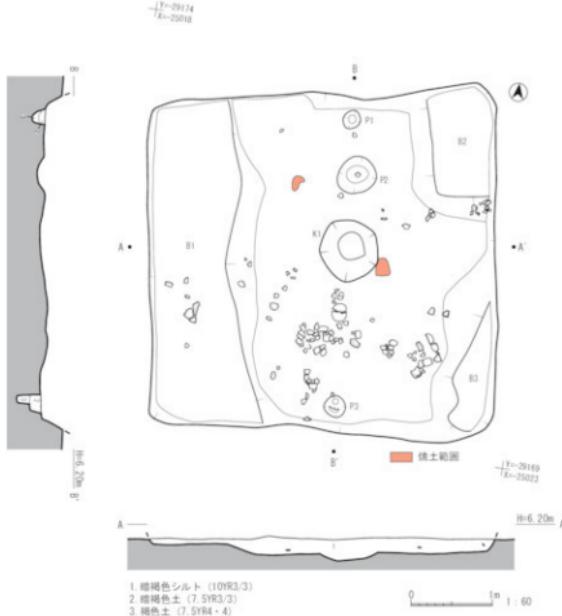


Fig.26 穴穴建物S135 遺構実測図

東隅に壁面に沿って検出した。その上面は長軸135cm、短軸77cmの長方形を呈し、床面と比較して14cm高く構築されている。B3は遺構南東隅に壁面に沿って検出した。その上面は長軸161cm、短軸43cmの不定形な方形を呈し、床面と比較して17cm高く構築されている。土坑は1基(K1)を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸76cm、短軸73cmの円形を呈し、床面からの深度は8cmを測る。その断面形は掘鉢状を呈する。K1は焼土や炭化物を含有しており、か跡である。柱穴は3基(P1～P3)を検出した。P1は北側中央で検出した。その平面形は長軸24cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は16cmを測る。P2はP1の南方35cmで検出した。その平面形は長軸49cmの楕円形を呈し、床面からの深度は9cmを測る。P3は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸26cmの円形を呈し、床面からの深度は30cmを測る。その基底から16cm上方には幅8cmの段を有する。本遺構では出土した壺・鉢を図化した(Fig.65・66)。

S137 (Fig.27)

F・G-28グリッドで検出した。重複する竪穴建物S138・163に後出し、溝S122に遺構中央から南西にかけて削平される。平面形は長軸6.3m、短軸4.7mを測り、長方形を呈する。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は20cmを測る。遺構の主軸はN-35°-Wを測る。

本遺構ではベッド状遺構を3基(B1～B3)検出した。B1は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長324cm、最大幅164cm、最少幅114cmの「鍵」形を呈し、床面と比較して23cm高く構築されている。B2は遺構北東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長73cm、東西長48cmの長方形を呈し、床面と比較して12cm高く構築されている。B3は遺構南西隅で壁面に沿って検出したが、その大半は削平を受ける。したがって、平面形・規模は不明確であるが、その上面は東西長266cm、南北長97cmを測り、長方形を呈す

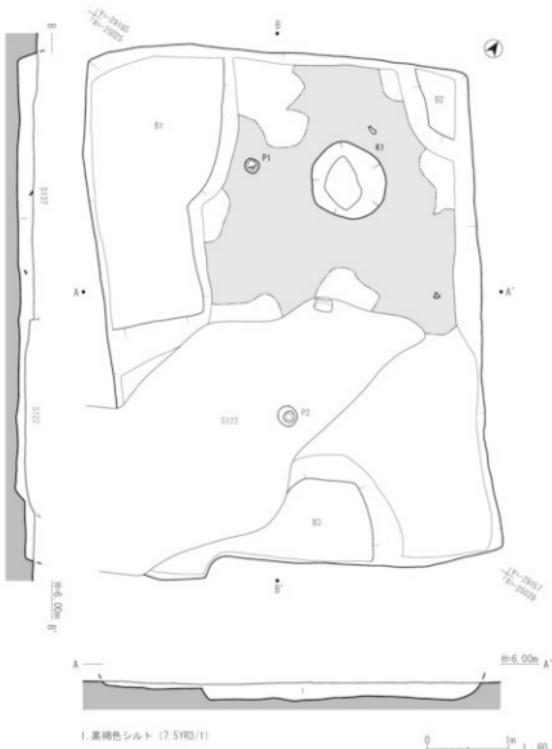


Fig.27 壁穴建物 S137 遺構実測図

ると推測される。床面と比較して 11cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構北側中央で検出した。K1 は長軸 96cm、短軸 90cm の円形を呈し、床面からの深度は 13cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、焼跡である。また、K1 を中心とした遺構北側には硬化面が広がる。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は遺構北側中央で検出した。その平面形は長軸 18cm の円形を呈し、床面からの深度は 20cm を測る。その基底から 6cm 上方には、幅 6cm の段を有する。P2 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 25cm の円形を呈し、床面からの深度は 13cm を測る。P2 は柱痕跡を有し、基底幅 8cm を測る。本遺構では出土した磁石を図化した (Fig.75)。

S140 (Fig.28)

E-25・26 グリッドで検出した。重複する壁穴建物 S142・146・149 に後出する。平面形は、長軸 6.0 m、短軸 4.6 m の方形を呈する。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 28cm を測る。遺構の主軸は N-75° E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基 (B1・B2) 検出した。B1 は遺構北側西部で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 310cm、幅 62cm の長方形を呈し、床面と比較して 15cm 高く構築されている。B2 は遺構南側全面で壁面に沿って検出した。その上面は最大幅 213cm、最少幅 86cm の「鍵」形を呈し、その張出部の東西長は 74cm を測る。B2 は床面と比較して 12cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構

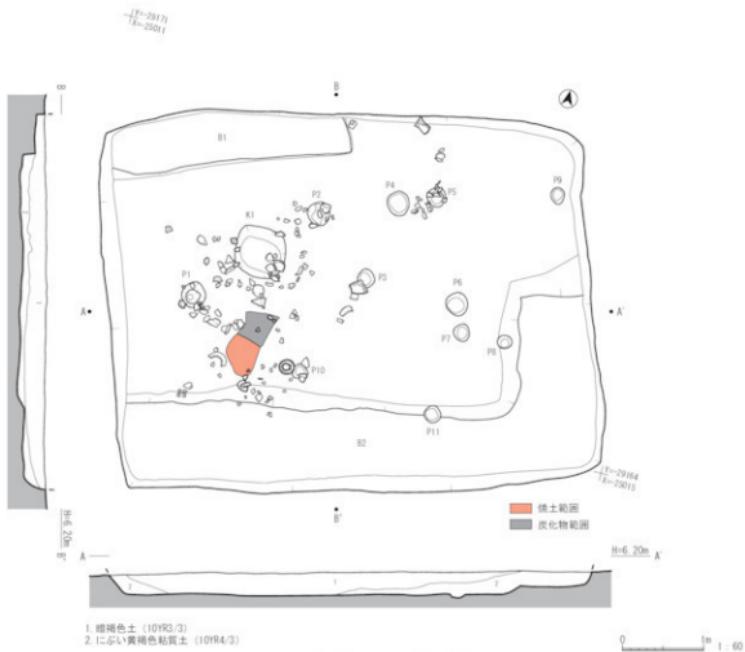


Fig.28 穫穴建物S140 遺構実測図

西側中央で検出した。K1は長軸73cm、短軸65cmの楕円形を呈し、床面からの深度は5cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、本遺構ではK1上およびK1より南方42cmに長軸37cmの炭化物の集中部と長軸44cmの焼土の集中部を検出した。柱穴は11基(P1～P11)を検出した。各柱穴の長軸は18～32cmを測り、その深度も5～36cmを測る。本遺構では、出土した壺・高杯・鉢を図化した(Fig.66)。

S141 (Fig.29)

F・G-26グリッドで検出した。重複する竪穴建物S142に後出する。平面形は、長軸5.6m、短軸4.0mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は48cmを測る。遺構の主軸はN-78°-Eを測る。

本遺構ではベッド状遺構を3基(B1～B3)検出した。B1は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長154cm、南北長73cmの三角形を呈し、床面と比較して22cm高く構築されている。B2は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長178cm、最大幅235cm、最少幅103cmの「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は40cmを測る。B2は床面と比較して25cm高く構築されている。B3は遺構北東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長304cm、最大幅193cm、最少幅15cmの「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は85cmを測る。B3は床面と比較して20cm高く構築されている。土坑は2基(K1・K2)を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸102cm、短軸71cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は8cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。また、K1を中心として硬化面が広がっている。K2は遺構西端中央で壁面に沿って検出した。K2は長軸85cm、短軸52cmの不整形な半円形を呈し、床面からの深度は8cmを測る。その基底の北東部には長軸29cm、基底からの深度4cmの

長楕円形の堀込を確認した。また、基底の南東部には長軸 32cm、基底からの深度 9cm の長楕円形の堀込を確認した。柱穴は 3 基 (P1 ~ P3) を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 21cm の円形を呈し、床面からの深度は 58cm を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 43cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 64cm を測る。その基底から 52cm 上方には幅 12cm の段を有する。P3 は P2 の南方 15cm で検出した。その平面形は長軸 26cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 16cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 310cm を測る。本遺構では出土した壺・鉢を図化した (Fig.66)。S143 (Fig.30)

F・G-24・25 グリッドで検出した。後出する竪穴建物 S142 や土坑 S190 に南西隅および西側中央を削平される。また、遺構中央および東側中央も搅乱坑によって削平される。平面形は、長軸 4.6m、短軸 4.2m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 21cm を測る。遺構の主軸は N-74°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 83cm、南北長 64cm の長方形を呈し、床面と比較して 11cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構東側中央で検出した。K1 は長軸 76cm、短軸 62cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 32cm を測る。その基底は平坦面を形成する。また、遺構中央には焼土の集中が認められることから、搅乱坑によって不明確ではあるが、本来はその箇所に焼跡があったと推測される。遺構の南側中央には長軸 250cm、最大幅 125cm、最少幅 42cm の面積で赤色顔料の付着が認められる。本遺構では出土した鉢を図化した (Fig.66)。

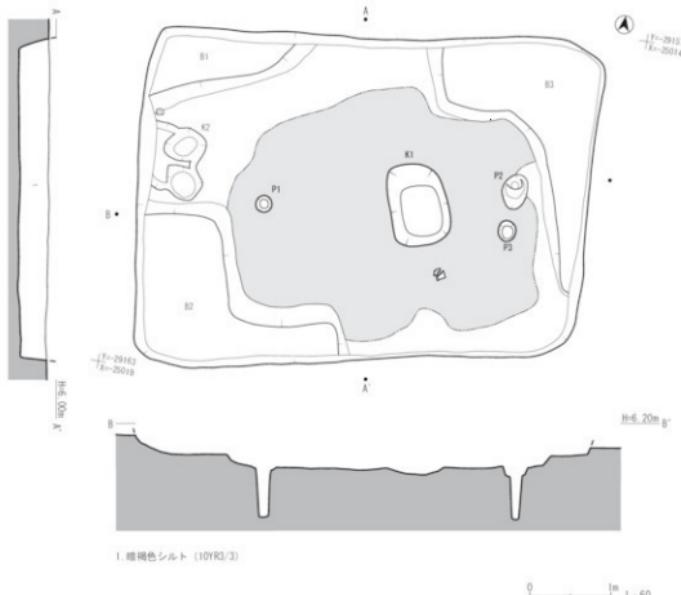


Fig.29 竪穴建物 S141 遺構実測図

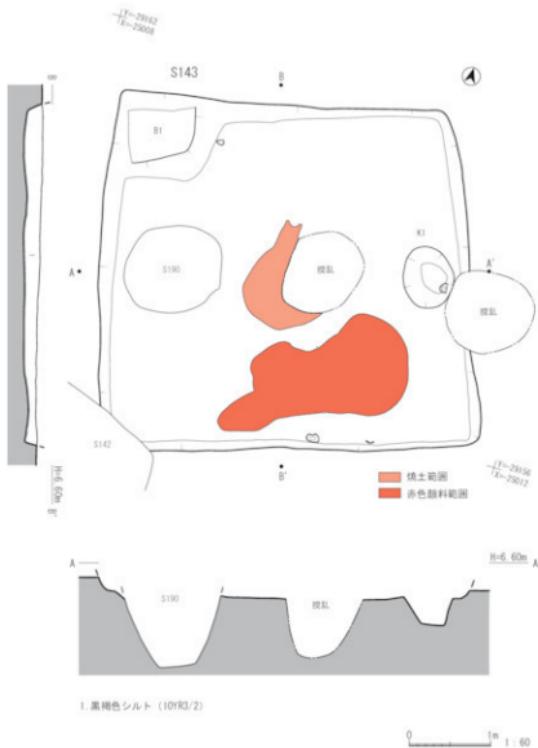


Fig.30 穹穴建物 S143、土坑 S190 遺構実測図

S190 (Fig.30)

F-25 グリッドで検出した土坑である。重複する穹穴建物 S143 に後出し、その西側中央を削平する。平面形は長軸 124cm、短軸 113cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 90cm を測る。その基底は長軸 43cm の円形を呈し、平坦面を形成する。

S145 (Fig.31)

C-24・25 グリッドで検出した。重複する穹穴建物 S165・154・146 に後出し、遺構西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 3.7 m、短軸 3.5 m を測り、方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 35cm を測る。遺構の主軸は N-9°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構南西隅で調査区壁面に沿って検出したため、その平面形・規模は不明確である。検出した上面は東西長 188cm、南北長 55cm の三角形を呈する。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 79cm、短軸 50cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は 3 基 (P1 ~ P3) を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 36cm の円形を呈し、床面からの深度は 15cm を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 31cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 21cm を測る。P3 は P2 の南東方 18cm で検出した。その平面形は長軸 40cm の楕円形を呈し、床面からの深度

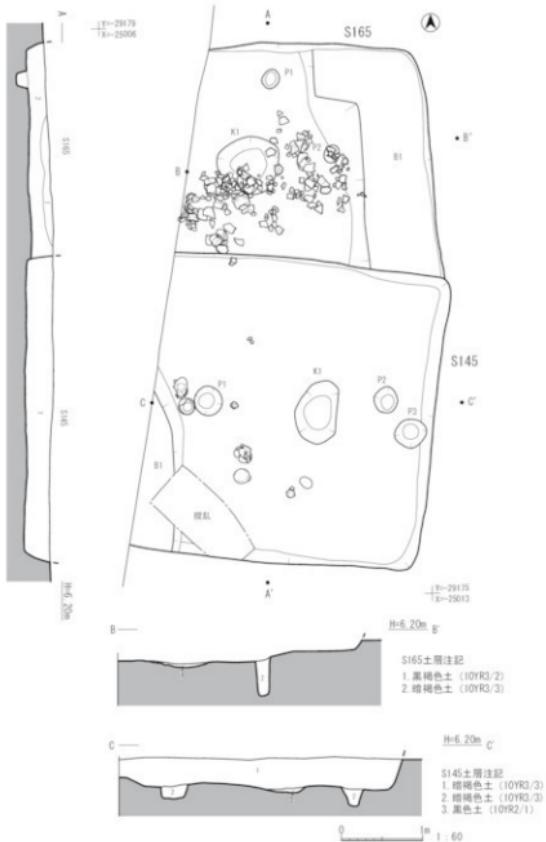


Fig.31 積穴建物 S145・S165 遺構実測図

は38cmを測る。P1・P2は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は222cmを測る。本遺構では出土した甕・鉢を図化した(Fig.66・67)。

S165 (Fig.31)

C-24 グリッドで検出した。重複する積穴建物 S107 に後出す。遺構の南側は積穴建物 S145 によって削平され、遺構西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸2.9m、検出短軸2.9mを測り、方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は25cmを測る。遺構の主軸はN-7°-Wを測る。

本遺構ではベッド状遺構を1基(B1)検出した。B1は遺構東側全面で壁面に沿って検出したが、南側は不明である。その上面は南北長281cm、最大幅118cm、最少幅89cmの「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は55cmを測り、床面と比較して19cm高く構築されている。土坑は1基(K1)を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸74cm、短軸71cmの楕円形を呈し、床面からの深度は4cmを測る。その基底は平坦面

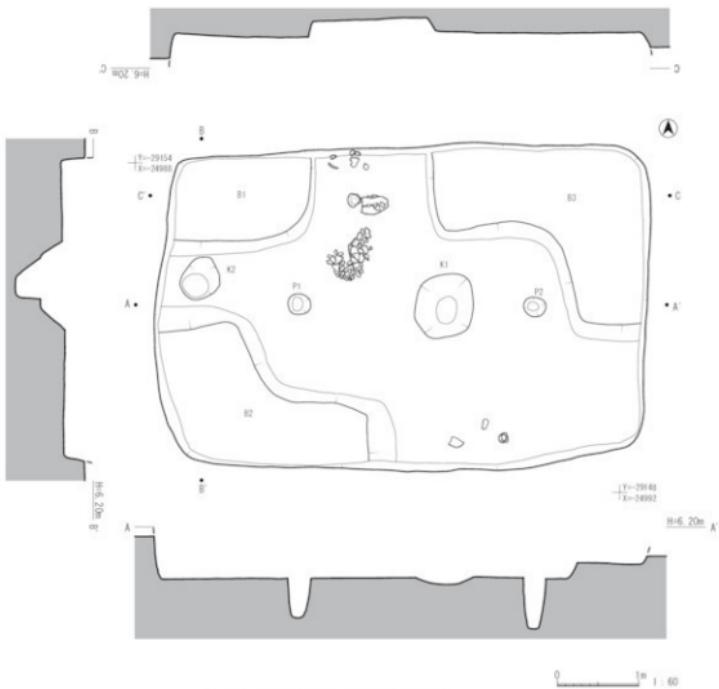


Fig.32 穹穴建物 S147 遺構実測図

を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。柱穴は2基（P1・P2）を検出した。P1は遺構北側中央で検出した。その平面形は長軸23cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は36cmを測る。P2は遺構東側中央でB1に接して検出した。その平面形は長軸22cmの楕円形を呈し、床面からの深度は33cmを測る。S147 (Fig.32)

H-I-20-21グリッドで検出した。重複する穹穴建物S081・171に後出する。平面形は、長軸6.0m、短軸4.0mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、横出面から床面までの深度は52cmを測る。遺構の主軸はN-89°-Eを測る。

本遺構ではベッド状遺構を3基（B1～B3）検出した。B1は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長157cm、南北長94cmの長方形を呈し、床面と比較して26cm高く構築されている。B2は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長151cm、最大幅217cm、最少幅81cmの「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は56cmを測る。B2は床面と比較して28cm高く構築されている。B3は遺構北東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長123cm、最大幅245cm、最少幅73cmの「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は96cmを測る。B3は床面と比較して19cm高く構築されている。土坑は2基（K1・K2）を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸86cm、短軸76cmの楕円形を呈し、床面からの深度は9cmを測る。その断面形状は擂鉢状を呈する。K1は焼土や炭化物を含有しており、炉跡である。K2は遺構西端中央のB1とB2の間で検出した。K2は長軸55cm、短軸45cmの不整形な円形を呈し、床面からの深度は30cmを測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は2基（P1・P2）を検出した。P1は遺構西側中央で検出した。その平面形は

長軸 29cm の円形を呈し、床面からの深度は 48cm を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 27cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 62cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 289cm を測る。本遺構では出土した壺・鉢・鎹を図化した (Fig.67・68・72)。

S149 (Fig.33)

D-26 グリッドで検出した。後出する竪穴建物 S140 に遺構東側を削平され、遺構南側も竪穴建物 S135 に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 5.1 m、短軸 3.9 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 37cm を測る。遺構の主軸は N-67° E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基 (B1・B2) 検出した。B1 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 186cm、東西長 105cm の長方形を呈し、床面と比較して 21cm 高く構築されている。B2 は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 205cm、東西長 81cm の長方形を呈し、床面と比較して 9cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は直径 65cm の円形を呈し、床面からの深度は 8cm を測る。その断面形状は擂鉢状を呈する。柱穴は 6 基 (P1～P6) を検出したが、ここでは P1～P3 について報告する。P1 は遺構西側中央の B1 法面上で検出した。その平面形は長軸 18cm の長楕円形を呈し、法面からの深度は 34cm を測る。P2 は遺構東側中央の B2 法面上で検出した。その平面形は長軸 21cm の円形を呈し、床面からの深度は 28cm を測る。P3 は遺構中央で検出した。その平面形は長軸 21cm の円形を呈し、床面からの深度は 42cm を測る。P1・P2 は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は 263cm を測る。本遺構では出土した壺、磨石を図化した (Fig.68・73)。

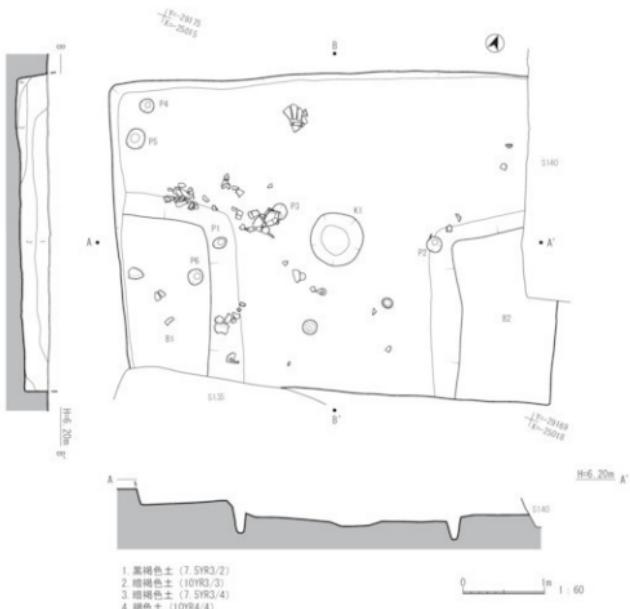


Fig.33 竪穴建物 S149 遺構実測図

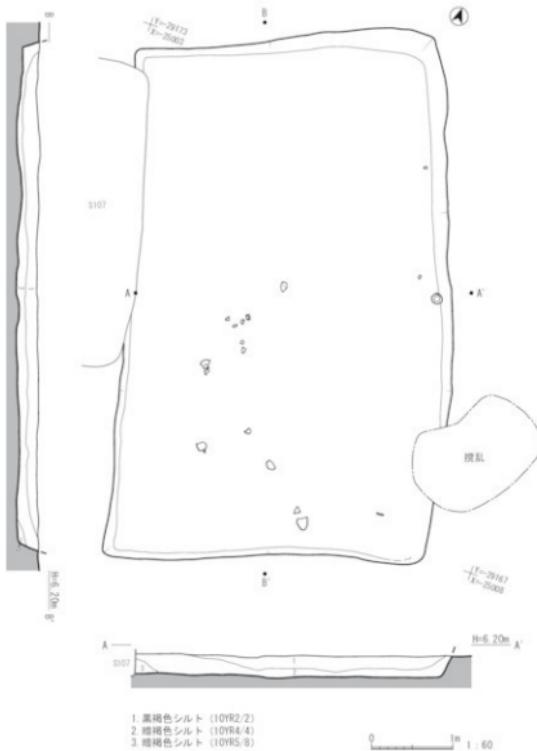


Fig.34 穴穴建物 S150 遺構実測図

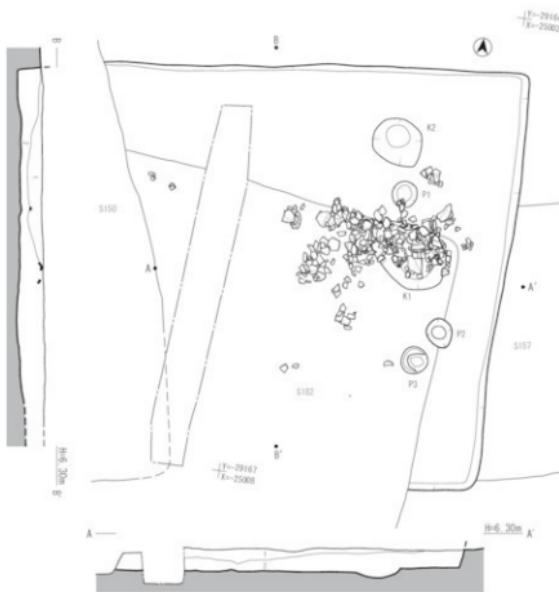
S150 (Fig.34)

D・E-23・24 グリッドで検出した。重複する穴穴建物 S156・182 に後出し、遺構の西側を穴穴建物 S107 によって削平される。平面形は、長軸 6.6 m、短軸 4.0 m を測り、長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 26cm を測る。遺構の主軸は N-20°-W を測る。本遺構では、遺構内遺構は検出できなかったが、出土した鉢を図化した (Fig.68)。

S156 (Fig.35)

E・F-23・24 グリッドで検出した。重複する穴穴建物 S157 に後出し、遺構の中央から西側にかけて穴穴建物 S150・182 に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、残存長軸 5.2 m、短軸 5.0 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27cm を測る。遺構の主軸は N-84°-E を測る。

本遺構では土坑を 2 基 (K1・K2) 検出した。K1 は遺構東側中央で検出した。K1 は長軸 107cm、短軸 69 cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 8cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K2 は遺構東側北部で検出した。K2 は長軸 66cm、短軸 60cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 54cm を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は 3 基 (P1～P3) を検出した。P1 は K1 の北方 19cm で検出した。その平面形は長軸 32cm の円形を呈し、床面からの深度は 10cm を測る。P2 は K1 の南方 38cm で検出した。その平面形は長軸 37cm の



I. 黒褐色シルト (10YR2/2)
2. 緑褐色シルト (10YR3/3)

Fig.35 壁穴建物 S156 遺構実測図

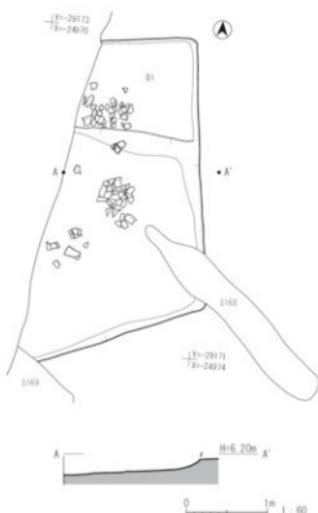


Fig.36 壁穴建物 S159 遺構実測図

楕円形を呈し、床面からの深度は 36cm を測る。P3 は P2 の南西 15cm で検出した。その平面形は長軸 33cm の円形を呈し、床面からの深度は 21cm を測る。その基底から 9cm 上方には幅 4cm の段を有する。本遺構では埋土中より小形仿製鏡、ガラス玉が出土し、床面からは甕・壺・高杯・鉢、砥石が出土しており、図化している (Fig.69・72・75)。

S159 (Fig.36)

D-17 グリッドで検出した。後出する溝 S168 や壁穴建物 S169 によって、遺構の南側の一部が削平される。また、遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 3.6m、検出短軸 2.2m を測る。壁面は緩やかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 21cm を測る。遺構の主軸は N-5°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は北東隅で壁面に沿って検出し、西側は調査区外へ延びる。その上面は南北長 123cm、検出東西長 147cm を測り、床面と比較して 13cm 高く構築されている。本遺構では出土した甕を図化した (Fig.70)。

S160 (Fig.37)

H・I-22 グリッドで検出した。重複する壁穴建物 S151・175 に後出し、遺構の北東隅は壁穴建物 S080 に削平される。平面

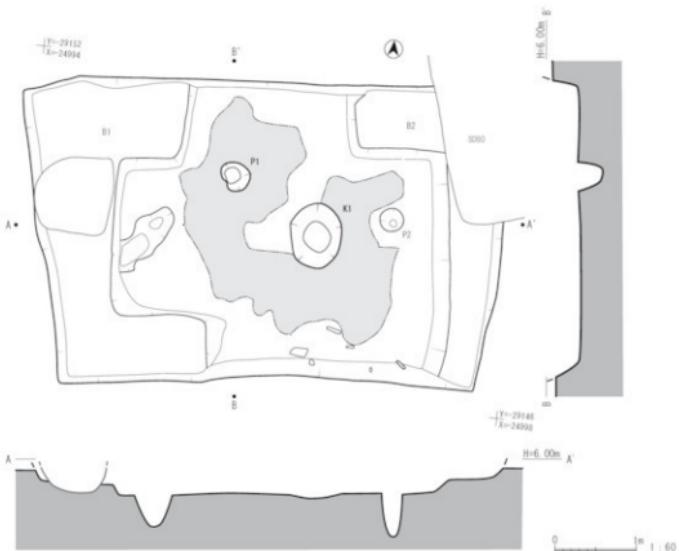


Fig.37 穴穴建物S160 遺構実測図

形は、長軸 5.8 m、短軸 3.6 m の長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27 cm を測る。遺構の主軸は N-85°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基 (B1・B2) 検出した。B1 は遺構西側で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 352cm、幅 71cm の長方形に、北側は東西長 121cm、南北長 94cm、南側は東西長 101cm、南北長 72cm の張出部をもつ「コ」字形を呈する。B1 は、床面と比較して 18cm 高く構築されている。その中央部は、後に出する土坑によって削平される。B2 は遺構東側で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 353cm、最大幅 105cm、最少幅 39cm の「鍵」形を呈し、その張出部の南北長は 71cm を測る。B2 は床面と比較して 19cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 80cm、短軸 63cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 5cm を測る。その基底は平坦面を形成する。K1 は焼土や炭化物を含有しており、灰跡である。また、K1 を中心に硬面が広がる。柱穴は 2 基 (P1・P2) を検出した。P1 は遺構中央で検出した。その平面形は長軸 38cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 30cm を測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 29cm の円形を呈し、床面からの深度は 52cm を測る。本遺構では出土した甕・鉢を図化した (Fig.70)。

S167 (Fig.38)

F・G-16 グリッドで検出した。遺構の北側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 5.5 m、検出短軸 2.6 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30cm を測る。遺構の主軸は N-75°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 3 基 (B1～B3) 検出した。B1 は遺構南西側で壁面に沿って検出した。その北東隅は調査中の過剝剤のために不明確であるが、その上面は南北長 215cm、東西長 107cm の長方形を呈するとの推測され、床面と比較して 10cm 高く構築されている。B2 は遺構南側中央で検出した。その上面は東西長 157cm、南北長 84cm の長方形に張り出し、20cm 高く構築されている。B3 は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 212cm、東西長 103cm の長方形を呈し、床面と比較して 13cm 高く構築されている。

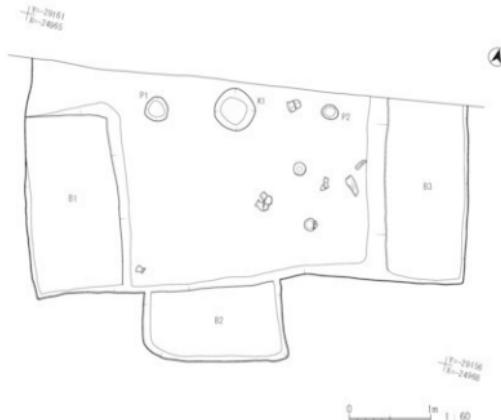


Fig.38 積穴建物S167 遺構実測図

土坑は1基（K1）を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸52cm、短軸50cmの円形を呈し、床面からの深度は5cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、がれ跡である。柱穴は2基（P1・P2）を検出した。P1は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸30cmの円形を呈し、床面からの深度は43cmを測る。P2は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸21cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は38cmを測る。P1・P2は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は212cmを測る。本遺構では出土した鉢を図化した（Fig.70）。

S171 (Fig.39)

G-20・21グリッドで検出した。重複する竪穴建物S172に後出し、遺構の北西隅は竪穴建物S069に削平され、遺構の中央および東側は南北に走行する溝S176・179に削平される。平面形は長軸5.5m、短軸4.7mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は20cmを測る。遺構の主軸はN-75°-Wを測る。

本遺構では土坑を1基（K1）検出した。K1は遺構中央で検出したが、その西側は溝S179による削平のために不明確である。K1は長軸69cm、検出短軸47cmを測り、楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は2cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、がれ跡である。また、K1の北側には長軸97cm、短軸26cmを測る焼土の広がりを検出した。K2は遺構南側中央で検出した。K2は長軸75cm、短軸36cmを測り、長楕円形を呈し、床面からの深度は26cmを測る。柱穴は4基（P1～P4）を検出した。P1は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸31cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は3cmを測る。P2は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸39cmの長楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は17cmを測る。その基底から8cm上方には段が巡る。P3は遺構西側北部で検出した。その平面形は長軸43cmの楕円形を呈し、床面からの深度は35cmを測る。その基底の上方には高さを異なる段を2段有する。P4は遺構西側南部で検出した。その平面形は長軸42cmの楕円形を呈し、床面からの深度は40cmを測る。

S172 (Fig.39)

G-21・22グリッドで検出した。重複する竪穴建物S173に後出し、遺構の北側は竪穴建物S171に削平され、遺構の東側は南北に走行する溝S176に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸6.9m、短軸5.4mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は20cmを測る。遺構の主軸はN-75°-Wを測る。

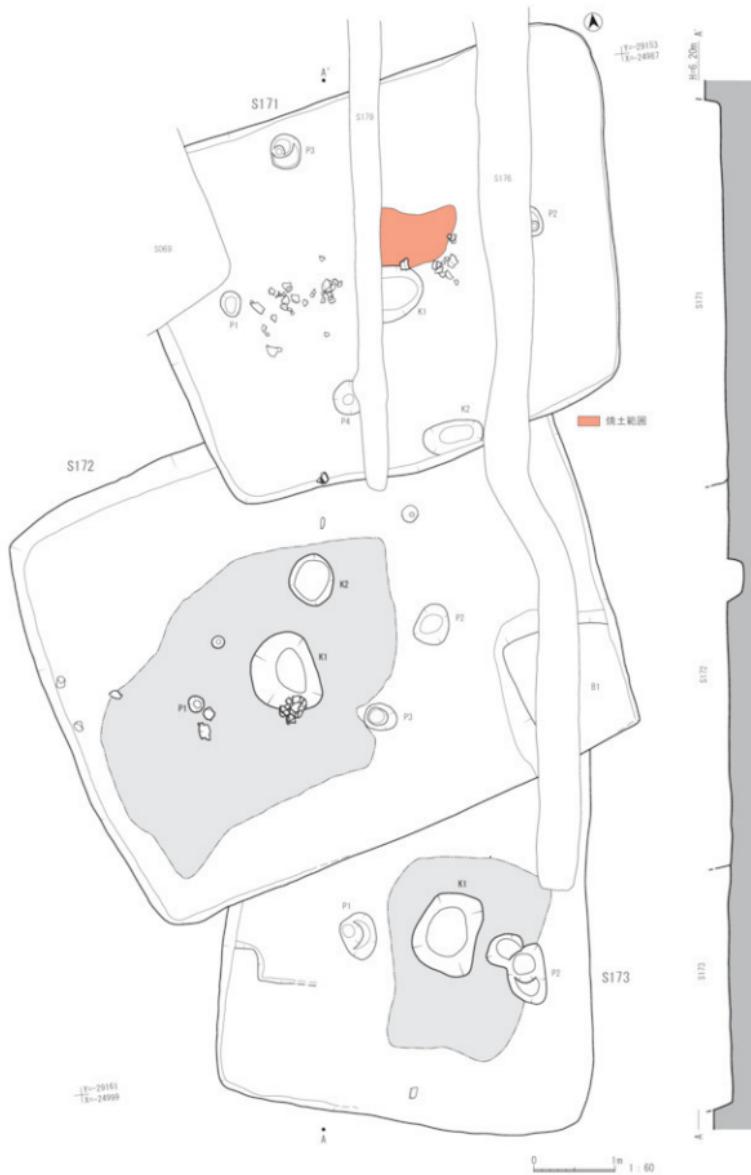


Fig.39 壁穴建物 S171・S172・S173 遺構実測図

本遺構ではベッド状遺構を1基(B1)検出した。B1は遺構南東隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長162cm、東西長135cmの長方形を呈し、床面と比較して10cm高く構築されている。土坑は2基(K1・K2)を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸100cm、短軸82cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は7cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、か跡である。K2は遺構中央で検出した。K2は長軸64cm、短軸55cmの楕円形を呈し、床面からの深度は20cmを測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は3基(P1～P3)を検出した。P1は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸20cmの円形を呈し、床面からの深度は49cmを測る。P2は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸51cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は51cmを測る。P3は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸40cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は47cmを測る。また、K1を中心に硬化面の広がりを確認した。本遺構では出土したジョッキ形土器を図化した(Fig.70)。

S173 (Fig.39)

G-22グリッドで検出した。遺構の北側は後出する竪穴建物S172に削平され、遺構東側は南北に走行する溝S176に削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸4.6m、短軸4.6mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は17cmを測る。遺構の主軸はN-13°-Eを測る。

本遺構ではベッド状遺構を1基(B1)検出したが、調査過程の過掘削のためにその平面形・規模は不明確である。上面は東西長90cm、南北長39cmを測り、「鍵」形を呈すると推測され、床面と比較して9cm高く構築されている。土坑は1基(K1)を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸99cm、短軸73cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は5cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1は焼土や炭化物を含有しており、か跡である。また、K1を中心に硬化面の広がりを確認した。柱穴は2基(P1・P2)を検出した。P1は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸58cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は70cmを測る。その基底から45cm上方には幅9cmの段を有する。P2は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸98cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は36cmを測る。基底はP2中央に位置する。その基底の北西側上方25cmには、幅25cmの段を有し、南東上方15cmには、幅16cmの段を有する。P1・P2は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は218cmを測る。

c 土坑

S097 (Fig.40)

I-26グリッドで検出した。重複するS098に後出し、遺構の東側は攪乱によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は検出長軸235cm、短軸202cmを測り、楕円形を呈すると推測される。壁面は複数の段を有しつつ、長軸107cmの基底に至る。それらの段上より多くの遺物が出土している。本遺構では出土した甕・台付壺・鉢を図化した(Fig.63)。

S148 (Fig.41)

H-23グリッドで検出した。重複する竪穴建物S130にその南側の一部を削平される。平面形は長軸227cm、短軸161cmの長楕円形を呈し、検出面からの深度は43cmを測る。断面形状は「U」字形を呈する。その基底は長軸184cm、短軸112cmの長楕円形を呈し、平坦面を形成する。遺構の主軸はN-48°-Eを測る。遺構埋土は黒褐色シルト～褐色シル



Fig.40 土坑S097 遺構実測図

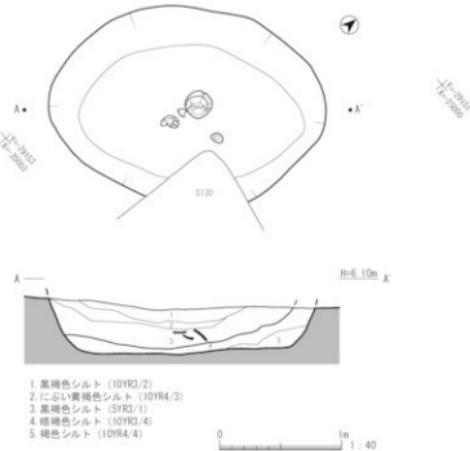


Fig.41 土坑S148 遺構実測図

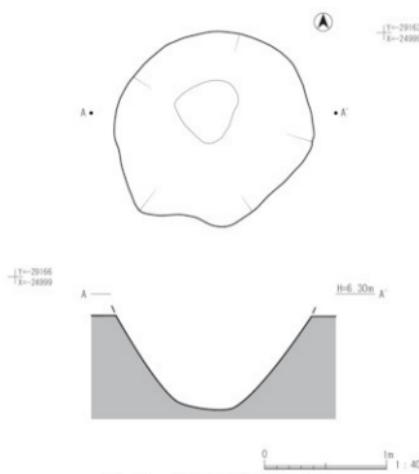
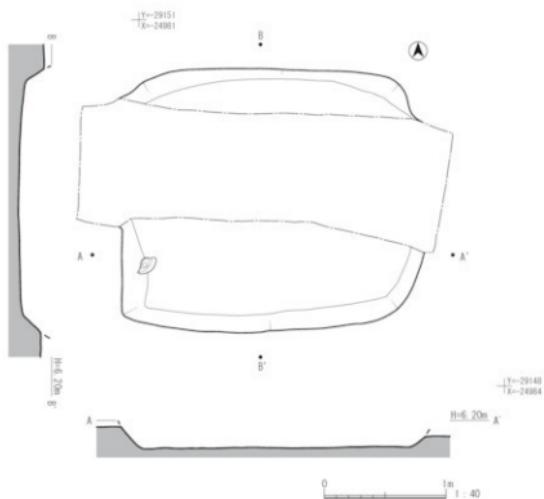
トの5層に分層できる。3層中より甕が出土しているが、その出土状況は、遺構内に4層が堆積した後に、据え置かれたようである。ここでは、甕を出土状況とあわせて図化した (Fig.68)。

S152 (Fig.42)

H・I-19 グリッドで検出した。後出する擾乱溝によって中央部は削平される。平面形は長軸 243cm、短軸 216cm の隅丸方形を呈し、検出面からの深度は 17cm を測る。断面形状は「U」字形を呈する。その基底は長軸 243cm、短軸 223cm の隅丸方形を呈し、平坦面を形成する。遺構の主軸は N-85° -W を測る。ここでは、出土した甕・石包丁を図化した (Fig.68・72)。

S188 (Fig.43)

F-22・23 グリッドで検出した。平面形は長軸 160cm、短軸 156cm の楕円形を呈し、検出面からの深度は 72cm を測る。断面形状は「U」字形を呈する。その基底は長軸 53cm、短軸 49cm の楕円形を呈し、東側にやや傾斜する。遺構の主軸は N-73° -W を測る。ここでは、出土した高環を図化した (Fig.70)。



4 調査4区

(1) 概要 (Fig.44)

4区は3区の57m南側に位置し、F-43 グリッド～G-48 グリッドにかけて設定された。平面形は最大南北辺 25 m、最大東西辺 6.8 mを測る長方形を呈する。その発掘調査面積は 152m²を測る。

調査区の大半が南北に走行する溝S077によって掘削されており、溝4条、土坑4基を検出した。

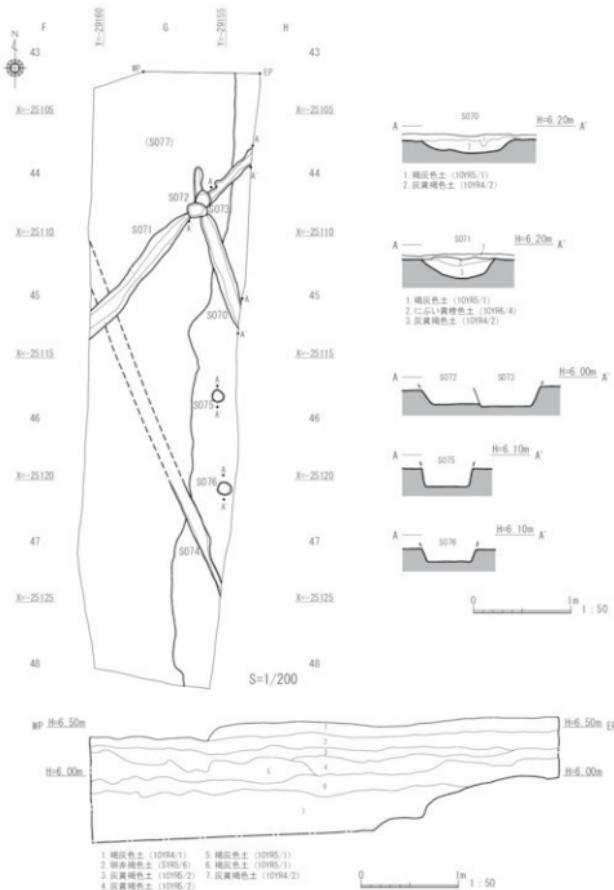


Fig.44 4区遺構配置図 S=1/200

(2) 遺構各説

a 溝

S070 (Fig.44)

G-44 グリッド～H-45 グリッドにかけて検出した。調査区を北西～南東に走行し、調査区外へ延びる。重複する溝 S077 に後出し、土坑 S073・072 に削平される。その検出長は 636cm、幅 71cm、検出面からの深度は 10cm を測り、断面形は「コ」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-20°-W を測る。埋土中からは、弥生土器片が少量出土した。

S071 (Fig.44)

G-45 グリッド～H-44 グリッドにかけて検出した。調査区を北東～南西に走行し、その両端は調査区外へ延びる。重複する溝 S077 に後出し、溝 S074、土坑 S073・072 に削平される。その検出長は 821cm、最大幅 84cm、最少幅 38cm、検出面からの深度は 9cm を測り、断面形は「V」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-42°-E を測る。埋土中からは、弥生土器片が少量出土した。

S074 (Fig.44)

F-45 グリッド～H-47 グリッドにかけて検出した。調査区を北西～南東に走行し、その両端は調査区外へ延びると推測される。重複する溝 S071・077 に後出す。その検出長は 546cm、幅 57cm、検出面からの深度は 15cm を測り、断面形は「V」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-24°-W を測る。

S077 (Fig.44)

F・G-43 グリッド～G-48 グリッドにかけて検出した。調査区の大半を占有する。調査区を北～南に走行し、その両端は調査区外へ延びる。重複する溝 S070・071・074、土坑 S072・073 にその一部を削平される。その検出長は 25m、最大幅 5.8m、最少幅 3.6m を測る。検出面からの深度が 74cm を測るレベルより湧水が認められたために、掘削を中止する。したがって、正確な深度や断面形は不明確である。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-4°-E を測る。

b 土坑

S072 (Fig.44)

G-44 グリッドで検出した。重複する溝 S070・071・077 に後出し、遺構の南西は土坑 S073 に削平される。平面形は長軸 63cm を測り、楕円形を呈すると推測され、検出面からの深度は 15cm を測る。その基底は平坦面を形成する。遺構の主軸は N-20°-E を測る。埋土中からは、弥生土器片が少量出土した。

S073 (Fig.44)

G-44 グリッドで検出した。重複する溝 S070・071・077 および土坑 S072 に後出す。平面形は長軸 82cm、短軸 60cm の長楕円形を呈し、検出面からの深度は 19cm を測る。その基底は平坦面を形成する。遺構の主軸は N-90°-E を測る。埋土中からは、弥生土器片が少量出土した。

S075 (Fig.44)

G-46 グリッドで検出した。平面形は長軸 51cm、短軸 49cm の楕円形を呈し、検出面からの深度は 18cm を測る。その基底は平坦面を形成する。遺構の主軸は N-0°-E を測る。

S076 (Fig.44)

G-47 グリッドで検出した。平面形は長軸 57cm、短軸 52cm の楕円形を呈し、検出面からの深度は 12cm を測る。その基底は平坦面を形成する。遺構の主軸は N-1°-W を測る。

5 調査5区

(1) 概要 (Fig.45)

5区は、4区の8m西側に位置し、A-43 グリッド～D-48 グリッドにかけて設定された。平面形は、最大南北辺 20 m、最大東西辺 20 m を測り、ほぼ正方形を呈する。その発掘調査面積は 368m²を測る。

本調査区では明黄褐色土 (Hue10YR6/6) である3層上面で遺構検出を行った。その結果、溝5条、井戸2基を検出した。検出面である3層は中世の遺構面であり、検出遺構は該期のものであると推測する。

(2) 遺構各説

a 溝

S044 (Fig.45)

A-44 グリッド～D-44 グリッドにかけて検出した。調査区を西・東に走行する。重複する溝S063に後出し、西側は調査区外へ延びる。その検出長は 18.8 m、最大幅 79cm、最少幅 42cm、検出面からの深度は 15cm を測り、断面形は擂鉢状を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-89°-E を測る。

S045 (Fig.45)

A-45・46 グリッド～D-45 グリッドにかけて検出した。調査区を西・東に走行する。重複する溝 S063 に後出し、両端は調査区外へ延びる。遺構の東側は調査過程で上端を過掘削したため、平面形が狹くなる。その検出長は 19 m、幅 40cm、検出面からの深度は 20cm を測り、断面形は「コ」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-86°-E を測る。埋土中からは、白磁や青磁の小片が少量出土した。

S060 (Fig.45)

A-46 グリッド～D-46 グリッドにかけて検出した。調査区を西・東に走行する。重複する井戸 S061 に後出し、両端は調査区外へ延びる。遺構は調査区中央でその流れをやや北側に移し、東側では幅を拡張する。その検出長は 18.6 m、最大幅 84cm、最少幅 60cm、検出面からの深度は 10cm を測り、断面形は擂鉢状を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-88°-W を測る。埋土中からは、石鍋小片が出土した。

S062 (Fig.45)

A-47 グリッド～D-47 グリッドにかけて検出した。調査区を西・東に走行する。その検出長は 19.2 m、最大幅 91cm、最少幅 84cm、検出面からの深度は 33cm を測り、断面形は「U」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-90°-E を測る。

S063 (Fig.45)

C-44 グリッド～D-46 グリッドにかけて検出した。調査区を北西・南東に走行する。その北側は調査区外へ延び、南側は調査区内で収束する。重複する溝 S045 に後出し、溝 S044 に削平される。その検出長は 14.1 m、幅 75cm、検出面からの深度は 40cm を測り、断面形は擂鉢状を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-15°-W を測る。

b 井戸

S041 (Fig.45)

D-44・45 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 227cm、短軸 157cm を測り、梢円形を呈すると推測され、検出面からの深度は 72cm を測る。断面形状は「コ」字形を呈する。その基底は長軸 194cm、短軸 86cm の長梢円形を呈すると推測される。その基底から 26cm 上方には幅 28cm の段を有する。遺構の主軸は N-65°-E を測る。

S061 (Fig.45)

B-46 グリッドで検出した。遺構の中央は溝 S060 によって削平される。平面形は長軸 185cm、短軸 157cm を測る長梢円形を呈し、検出面からの深度は 86cm を測る。断面形状は「コ」字形を呈する。その基底は長軸 164cm、短軸 130cm の長梢円形を呈する。遺構の主軸は N-15°-E を測る。

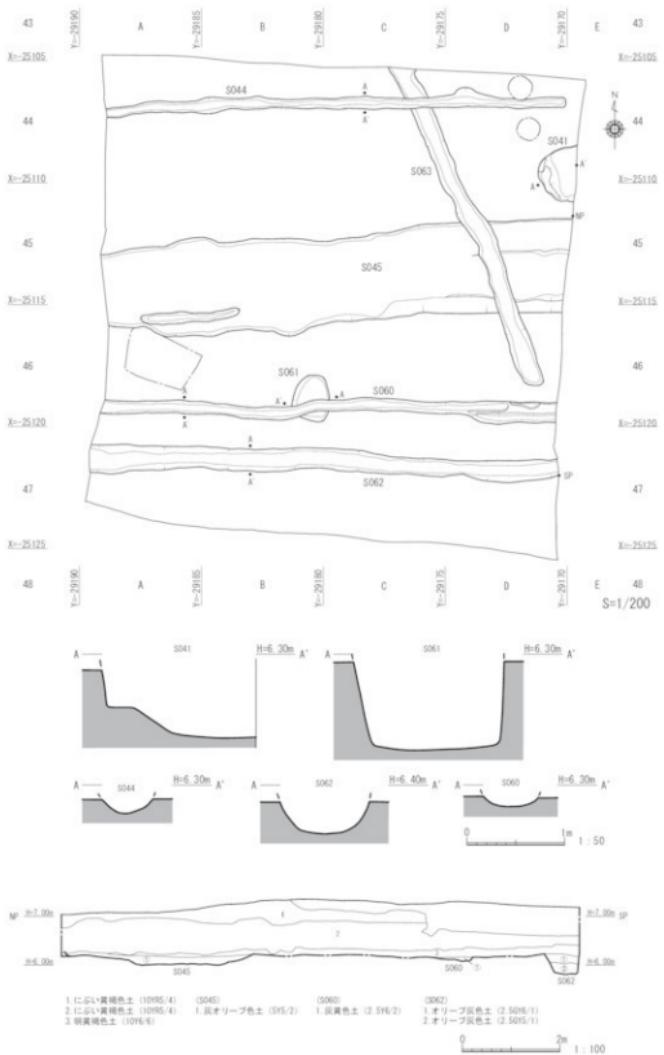


Fig.45 5区遺構配置図 S=1/200

6 排水処理槽予定地

(1) 概要 (Fig.46)

排水処理槽予定地は、I-1 グリッド～K-5 グリッドにかけて 1 区と重複して設定された。平面形は最大南北辺 23 m、最大東西辺 8.5 m を測り、長方形を呈する。その発掘調査面積は 190m²を測る。

本調査区では中央に大きな擾乱溝が南走しており、遺構はその東側で検出された。検出された遺構は、溝 1 条、堅穴建物 2 軒、土坑 4 基などであり、ここでは主な遺構について報告する。

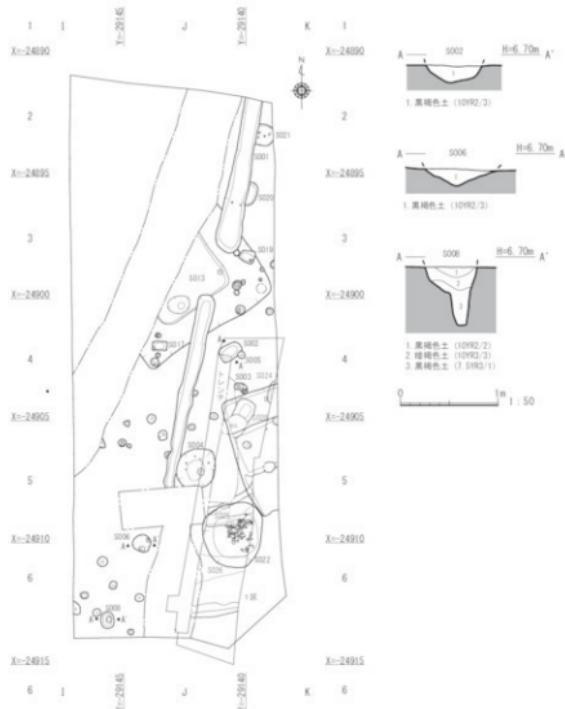


Fig.46 排水処理槽予定地遺構配置図 S=1/200

(2) 遺構各説

a 溝

S001 (Fig.46)

J-1 グリッド～J-4 グリッドにかけて検出した。調査区を北～南に走行する。遺構は調査区内で一度収束し、その南端は試掘トレンチと接する。ここでは、一連の溝として報告する。重複する竪穴建物S013に後出する。その検出長は 16.3 m、最大幅 104cm、最少幅 38cm、検出面からの深度は 17 ～ 37cm を測り、北側ほど深くなる。断面形は「U」字形を呈する。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-12°-E を測る。

b 竪穴建物

S003 (Fig.46)

J・K-3・4 グリッドで検出した。遺構の南端は撓乱によって削平され、東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、長軸 4.9 m、短軸 2.3 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 40cm を測る。遺構の主軸は N-14°-W を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 2 基 (B1・B2) 検出した。B1 は遺構北西隅で壁面に沿って検出した。その上面は東西長 223cm、南北長 118cm を測り、長方形を呈すると推測され、床面と比較して 14cm 高く構築されている。B2 は遺構南西隅で壁面に沿って検出した。その上面は南北長 170cm、東西長 137cm を測り、長方形を呈すると推測され、床面と比較して 16cm 高く構築されている。柱穴は 1 基 (P1) を検出した。P1 は遺構北側東部で B1 に接して検出した。その平面形は長軸 40cm の楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は 13cm を測る。

S013 (Fig.46)

J-2・3 グリッドで検出した。遺構の西側は撓乱溝によって削平される。また、本遺構は検出の際に過掘削となる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、平面形は推定を含む長軸 6.2 m、短軸 1.1 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 16cm を測る。遺構の主軸は N-55°-E を測る。

本遺構ではベッド状遺構を 1 基 (B1) 検出した。B1 は遺構検出部分の壁面に沿って検出した。その上面は長軸 616cm、最大幅 140cm、最少幅 113cm を測り、「コ」字形で検出した。B1 は床面と比較して 9cm 高く構築されている。土坑は 1 基 (K1) を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 は長軸 94cm、短軸 72cm の長楕円形を呈し、床面からの深度は 20cm を測る。その断面形は「V」字形を呈する。K1 内埋土は暗褐色土～明褐色土の 3 層に分層でき、焼土や灰を多量に含有する炉跡である。柱穴は 1 基 (P1) を検出した。P1 は遺構北側で B1 に接して検出した。その平面形は長軸 20cm の楕円形を呈し、床面からの深度は 30cm を測る。

c 土坑

S004 (Fig.46)

J-4 グリッドで検出した。重複する溝 S001 に後出し、南端は試掘坑に削平される。平面形は長軸 167cm、短軸 155cm を測る楕円形を呈し、検出面からの深度は 38cm を測る。基底は平坦面を形成し、断面形状は「コ」字形を呈する。基底は長軸 85cm、短軸 71cm の長楕円形を呈し、南東隅に幅 10cm、基底からの深度 12cm の堀込を持つ。遺構の主軸は N-26°-E を測る。

S021 (Fig.46)

K-1 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。平面形は長軸 99cm、短軸 89cm を測る長楕円形を呈すると推測され、検出面からの深度は 23cm を測る。基底は一様ではなく、断面形状は「コ」字形を呈する。基底は長軸 82cm、短軸 56cm の長楕円形を呈する。遺構の主軸は N-80°-E を測る。

S022 (Fig.47)

J-4・5 グリッドで検出した。平面形は長軸 265cm、短軸 241 を測る梢円形を呈し、検出面からの深度は 46cm を測る。基底は平坦面を形成し、断面形状は「コ」字形を呈する。基底は長軸 183cm、短軸 171cm の梢円形を呈する。遺構の主軸は N-15°-W を測る。本遺構では出土した甕・壺・鉢を図化した (Fig.71)。

d 墓

S020 (Fig.48)

K-2 グリッドで検出した。重複する溝 S001 に先行する。平面形は長軸 102cm、短軸 90 cm を測る梢円形を呈し、検出面からの深度は 14cm を測る。基底は平坦面を形成し、断面形状は「コ」字形を呈する。基底は長軸 81cm、短軸 74cm の梢円形を呈する。遺構の主軸は N-40°-E を測る。基底からは頭蓋骨や歯、土師器が出土した (Fig.71)。

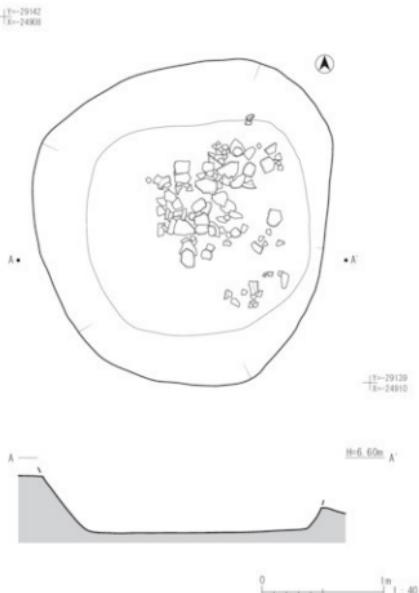


Fig.47 排水処理槽予定地土坑 S022 遺構実測図

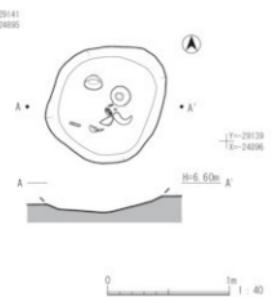
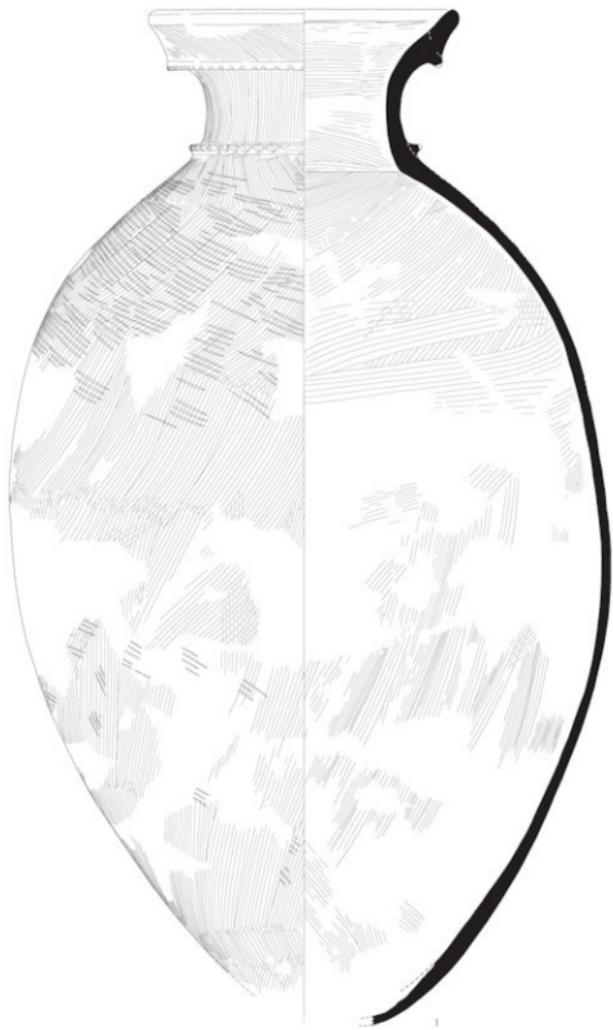


Fig.48 排水処理槽予定地墓 S020 遺構実測図

第4章 遺物

遺物実測図凡例

- ・掲載縮尺は基本1/4に統一し掲載している。一部の土器、特殊遺物に於いてはその限りではない。
- ・土器の断面について土器の幅を明確に示すため須恵器、土師器等を問わず断面を黒に統一している。
- ・種別の違いは図中に器面調整等で、明示している。



0 10cm
5:1/4

Fig. 49 壁穴建物 S001 出土遺物実測図 - ①

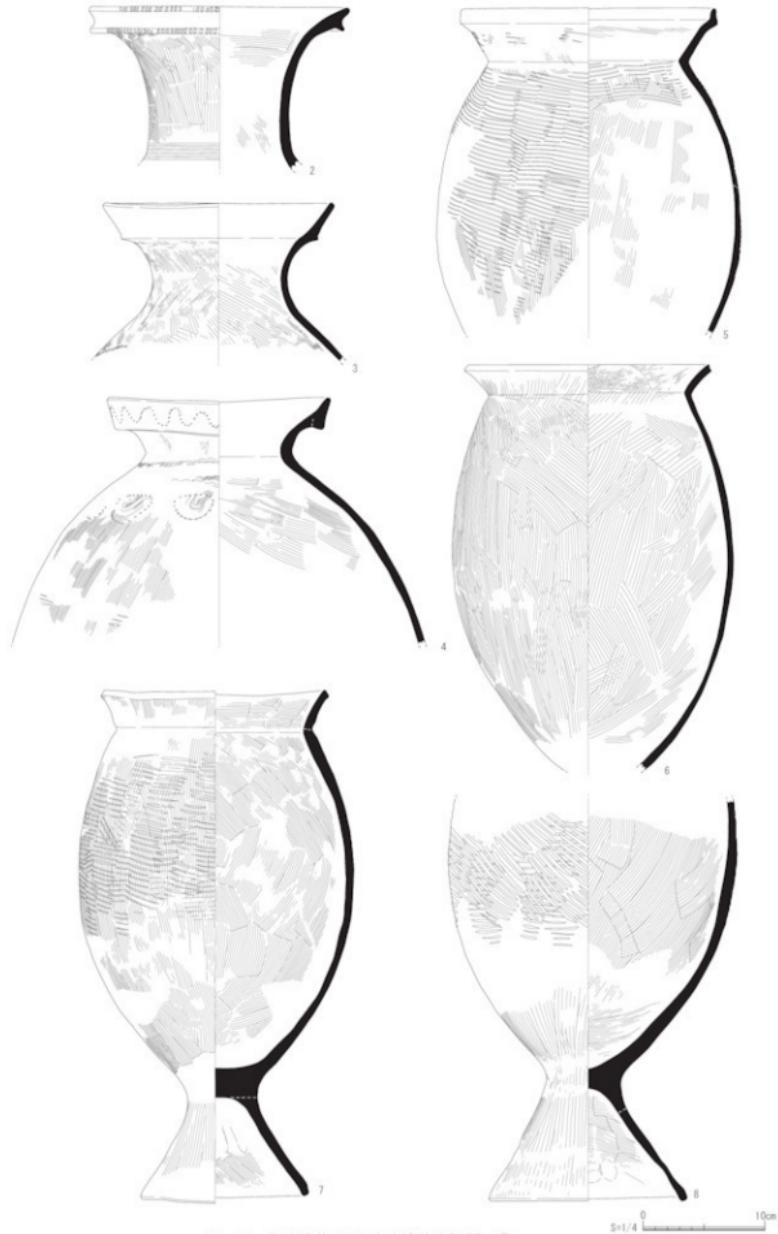


Fig. 50 堅穴建物 S001 出土遺物実測図 - ②

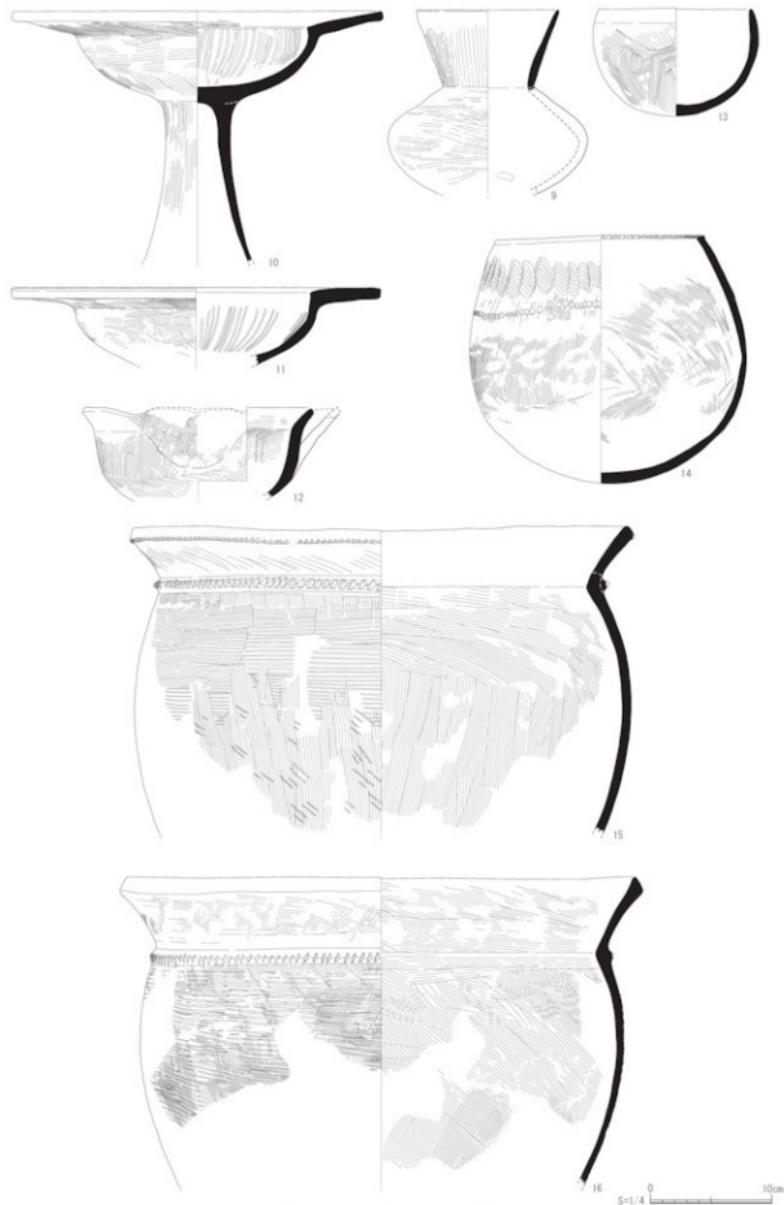


Fig. 51 堪穴建物 S001 出土遺物実測図 - ③

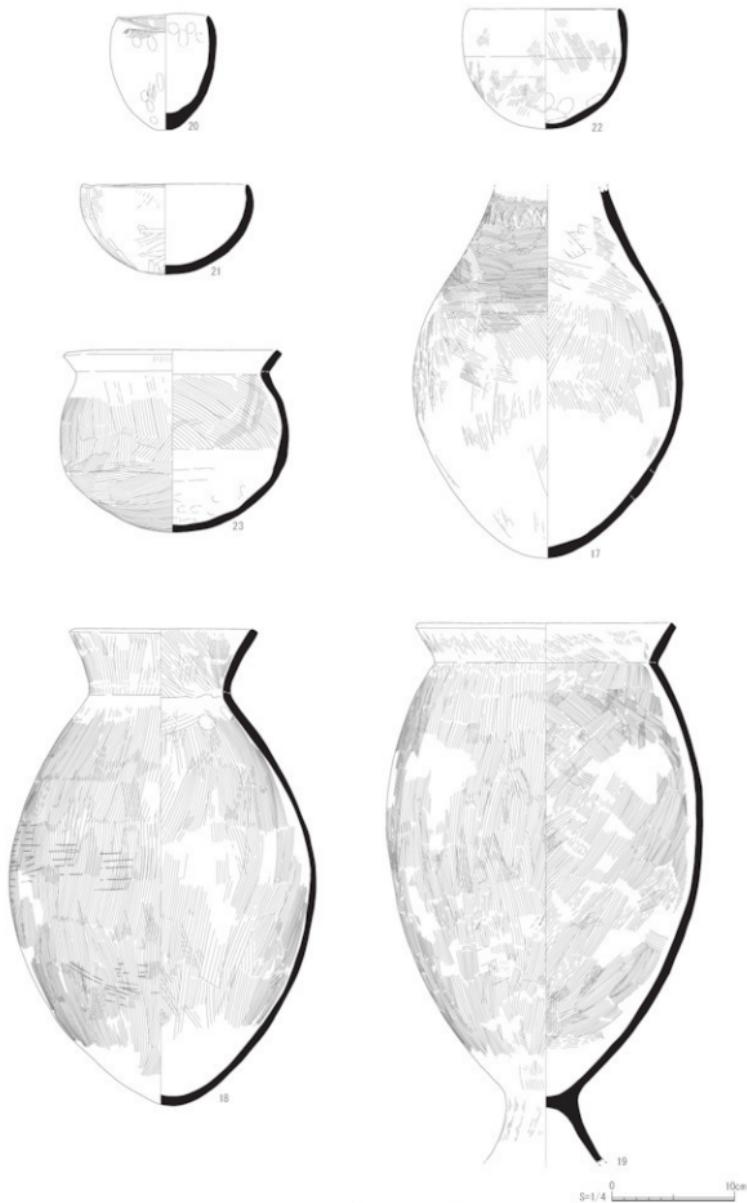
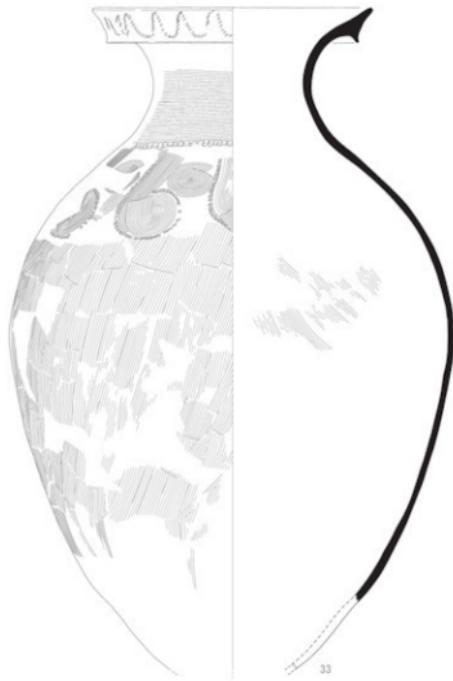
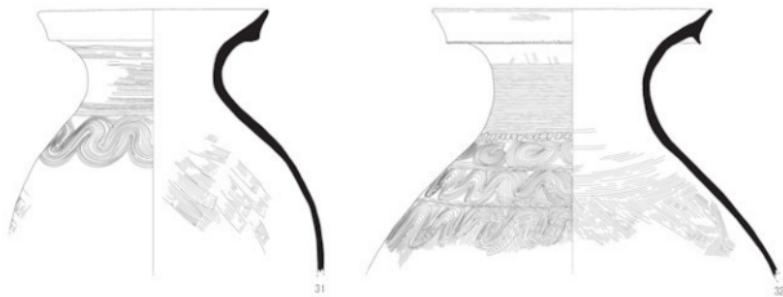


Fig. 52 堪穴建物 S048 出土遺物実測図



Fig. 53 壁穴建物 S066 出土遺物実測図 - ①



5:1/4 0 10cm

Fig. 54 壁穴建物 S066 出土遺物実測図 -②

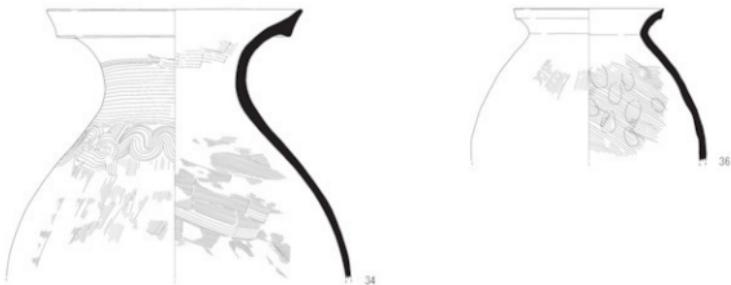


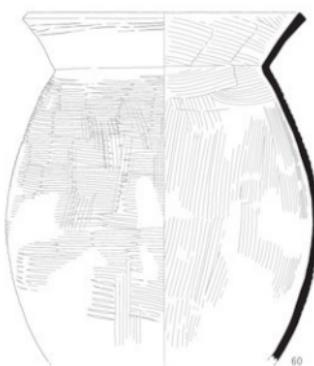
Fig. 55 壁穴建物 S066 出土遺物実測図 - ③



Fig. 56 堪穴建物 S066 出土遺物実測図 -④



Fig. 57 整穴建物 S066 出土遺物実測図 - ⑤



Scale bar: 0 10cm

Fig. 58 壁穴建物 S066 出土遺物実測図 - ⑥



Fig. 59 堪穴建物 S066 出土遺物実測図 - ⑦



Fig. 60 坚穴建物 S066 出土遺物実測図 - ⑧

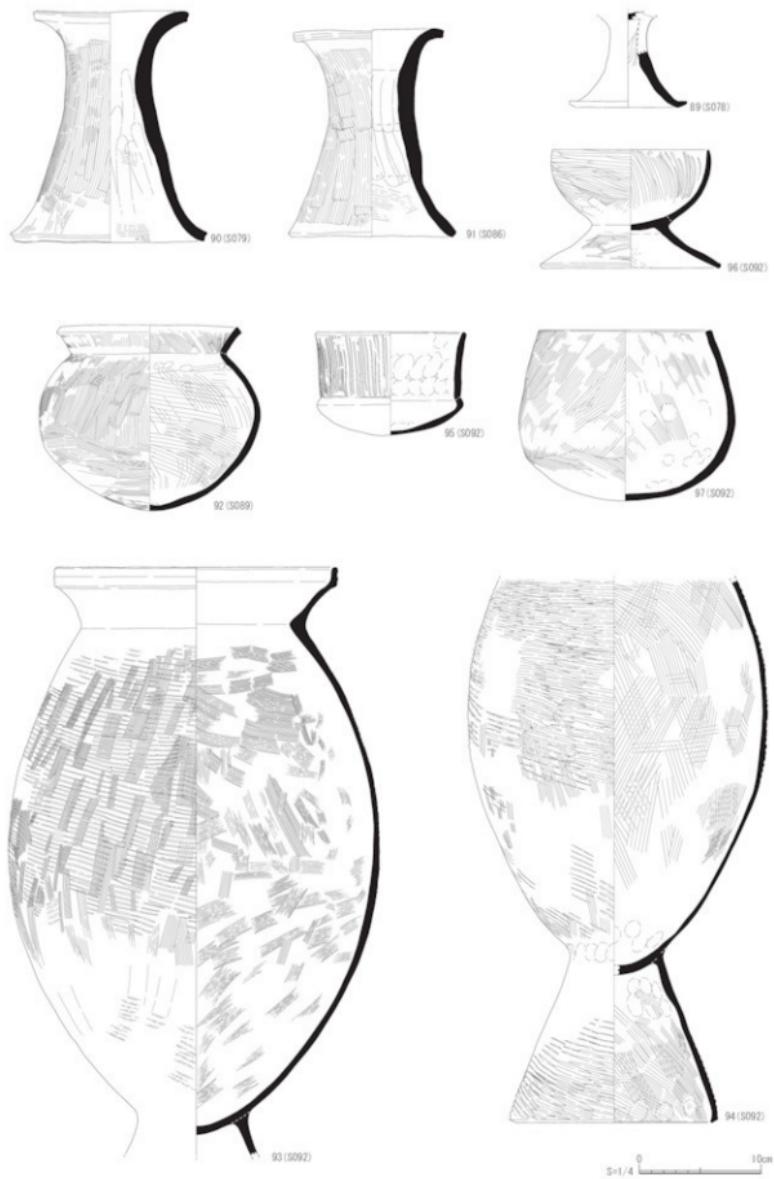


Fig. 61 溝 S078、竪穴建物 S079・S086・S089・S092 出土遺物実測図

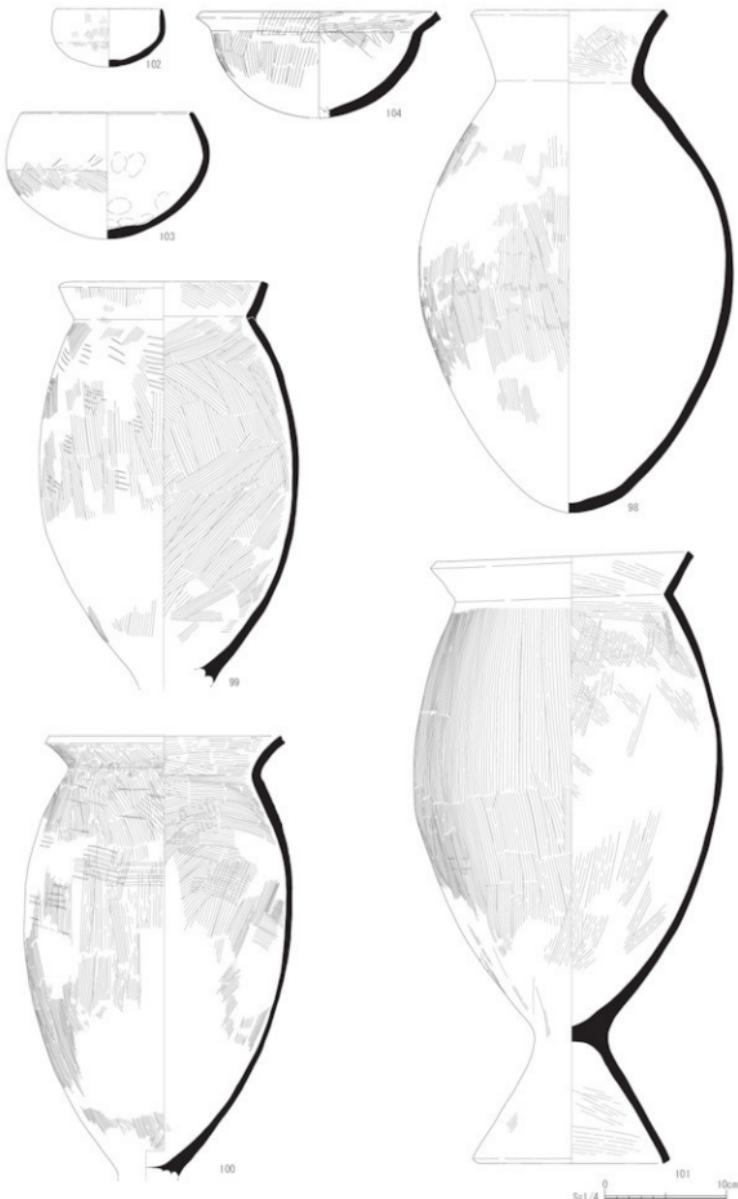


Fig. 62 堅穴建物 S095 出土遺物実測図



Fig. 63 壁穴建物 S096・S099、土坑 S097 出土遺物実測図

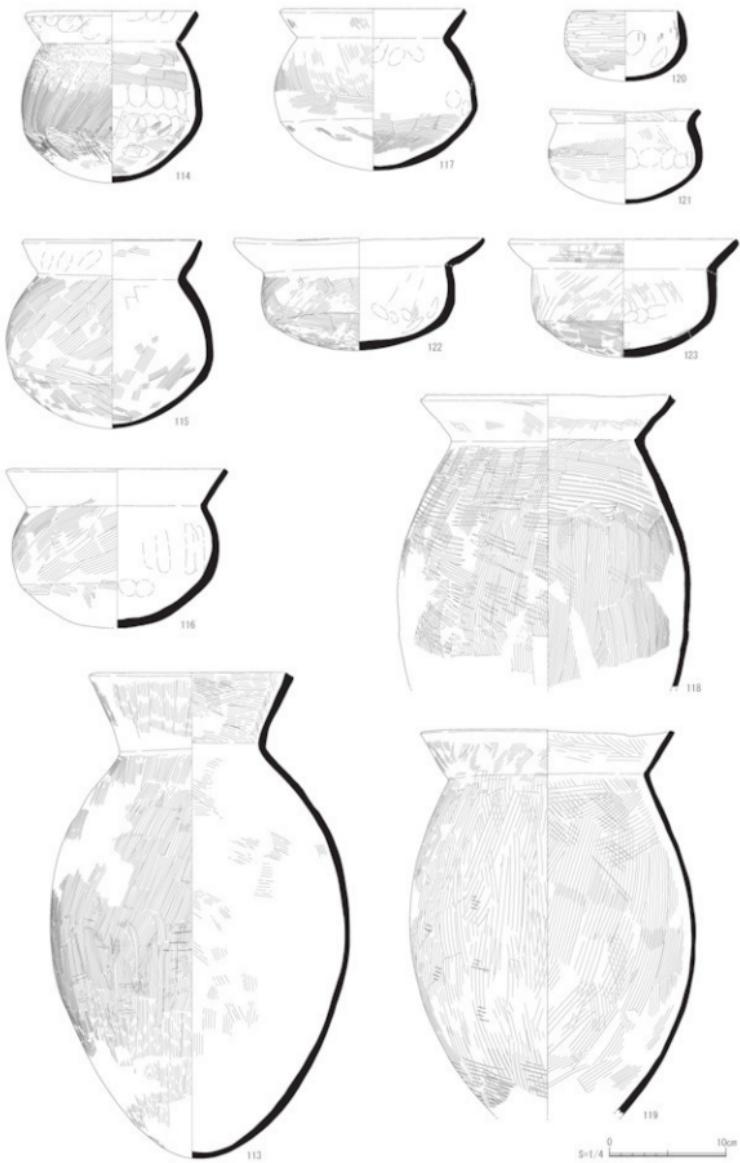


Fig. 64 壓穴建物 S099 出土遺物実測図

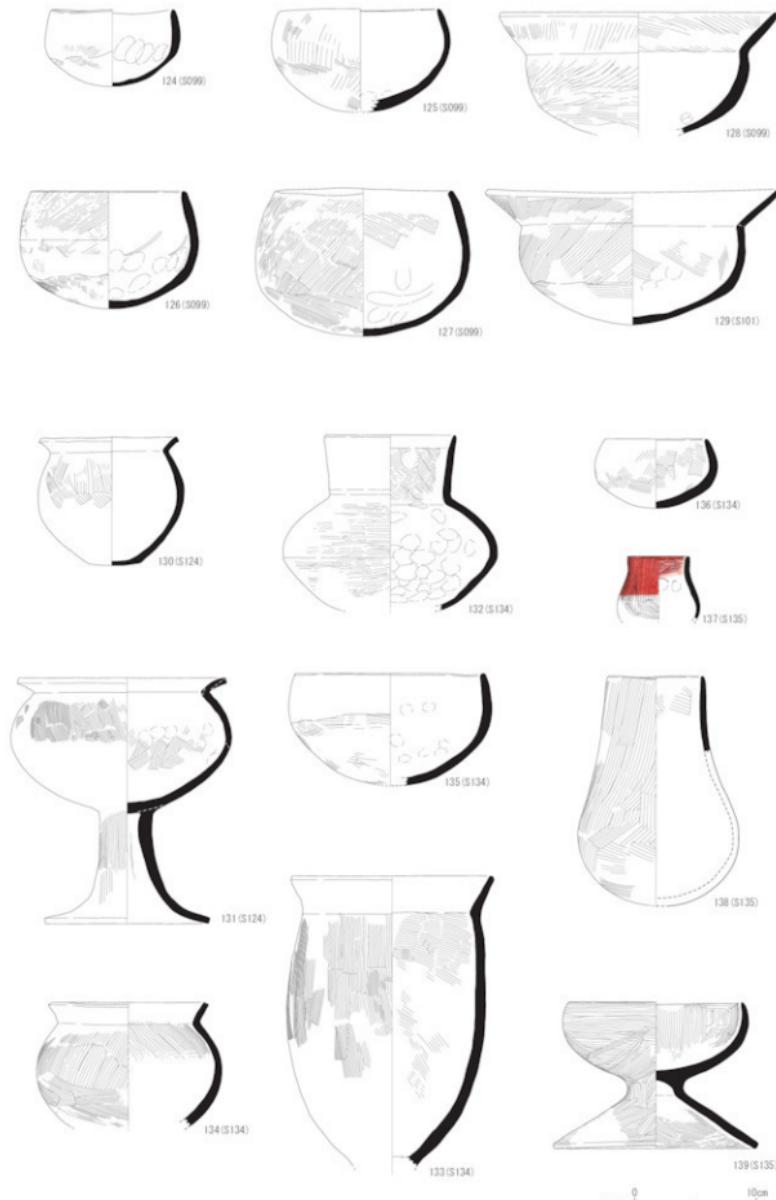


Fig. 65 壁穴建物 S099・S101・S124・S134・S135 出土遺物実測図



Fig. 66 堅穴建物 S135・S140・S141・S143・S145 出土遺物実測図

S=1/4 0 10cm

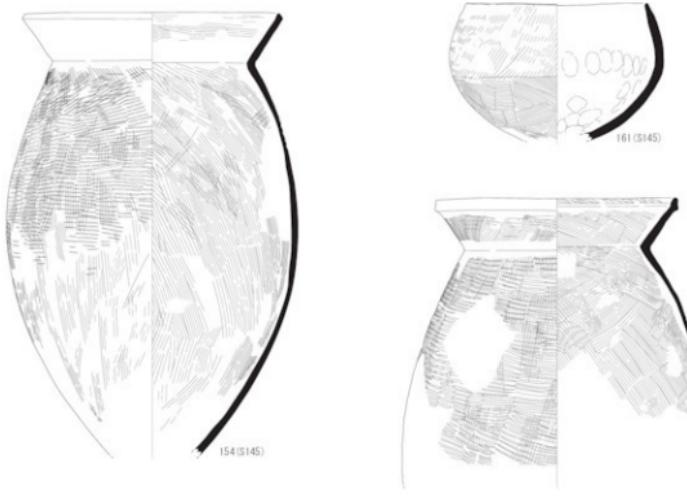
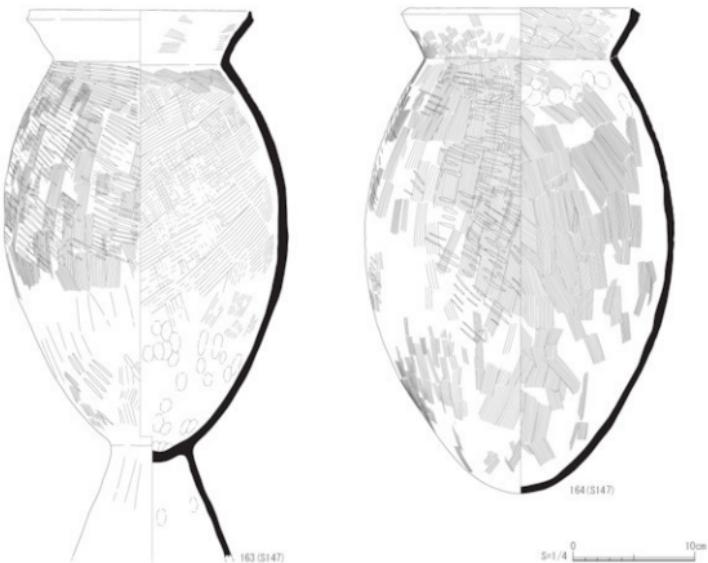
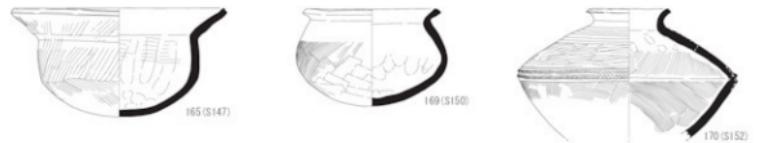


Fig. 67 壓穴建物 S145・S147 出土遺物実測図
Scale 1/4 0 10cm

Fig. 67 壓穴建物 S145・S147 出土遺物実測図



5:1/4 0 10cm

Fig. 68 墓穴建物 S147・S149・S150、土坑 S148・S152 出土遺物実測図



Fig. 69 勢穴建物 S156 出土遺物実測図

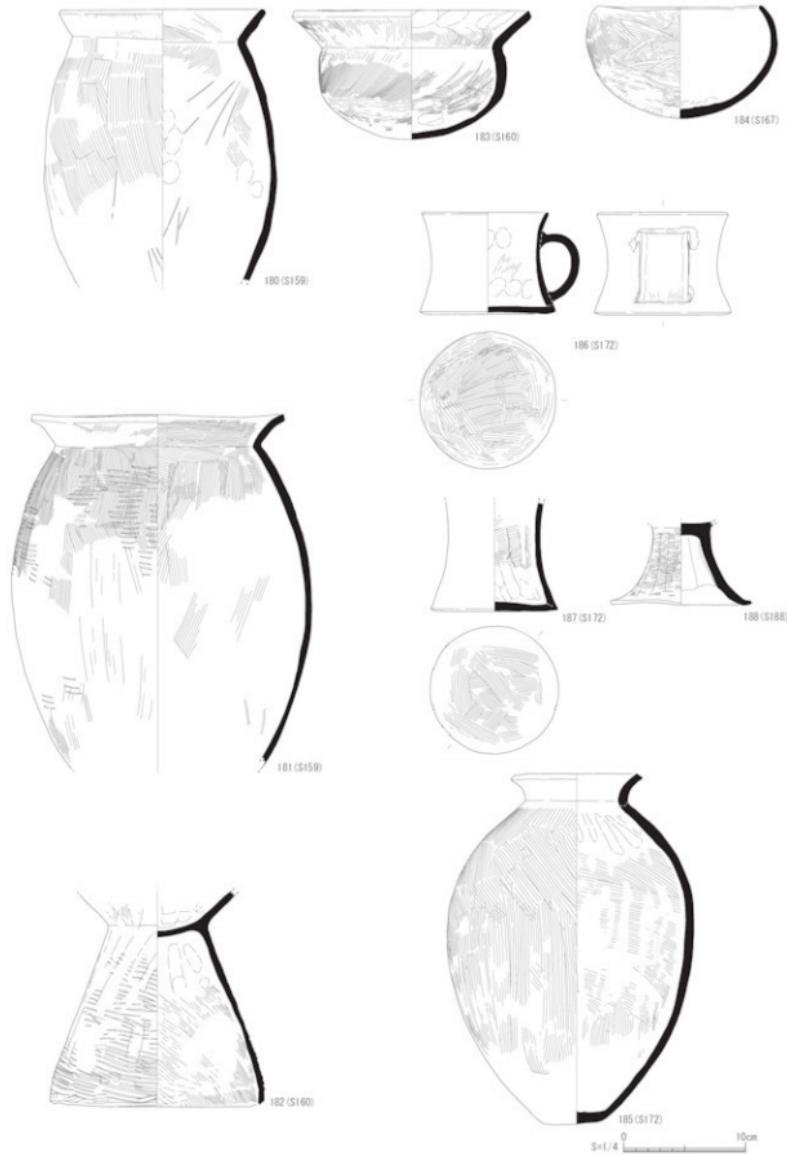


Fig. 70 堅穴建物 S159・S160・S167・S172、土坑 S188 出土遺物実測図

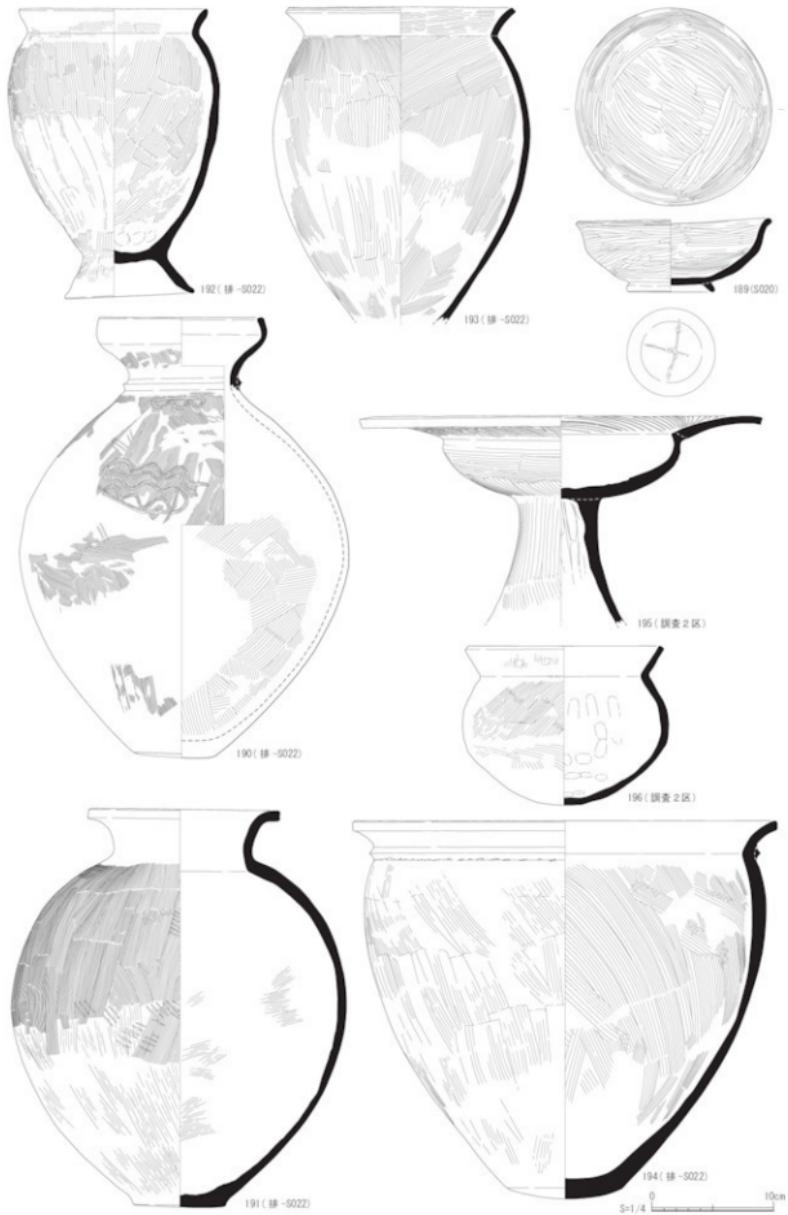


Fig. 71 排水処理槽予定地 墓 S020、土坑 S022、調査区内出土遺物実測図

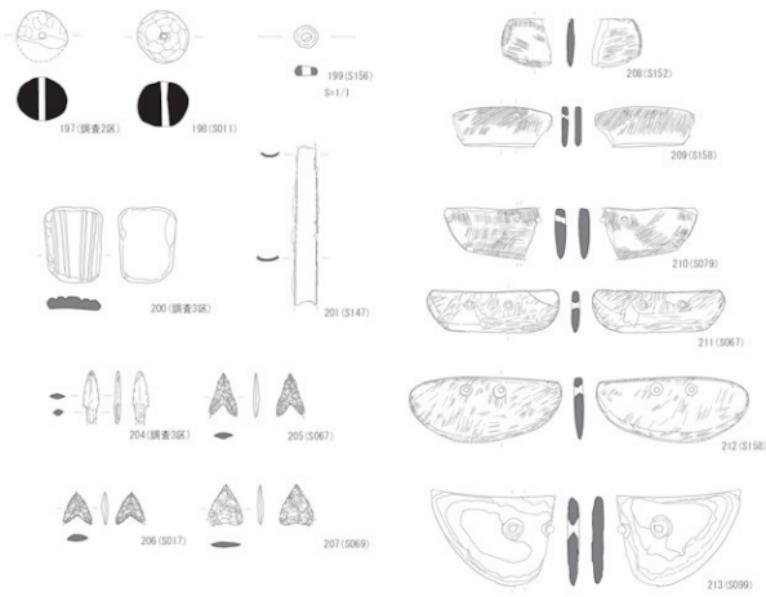


Fig. 72 小形仿製鏡、土鍤、ガラス玉、刀子、銅鑓、石製品実測図

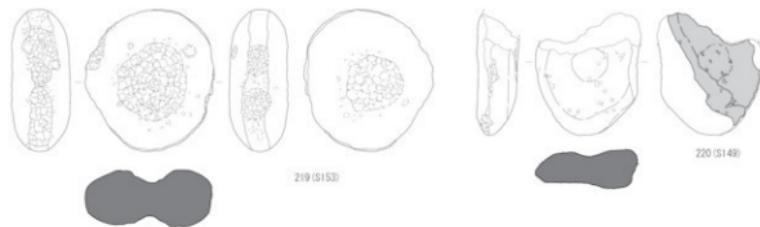
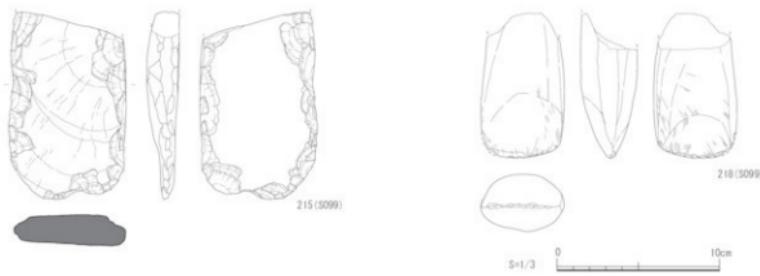
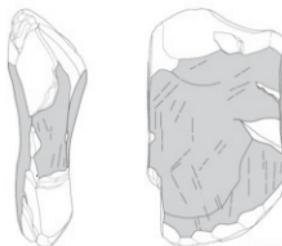
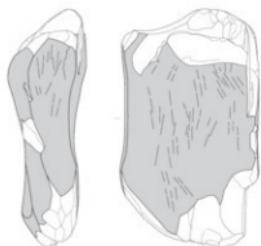
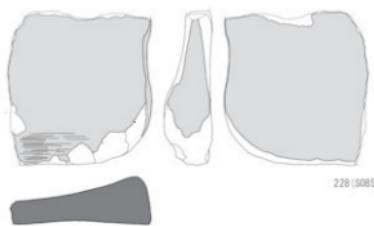
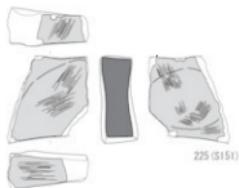
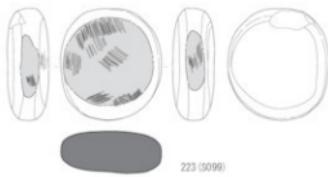


Fig. 73 石製品実測図-①

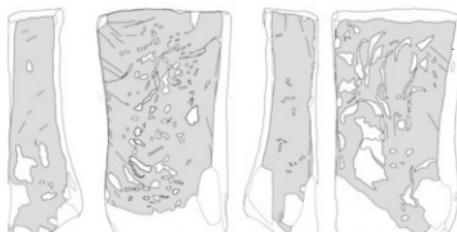


5=1/5 10cm

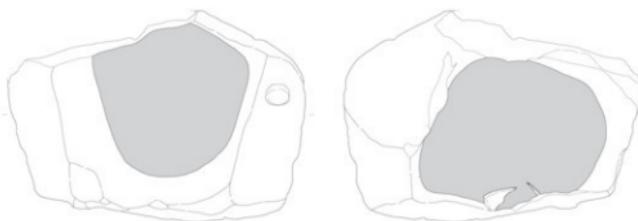
Fig. 74 石製品実測図 - ②



230 (S083)



231 (S137)

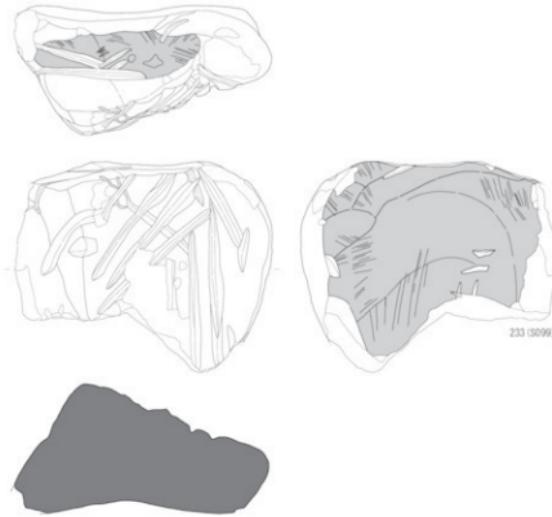


232 (S156)

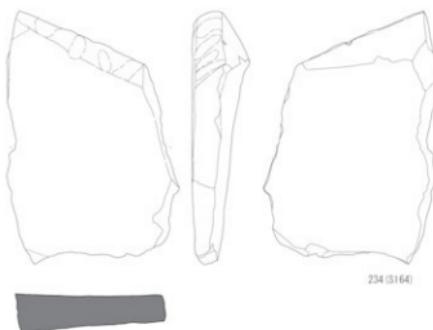


0 10cm
5:1/5

Fig. 75 石製品実測図 - ③



233 (3699)



234 (3164)

Fig. 76 石製品実測図 - ④

5:1/5 0 10cm

遺物番号	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量(cm)				色調		胎土	
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面		
1	49	16・17	S001	旁生土器	複合口縁壺	25.6	-	49.5	83.3	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR6/3	長石, 石英, 角閃石 微細~5 mmの砂粒	
2	18		S001	旁生土器	複合口縁壺	21.4	-	-	13.4	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	長石, 石英, 角閃石 赤色酸化粒	
3			S001	旁生土器	複合口縁壺	(19.0)	-	-	13.0	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	石英, 角閃石 雲母黑色粒, 赤色酸化粒	
4	16・18		S001	旁生土器	複合口縁壺	18.3	-	-	20.2	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	角閃石, 雲母, 赤色酸化粒	
5			S001	旁生土器	壺	21.0	-	(24.9)	26.7	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	石英, 角閃石, 赤色酸化粒	
6	16・18		S001	旁生土器	壺	20.2	-	23.1	33.3	にふい黄橙 10YR7/3	黒褐 10YR3/1	長石, 石英, 角閃石 雲母, 赤色酸化粒	
7			S001	旁生土器	壺	(19.6)	(13.2)	22.5	41.6	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR6/4	長石, 角閃石, 雲母 微細な砂粒, 赤色酸化粒	
8	16・19		S001	旁生土器	壺	-	-	16.3	-	32.9	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 角閃石, 赤色酸化粒 微細~4 mmの砂粒
9			S001	旁生土器	壺	11.7	-	16.4	15.1	にふい橙 7.5YR6/4	にふい橙 7.5YR6/4	角閃石, 石英酸化粒	
10	16・18		S001	旁生土器	高杯	(30.5)	-	-	20.6	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	角閃石, 赤色酸化粒	
11			S001	旁生土器	高杯	(30.4)	-	-	6.4	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 7.5YR7/4	長石, 角閃石, 赤色酸化粒	
12	16・19		S001	旁生土器	片口壺	(19.0)	-	-	7.4	にふい橙 5YR6/4	にふい橙 5YR6/4	雲母, 赤色酸化粒	
13			S001	旁生土器	鉢	12.5	-	-	8.9	にふい橙 7.5YR7/3	にふい橙 7.5YR7/3	角閃石, 鐵石	
14	16・19		S001	旁生土器	鉢	17.1	-	22.7	20.4	橙 5YR6/6	にふい橙 5YR6/6	長石, 石英	
15			S001	旁生土器	鉢	40.5	-	40.8	25.3	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/3	長石, 石英, 角閃石 微細な砂粒	
16	16・19		S001	旁生土器	鉢	(43.0)	-	-	25.4	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	長石, 石英, 角閃石 雲母, 黑色粒, 赤色酸化粒	
17			S048	旁生土器	壺	-	-	22.0	30.1	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/6	長石, 石英, 角閃石	
18	20・21		S048	旁生土器	壺	(15.3)	-	25.0	38.9	明褐 7.5YR5/6	にふい褐 7.5YR5/4	長石, 石英, 角閃石, 雲母	
19			S048	旁生土器	壺	21.2	-	25.8	44.0	にふい橙 7.5YR7/3	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 石英, 角閃石	
20	20・21		S048	旁生土器	鉢	7.3	-	-	9.3	にふい橙 7.5YR7/4	にふい黄橙 10YR7/3	長石, 赤色酸化粒	
21			S048	旁生土器	鉢	13.7	-	-	7.4	にふい黄橙 10YR6/3	にふい黄橙 10YR6/4	長石, 石英, 角閃石 雲母, 黑色粒, 赤色酸化粒	
22	20・21		S048	旁生土器	鉢	(12.3)	-	-	9.8	橙 7.5YR7/6	にふい橙 7.5YR6/4	長石, 石英, 角閃石 雲母, 赤色酸化粒	
23			S048	旁生土器	鉢	17.8	-	-	14.9	にふい橙 5YR7/4	にふい橙 5YR7/4	石英, 角閃石, 赤色酸化粒	
24	23		S066	旁生土器	複合口縁壺	11.2	-	-	10.8	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 角閃石, 鐵石, 雲母	
25			S066	旁生土器	複合口縁壺	14.9	-	(20.4)	20.0	にふい黄橙 10YR7/4	灰黃褐 10YR6/2	角閃石, 紅色酸化粒	
26	22・23		S066	旁生土器	複合口縁壺	20.2	-	(26.9)	45.4	橙 7.5YR6/6	にふい褐 7.5YR5/4	長石, 角閃石, 雲母	
27			S066	旁生土器	複合口縁壺	20.0	-	-	13.9	明赤褐 SYR5/6	にふい橙 5YR6/4	長石, 角閃石, 雲母 赤色酸化粒	
28	23		S066	旁生土器	複合口縁壺	(20.6)	-	-	17.3	にふい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	長石, 石英, 角閃石 雲母, 赤色酸化粒	
29			S066	旁生土器	複合口縁壺	17.6	-	(32.7)	28.2	にふい橙 7.5YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	赤色酸化粒	
30	22・23		S066	旁生土器	複合口縁壺	(22.2)	-	30.3	48.5	橙 7.5YR6/6	にふい橙 7.5YR6/4	長石, 雲母, 微細な砂粒 赤色酸化粒	
31	23		S066	旁生土器	複合口縁壺	19.0	-	-	21.6	にふい橙 7.5YR7/4	にふい黄橙 7.5YR7/4	長石, 石英, 角閃石 赤色酸化粒	
32			S066	旁生土器	複合口縁壺	23.0	-	-	22.1	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	赤色酸化粒	
33	22・23		S066	旁生土器	複合口縁壺	(23.0)	-	(36.6)	54.3	橙 7.5YR6/6	にふい黄橙 10YR6/3	長石, 角閃石, 雲母 微細な砂粒	
34	55	23	S066	旁生土器	複合口縁壺	20.3	-	-	21.5	浅黄橙 10YR8/4	にふい黄橙 10YR7/4	角閃石, 鐵石	

Tab.5 出土遺物觀察表-①

調査				備考	遺物番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
ナデ、ハケ目 タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	タタキ後ハケ目	ハケ目	外器面黒斑 起み目	1
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	起み目 楊描文	2
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	-	-		3
ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、タタキ後ハケ目	ナデ ハケ目後ナデ(摩耗)	-	-	楊描文 烈点文 外器面黒斑	4
ナデ、タタキ、タタキ後 ハケ目、タタキ後 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	5
ハケ目後ナデ、ハケ目	ハケ目後ナデ、ハケ目	-	-	外器面黒斑	6
ナデ、ハケ目 タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目、しづり痕(台付縫) 内外器面黒斑		7
タタキ後ナデ ハケ目後ナデ	ハケ目、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目、指頭圧痕(台付縫) 内外器面黒斑		8
ナデ、暗文、磨き	ナデ、指頭圧痕	-	-	外器面黒斑	9
ナデ、ハケ目	暗文	ハケ目	ナデ		10
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	-	-	口縁部外器面黒斑	11
ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑 内器面保付着	12
ナデ、ハケ目	ハケ目後ナデ	-	-		13
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	楊描文、烈点文	14
ナデ、ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ハケ目	-	-	起み目突帯 外器面黒斑	15
ナデ、ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目	-	-	起み目突帯 内外器面黒斑	16
ハケ目、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ、ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	烈点文、楊描文 外器面黒斑	17
ハケ目、ハケ目後ナデ	ハケ目、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	18
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	(台付縫) 内外器面保付着	19
指ナデ、ナデ 指頭圧痕	指ナデ、指頭圧痕	-	-	外器面保付着	20
ナデ、ハケ目後ナデ 磨き後ナデ	ナデ	磨き後ナデ	ナデ	外底面黒斑	21
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	内器面保付着	22
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕		23
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目 ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	楊描文	24
ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	楊描文、列点文、波状文 外器面黒斑	25
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	ハケ目	ハケ目	楊描文	26
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	起み目突帯	27
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目、指頭圧痕	-	-	波状文	28
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	起み目突帯 楊描文、烈点文 外器面黒斑	29
ナデ、ハケ目 ハケ目後工具ナデ	ナデ、ハケ目	工具ナデ	ナデ	楊描文	30
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	-	-	楊描文	31
ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	-	-	楊描文、烈点文、流水文 外器面赤彩	32
ナデ、ハケ目、ハケ目後 工具ナデ、工具ナデ	ナデ、ハケ目	-	-	烈点文、楊描文、 烈点文(烈点文は隕石のものを押圧か) 外器面黒斑	33
ナデ、ハケ目(摩耗)	ナデ、ハケ目、指頭圧痕	-	-	楊描文	34

遺物番号	Fig No.	PL No.	遺構番号	種別	器種	法量(cm)				色調		胎土
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面	内面	
36	55	25	S066	旁生土器	壺	(11.8)	-	-	12.1	にふい黄橙10YR7/2	にふい黄橙10YR7/2	石英, 角閃石, 赤色酸化粒
35		22・24	S066	旁生土器	複合口縁壺	19.8	-	40.4	66.0	にふい褐7.5YR5/3	灰褐 7.5YR5/2	長石, 石英
37	22・24	24	S066	旁生土器	壺	(14.2)	-	20.2	28.1	にふい黄橙10YR7/3	にふい黄橙10YR7/3	角閃石, 霧母, 赤色酸化粒
38		S066	旁生土器	壺	18.2	-	27.9	42.8	にふい黄橙10YR7/3	にふい黄橙10YR7/3	角閃石, 霧母, 赤色酸化粒	
39	56	S066	旁生土器	壺	13.3	-	22.1	31.5	にふい黄橙10YR7/4	にふい黄橙10YR7/4	長石, 石英, 角閃石 赤色酸化粒	
40		24	S066	旁生土器	壺	15.3	-	23.0	36.8	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	長石, 石英, 角閃石 霧母, 微細な砂粒
41	22・24	S066	旁生土器	壺	17.5	-	27.3	43.4	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	霧母, 微細な砂粒 赤色酸化粒	
42		S066	旁生土器	壺	(14.5)	-	(21.5)	31.1	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	石英, 角閃石, 霧母 黒色粒, 赤色酸化粒	
43	22・25	S066	旁生土器	壺	(5.5)	-	(6.8)	10.1	暗灰黄 2.5Y4/2	灰黄 2.5Y7/2	長石, 霧母, 赤色酸化粒	
44		S066	旁生土器	壺	8.2	-	-	14.8	にふい黄橙10YR6/4	にふい橙 7.5YR6/4	石英, 角閃石, 霧母 輝石, 赤色酸化粒	
45	S066	旁生土器	壺	10.2	-	-	13.4	にふい黄橙7.5YR7/4	にふい黄橙7.5YR6/3	長石, 石英, 輝石		
46	S066	旁生土器	壺	12.0	-	(17.6)	15.0	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	長石, 石英, 角閃石, 霧母		
47	25	S066	旁生土器	壺	(10.8)	-	-	12.8	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6	長石, 石英, 角閃石, 輝石	
48	22・25	S066	旁生土器	壺	5.4	-	-	9.6	浅黄橙 7.5YR8/4	橙 7.5YR7/6	石英, 角閃石, 赤色酸化粒	
49	57	25	S066	旁生土器	壺	(12.1)	-	(15.7)	14.5	にふい黄褐色 10YR7/4	にふい黄褐色 10YR7/2	石英, 角閃石, 輝石
50		S066	旁生土器	壺	(14.6)	-	-	14.0	にふい黄橙10YR5/3	にふい黄橙10YR6/4	長石, 角閃石, 赤色酸化粒	
51	25	S066	旁生土器	壺	-	-	-	8.5	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	石英, 輝石	
52	22・28	S066	旁生土器	壺	13.2	-	15.2	12.7	にふい黄橙10YR6/3	にふい褐 7.5YR6/3	長石, 石英, 角閃石 赤色酸化粒	
53	28	S066	旁生土器	壺	16.3	-	20.1	18.2	にふい黄橙10YR7/2	にふい黄橙10YR7/2	石英, 角閃石, 微細～ 2mmの砂粒, 赤色酸化粒	
54	22・28	S066	旁生土器	壺	(19.5)	-	21.6	22.1	にふい黄橙10YR7/3	にふい黄橙10YR7/2	長石, 石英, 角閃石, 霧母	
55	28	S066	旁生土器	鉢	18.0	-	(22.0)	17.5	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	白色粒, 黒色粒 赤色酸化粒	
56	47	S066	旁生土器	ショッキ形 土器	-	(11.2)	-	3.8	にふい黄橙10YR6/4	にふい黄橙10YR7/4	長石, 石英, 角閃石, 霧母	
57	22・25	S066	旁生土器	壺	16.6	-	18.2	28.6	にふい黄橙10YR7/3	にふい橙 7.5YR7/3	角閃石, 赤色酸化粒	
58		22	S066	旁生土器	壺	17.3	-	20.0	31.3	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8	長石, 石英, 角閃石, 霧母
59	58	S066	旁生土器	壺	20.7	-	24.3	29.4	にふい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	長石, 石英, 角閃石 霧母, 赤色酸化粒	
60		S066	旁生土器	壺	23.3	-	(15.8)	28.7	橙 7.5YR7/6	にふい橙 7.5YR7/4	角閃石, 霧母, 砂粒 赤色酸化粒	
61	26	S066	旁生土器	壺	21.1	-	(23.1)	22.5	にふい黄橙10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3	長石, 石英, 角閃石 赤色酸化粒	
62		S066	旁生土器	壺	27.9	-	-	23.3	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	石英, 角閃石, 霧母 微細～3mmの砂粒 赤色酸化粒	
63	22・25	S066	旁生土器	甕	21.0	(14.1)	23.0	42.1	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石, 角閃石, 霧母 微細な砂粒, 赤色酸化粒	
64		22・26	S066	旁生土器	高杯	34.1	-	-	7.3	にふい黄褐色 10YR7/3	にふい黄褐色 10YR7/3	食石, 石英, 角閃石 赤色酸化粒
65	26	S066	旁生土器	高杯	29.4	-	-	7.0	にふい黄橙10YR7/3	にふい黄橙10YR7/3	長石, 石英, 角閃石, 輝石	
66		S066	旁生土器	高杯	-	-	-	11.5	にふい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	石英, 霧母, 輝石	
67	S066	旁生土器	高杯	(26.0)	16.8	-	20.4	にふい黄褐色 10YR7/4	にふい黄褐色 10YR7/4	長石, 石英, 霧母, 輝石		

Tab.6 出土遺物観察表-②

調整				備考	遺物番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目、指頭圧痕	-	-		36
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	ナデ、工具痕	ナデ	外器面黒斑 脱み目突起	35
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	37
ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目	ナデ	ハケ目後ナデ	根掘文 外器面黒斑	38
ナデ、タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	39
ナデ、タタキ後 ハケ目、タタキ後 ハケ目後工具ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	工具ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	40
ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、タタキ、タタキ後 ハケ目、タタキ後 ハケ目後工具ナデ	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	タタキ後工具ナデ	ナデ	外器面黒斑	41
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	ハケ目後ナデ	ハケ目	外器面黒斑	42
ナデ、磨き後ナデ 磨き	ナデ、しづき痕	磨き	ナデ	口縁・頸部赤色顔料付着 外器面黒斑	43
ナデ、磨き	ナデ、工具ナデ 指頭圧痕	-	-		44
ナデ、ハケ目後磨き	ハケ目後ナデ、ナデ	-	-		45
ナデ、磨き ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	46
ナデ後磨き	ハケ調整後磨き	-	-		47
ハケ目後ナデ、磨き	指頭圧痕、磨き	-	-		48
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目、指頭圧痕			外器面黒斑	49
ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	-	-		50
ナデ	ナデ	-	-	外器面黒斑	51
ナデ、ハケ目、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	ハケ目	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	52
ハケ目、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	-	-	外器面黒斑	53
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	-	-	外器面黒斑	54
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	-	-	外器面黒斑 保付着	55
ナデ後磨き	ナデ	ナデ後磨き	ナデ		56
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ、タタキ タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ	-	ナデ	(台付) 外器面黒斑	57
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	-	ハケ目後ナデ	(台付) 内外器面黒斑 保付着	58
ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	59
ナデ、タタキ後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	60
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目後工具ナデ タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-		61
ナデ、タタキ後 ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	-	-		62
ナデ、ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	(台付) 内外器面黒斑 保付着	63
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	64
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-		65
ハケ目、ハケ目後 ナデ、ハケ目後磨き	ナデ、磨き	ハケ目後ナデ	指頭圧痕		66
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、瞳文、指頭圧痕	ナデ、ハケ目、指頭圧痕	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑	67

遺物 番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法量 (cm)				色調		胎土	
						口径	底径	最大 胴径	残存高	外面	内面		
68	59	22・26	S066	弥生土器	高杯	26.4	(16.2)	-	18.9	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	石英, 角閃石	
69			S066	弥生土器	鉢	6.4	-	-	6.5	にふい黄檻 10YR7/4	にふい黄檻 10YR7/4	輝石, 角閃石	
70		S066	弥生土器	鉢	9.2	7.3	-	-	にふい黄檻 2.SYR6/3	にふい黄檻 2.SYR6/3	長石, 石英, 角閃石, 輝石		
71		S066	弥生土器	鉢	(8.1)	-	-	5.1	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	石英, 角閃石, 輝石		
72		S066	弥生土器	鉢	(9.1)	-	-	5.0	にふい黄檻 10YR6/4	にふい黄檻 10YR6/4	長石, 角閃石, 雪母		
73		27	S066	弥生土器	鉢	(8.9)	(7.3)	-	-	にふい黄檻 10YR7/3	にふい黄檻 10YR7/3	長石, 石英, 角閃石, 雪母, 赤色酸化粒	
74			S066	弥生土器	鉢	11.7	-	-	7.9	にふい檻 7.SYR6/3	灰褐 7.SYR5/2	長石, 石英, 角閃石, 赤色酸化粒	
75			S066	弥生土器	鉢	12.1	-	-	7.8	にふい黄檻 10YR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	長石, 石英, 角閃石	
76			S066	弥生土器	鉢	(12.5)	-	-	8.1	にふい黄檻 10YR7/3	にふい黄檻 10YR7/3	雪母, 輝石	
77	60	22・28	S066	弥生土器	鉢	10.2	-	-	5.7	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	長石, 石英, 角閃石, 雪母, 赤色酸化粒	
78			S066	弥生土器	鉢	18.4	-	-	9.9	檻 SYR6/6	檻 SYR6/6	長石, 石英, 角閃石	
79		22・28	S066	弥生土器	鉢	20.0	-	-	8.2	檻 7.SYR6/6	にふい檻 7.SYR6/4	長石, 角閃石, 赤色酸化粒	
80			S066	弥生土器	鉢	22.3	-	-	8.6	浅黄檻 7.SYR8/4	浅黄檻 7.SYR8/4	石英, 角閃石, 赤色酸化粒	
81		28	S066	弥生土器	鉢	25.0	-	-	9.7	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	長石, 角閃石, 雪母, 輝石, 赤色酸化粒	
82			S066	弥生土器	鉢	13.3	-	-	9.8	檻 SYR6/6	にふい檻 7.SYR7/4	長石, 石英, 角閃石	
83			S066	弥生土器	鉢	16.1	-	-	12.4	にふい黄檻 10YR7/4	にふい黄檻 10YR7/3	長石, 赤色酸化粒	
84			S066	弥生土器	鉢	17.1	-	-	13.7	にふい檻 7.SYR7/4	檻 7.SYR6/6	石英, 角閃石, 雪母, 輝石, 赤色酸化粒	
85			S066	弥生土器	鉢	15.8	-	-	14.6	檻 7.SYR7/6	檻 7.SYR7/6	長石, 石英, 角閃石, 雪母, 載石, 赤色酸化粒	
86		27	S066	弥生土器	鉢	33.6	-	-	11.1	にふい黄檻 10YR7/4	にふい黄檻 10YR7/4	長石, 石英, 赤色酸化粒	
87			S066	弥生土器	鉢	27.8	24.9	-	27.6	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	角閃石, 赤色酸化粒	
88			S066	弥生土器	鉢	34.2	-	32.2	31.9	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR6/4	長石, 角閃石, 雪母, 赤色酸化粒	
89	61	28	S078		高杯	-	9.6	-	7.8	檻 7.SYR7/6	檻 7.SYR7/6	長石, 石英, 輝石, 赤色酸化粒, 鈍粒	
90			S079	弥生土器	器台	12.7	16.1	-	19.0	浅黄檻 10YR8/3	にふい黄檻 10YR6/3	長石, 石英, 雪母, 輝石	
91			S086	弥生土器	器台	12.3	13.5		17.1	浅黄檻 10YR6/4	浅黄檻 10YR6/4	長石, 石英, 輝石, 雪母	
92		29	S089	弥生土器	壺	15.1	-	18.1	15.2	浅黄檻 7.SYR8/4	浅黄檻 7.SYR8/6	長石, 角閃石, 赤色酸化粒	
93			S092	弥生土器	壺	23.2	-	30.4	48.3	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	長石, 石英, 角閃石	
94			S092	弥生土器	壺	-	17.0	(24.6)	44.5	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	長石, 石英, 赤色酸化粒	
95			S092	弥生土器	鉢	12.4	-	-	8.5	にふい黄檻 10YR7/4	にふい黄檻 10YR7/4	角閃石, 雪母, 黑色粒, 赤色酸化粒	
96			S092	弥生土器	台付鉢	12.8	14.8	-	9.7	にふい黄檻 10YR7/4	にふい黄檻 10YR7/4	長石, 石英, 角閃石, 赤色酸化粒	
97			S092	弥生土器	鉢	(14.2)	-	17.7	14.0	にふい黄檻 10YR7/4	檻 7.SYR7/6	角閃石, 赤色酸化粒	
98	62	30・31	S095	弥生土器	壺	16.2	-	25.8	41.2	にふい黄檻 10YR7/3	にふい檻 7.SYR7/3	長石, 石英, 角閃石, 雪母, 赤色酸化粒	
99			S095	弥生土器	壺	(17.2)	-	21.3	33.2	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	角閃石, 雪母, 赤色酸化粒	
100			S095	弥生土器	壺	(19.7)	-	(22.0)	36.1	にふい檻 7.SYR6/4	にふい檻 7.SYR7/4	長石, 石英	
101			S095	弥生土器	壺	21.5	16.1	25.3	50.1	にふい檻 7.SYR7/4	にふい檻 7.SYR7/4	長石, 石英, 角閃石	
102			S095	弥生土器	鉢	8.6	-	-	4.8			長石	
103			S095	弥生土器	鉢	14.2	-	-	10.4	檻 SYR6/6	にふい檻 7.SYR6/4	長石, 石英, 角閃石, 雪母, 赤色酸化粒	
104			S095	弥生土器	鉢	(20.0)	-	-	8.7	にふい檻 7.SYR6/4	にふい檻 7.SYR6/4	角閃石, 雪母, 白色粒	

Tab.7 出土遺物觀察表-③

調査				備考	遺物 番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
ナデ、ハケ目 ハバ目後ナデ	縦文、ナデ、指頭圧痕	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ		68
ハケ目、磨き	ハケ目、磨き	-	-		69
ハバ目後ナデ	指ナデ、ハケ目	-	-		70
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ		71
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	72
ハケ目後ナデ	ハケ目後指ナデ	-	-		73
ハケ目後磨き	ナデ、指頭圧痕	-	-		74
工具ナデ後磨き	工具ナデ後磨き	-	工具ナデ	(台付鉢) 内外器面赤彩 内外器面黒斑	75
ハケ目、ナデ	ナデ	指頭圧痕	-	(台付鉢) 内外器面赤彩痕	76
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハバ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕		77
ハケ目後ナデ(摩耗)	ハケ目後ナデ(摩耗) (摩耗)、指頭圧痕	ハケ目後ナデ(摩耗)	ハケ目後ナデ(摩耗)	外器面黒斑	78
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面摩耗着	79
ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	-	-		80
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ナデ	ナデ、指頭圧痕	内外器面黒斑 外器面摩耗着	81
ハケ目後ナデ(摩耗)	ナデ、指頭圧痕	-	-		82
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕		83
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	ナデ	ハケ目	外器面黒斑	84
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	-	-	内外器面黒斑	85
ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-	刻み目突帯	86
ナデ、ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	刺突文	87
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ	内外器面黒斑 刻み目 刻み目突帯 列点文	88
ナデ	ナデ	ナデ	-	外底面絞り痕	89
ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-		90
ナデ、ハケ目	ナデ、ヘラ崩り、 ハケ目後ナデ	-	-		91
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、指頭圧痕	ハケ目	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	92
ナデ、タタキ後ハケ 目、タタキ後工具ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ、指頭圧痕	(台付鉢) 外器面黒斑 摩耗着	93
タタキ、タタキ後 ハケ目、タタキ後 ハケ目後ナデ	ハケ目、タタキ後ナデ	ナデ、タタキ タタキ後ナデ	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	(台付鉢) 外器面黒斑 指頭圧痕	94
ナデ、唯文	ナデ、指頭圧痕	ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑 内外器面摩耗着	95
磨き、工具ナデ	縦文、ナデ	磨き	ナデ、ハケ目後ナデ	(台付鉢) 外器面黒斑	96
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ、ハバ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	97
ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目、ナデ	ナデ	ナデ	外器面黒斑	98
ナデ、ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	-	-	(台付鉢) 外器面黒斑	99
ナデ、ハケ目 タタキ後ハケ目	ハケ目、タタキ後ナデ	-	-	(台付鉢) 外器面摩耗着	100
ナデ、ハケ目、ハケ目後 工具ナデ、タタキ後 ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	(台付鉢) 外器面黒斑	101
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ	-	-		102
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	103
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ、ハケ目	内外器面黒斑	104

遺物番号	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量(cm)			色調		胎土	
						口径	底径	最大胴径	残存高	外面		
105	63	31	S096	弥生土器	台付鉢	(21.2)	(17.2)	-	20.1	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	長石, 石英, 角閃石
106			S097	弥生土器	台付壺	(13.4)	-	(18.8)	17.1	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 石英, 角閃石 雲母, 花崗岩, 黒曜石
107		33	S097	弥生土器	台付壺	15.7	-	16.7	18.6	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 石英
108			S097	弥生土器	壺	19.3	-	(23.0)	27.9	にふい黄橙 10YR6/3	にふい黄橙 10YR7/2	長石, 石英, 角閃石
109			S097	弥生土器	鉢	(17.2)	-	-	14.2	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	長石, 石英, 角閃石
110		32・33	S097	弥生土器	鉢	15.7	-	-	15.8	にふい赤褐 5YR5/3	にふい赤褐 5YR6/3	石英, 角閃石, 赤色酸化粒
111			S099	弥生土器	複合口縁壺	22.5	-	32.7	42.1	にふい橙 7.5YR7/4	橙 5YR6/6	長石, 石英, 角閃石 雲母, 赤色酸化粒
112			S099	弥生土器	壺	(13.6)	-	24.3	32.2	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	長石, 石英, 角閃石 雲母, 赤色酸化粒
113			S099	弥生土器	壺	17.5	-	25.6	41.5	にふい黄橙 10YR7/4	灰白 10YR7/1	長石, 石英, 角閃石
114	64	32・34	S099	弥生土器	壺	14.8	-	15.5	14.7	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	石英, 角閃石, 雲母 黒色粒, 赤色酸化粒
115			S099	弥生土器	壺	15.4	-	17.7	16.1	橙 7.5YR7/6	にふい橙 7.5YR7/4	長石, 石英, 赤色酸化粒
116		34	S099	弥生土器	壺	19.0	-	-	13.6	灰白 10YR8/2	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 角閃石, 雲母
117			S099	弥生土器	壺	16.0	-	17.4	13.8	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 角閃石, 雲母
118		32・34	S099	弥生土器	甕	21.8	-	25.1	25.0	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 角閃石, 雲母 赤色酸化粒
119			S099	弥生土器	甕	21.7	-	24.5	33.1	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 石英, 角閃石 雲母, 微細な砂粒 赤色酸化粒
120		32・35	S099	弥生土器	鉢	8.9	-	-	6.0	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6	角閃石, 雲母, 赤色酸化粒
121			S099	弥生土器	鉢	13.0	-	-	8.1	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	角閃石, 雲母, 黒色粒 赤色酸化粒
122		34	S099	弥生土器	鉢	21.5	-	-	9.6	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	石英, 角閃石, 雲母 微細な砂粒
123			S099	弥生土器	鉢	19.7	-	-	10.1	にふい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	長石, 角閃石, 雲母 赤色酸化粒
124	65	32・35	S099	弥生土器	鉢	10.2	-	11.1	6.3	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石, 石英, 角閃石 雲母, 黒色粒, 赤色酸化粒
125			S099	弥生土器	鉢	13.0	-	14.7	8.5	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	石英, 角閃石, 赤色酸化粒
126		34	S099	弥生土器	鉢	14.5	-	-	12.2	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/3	角閃石, 雲母, 雲母
127			S099	弥生土器	鉢	22.8	-	-	10.0	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	長石, 角閃石, 雲母 赤色酸化粒
128		35	S099	弥生土器	鉢	24.2	-	-	11.1	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	石英, 角閃石, 雲母 赤色酸化粒
129			S101	弥生土器	鉢	12.8	-	-	9.6	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR6/4	長石, 石英, 角閃石 雲母, 黒色粒, 赤色酸化粒
130			S124	弥生土器	鉢	11.4	-	-	10.5	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	長石, 石英, 角閃石, 雲母
131		36	S124	弥生土器	台付鉢	(17.3)	(13.6)	(18.1)	20.1	にふい黄橙 10YR7/4	灰白 10YR8/1	長石, 石英, 角閃石, 雲母
132			S134	弥生土器	壺	(10.8)	-	(17.6)	14.2	にふい黄橙 10YR6/4	にふい黄橙 10YR6/4	長石, 石英, 角閃石 雲母, 赤色酸化粒
133			S134	弥生土器	甕	16.7	-	-	23.8	にふい橙 5YR7/4	にふい橙 7.5YR6/4	長石, 石英, 角閃石, 雲母
134			S134	弥生土器	鉢	13.1	-	15.2	10.2	にふい橙 7.5YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	角閃石, 雲母
135			S134	弥生土器	鉢	15.5	-	-	9.2	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/2	微細な砂粒, 赤色酸化粒
136			S134	弥生土器	鉢	8.4	-	-	5.7	にふい黄橙 10YR7/4	にふい橙 7.5YR7/4	長石, 角閃石, 赤色酸化粒
137			S135	弥生土器	壺	(5.1)	-	-	5.2	にふい赤褐 5YR5/4	にふい黄橙 10YR6/4	長石, 赤色酸化粒
138			S135	弥生土器	壺	7.8	-	13.2	18.8	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR5/4	角閃石
139			S135	弥生土器	台付鉢	(14.3)	16.8	-	12.0	赤 10YR5/8	橙 5YR6/6	石英, 角閃石, 砂粒 赤色酸化粒

Tab.8 出土遺物観察表-④

調査				備考	遺物 番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目, ハケ目後 ナデ, 指頭圧痕	ハケ目(摩耗)	ナデ, ハケ目後ナデ		105
ナデ, ハケ目後ナデ 磨き	ナデ, ハケ目後ナデ 磨き, 指頭圧痕	-	-	(台付型) 外器面黒斑	106
ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目	-	ナデ	(台付型) 外器面黒斑	107
ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目	-	-		108
ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目	ナデ	ハケ目	外器面黒斑 保付着	109
ナデ, ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ, ハケ目後ナデ ハケ目	ハケ目後ナデ	ナデ	柳描文、烈点文 内器面で具痕 外面黒斑	110
ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目, ハケ目後 ナデ, 指頭圧痕	-	-	烈み目 柳描文、烈点文 外器面黒斑	111
ナデ, ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ, ハケ目	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑 保付着	112
ナデ, ハケ目後ナデ タタキ後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ, ハケ目後ナデ	タタキ後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面保付着	113
ハケ目, ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目, 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目	外器面黒斑	114
ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目後ナデ 工具ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	115
ナデ, ハケ目 タタキ後ハケ目	ナデ, 指頭圧痕	タタキ後ハケ目	ナデ, 指頭圧痕	外器面黒斑	116
ナデ, ハケ目 タタキ後ナデ	ナデ, 工具ナデ, ハケ目	タタキ後ナデ	ハケ目	外底面黒斑	117
ナデ, ハケ目後ナデ タタキ後ハケ目	ナデ, ハケ目後ナデ ハケ目	-	-	外器面黒斑	118
ハケ目後ナデ ハケ目, タタキ 工具ナデ	ハケ目後ナデ, ハケ目	-	-	内外器面黒斑	119
磨き, ハケ目	ナデ工具痕 指頭圧痕	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	外底面黒斑	120
ナデ, ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ, ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ	ナデ	外器面黒斑	121
ナデ, ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ, ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑	122
ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目(摩耗)	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	内外器面黒斑	123
ナデ, ハケ目後ナデ	ナデ, 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ, 指頭圧痕	外器面黒斑 風呂付着	124
ナデ, ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑	125
ナデ, ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ, 指頭圧痕	ハケ目, ナデ	指ナデ		126
ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目 ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ, 指頭圧痕	外器面黒斑 保付着	127
ナデ, ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ, ハケ目	ナデ	ナデ	外底面黒斑	128
ナデ, ハケ目後ナデ	ナデ, 指頭圧痕, 工具痕	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	外器面黒斑	129
ナデ, ハケ目後ナデ	ナデ	-	-		130
ナデ, ハケ目	ナデ, ハケ目	ナデ	ナデ	外器面黒斑 外底面絞り痕	131
ナデ, 磨き(摩耗)	ナデ, ハケ目, 指頭圧痕	-	-		132
ナデ, ハケ目	ナデ, ハケ目	-	-	(台付型) 外器面黒斑 外器面を打ち欠いている	133
ナデ, ハケ目後ナデ	ナデ, ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑	134
ナデ, ハケ目後ナデ	ナデ, 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ, 指頭圧痕	外器面黒斑	135
ナデ, ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ, ハケ目後ナデ ナデ, ハケ目	-	ナデ	外底面黒斑	136
磨き	磨き, ナデ, 指頭圧痕	-	-	口縁部内器面~飼部中位外器面赤彩	137
ナデ, ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ, ハケ目	ハケ目	ナデ	外器面黒斑	138
ヘラ磨き	磨き	磨き	ナデ, ハケ目後ナデ	(台付跡) 全体赤彩か	139

遺物 番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法量(cm)			色調		胎土	
						口径	底径	最大 胴径	残存高	外面		
140	37	66	S135	弥生土器	鉢	11.7	-	12.2	7.0	明黄褐 10YR6/6	にふい黄橙 10YR6/4	長石、石英、角閃石 雲母、黒色粒、赤色酸化粒
141			S135	弥生土器	鉢	14.1	-	-	12.8	にふい黄橙 10YR7/4	にふい橙 7.5YR7/3	角閃石、雲母、赤色酸化粒
142			S135	弥生土器	鉢	15.1	-	17.6	13.6	にふい黄橙 10YR7/3	にふい赤褐 5YR5/4	長石、角閃石
143			S135	弥生土器	壺	16.2	-	18.4	13.5	にふい橙 5YR6/4	にふい橙 7.5YR6/4	長石、角閃石、赤色酸化粒
144			S140	弥生土器	複合口縁壺	(19.4)	-	-	15.4	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR6/4	角閃石、砂粒、赤色酸化粒
145			S140	弥生土器	高杯	29.7	-	-	13.3	にふい黄橙 10YR6/4	にふい黄橙 10YR6/4	長石、石英、角閃石 雲母、黒色粒、赤色酸化粒
146			S140	弥生土器	鉢	14.2	-	-	15.7	にふい黄橙 10YR6/4	にふい黄橙 10YR6/4	長石、石英、角閃石 雲母、黒色粒、赤色酸化粒
147			S140	弥生土器	鉢	(15.3)	-	17.9	12.1	橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR7/6	角閃石、雲母、赤色酸化粒
148			S141	弥生土器	壺	14.1	-	15.6	15.0	にふい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	石英、角閃石、砂粒 赤色酸化粒
149			S141	弥生土器	鉢	9.8	-	-	7.2	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR6/4	石英、薄輝・薄赤、赤色酸化粒
150	39	39	S143	弥生土器	鉢	9.1	-	-	6.2	橙 7.5YR7/6	にふい橙 7.5YR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化粒
151			S145	弥生土器	壺	11.4	-	17.6	26.9	にふい黄橙 10YR7/2	にふい黄橙 10YR7/2	角閃石、雲母、赤色酸化粒
152			S145	弥生土器	壺	12.4	-	20.1	31.8	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	角閃石、雲母、砂粒 赤色酸化粒
153			S145	弥生土器	壺	(10.7)	-	13.7	9.5	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	長石、石英、角閃石 赤色酸化粒
154			S145	弥生土器	瓶	21.4	-	24.0	36.3	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/6	長石、石英、角閃石 赤色酸化粒
155			S145	弥生土器	鉢	10.9	-	-	7.6	にふい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	雲母、赤色酸化粒
156			S145	弥生土器	鉢	14.5	-	17.0	11.5	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/4	角閃石、雲母、赤色酸化粒
157			S145	弥生土器	鉢	15.2	-	17.4	10.4	にふい橙 7.5YR7/3	にふい橙 7.5YR7/3	石英、角閃石、赤色酸化粒
158			S145	弥生土器	鉢	14.1	8.3	-	11.5	にふい黄橙 10YR6/4	にふい黄橙 10YR6/4	長石、石英、角閃石、雲母
159			S145	弥生土器	鉢	22.2	-	-	10.3	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR7/3	石英、角閃石、雲母 赤色酸化粒
160	38・39	67	S145	弥生土器	鉢	15.7	-	-	15.85	にふい黄橙 7.5YR7/4	にふい黄橙 7.5YR7/4	輝石
161			S145	弥生土器	鉢	15.0	-	-	11.2	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 7.5YR7/4	雲母、微細な砂粒
162			S147	弥生土器	瓶	20.0	-	(25.4)	21.9	にふい橙 7.5YR7/4	にふい黄橙 10YR7/3	長石、石英、角閃石 黒色粒、赤色酸化粒
163			S147	弥生土器	壺	18.6	-	(24.3)	45.0	にふい橙 7.5YR6/3	橙 5YR6/6	角閃石、白色粒、黑色粒
164			S147	弥生土器	瓶	19.6	-	(25.4)	39.8	橙 7.5YR7/6	にふい黄橙 10YR7/4	長石、石英、雲母
165			S147	弥生土器	鉢	17.7	-	-	8.9	にふい橙 7.5YR7/4	にふい橙 7.5YR6/4	角閃石、赤色酸化粒
166			S148	弥生土器	瓶	19.8	10.5	18.3	24.0	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	石英、角閃石、雲母 砂粒、赤色酸化粒
167			S149	弥生土器	壺	11.3	-	18.3	28.9	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	長石、角閃石、赤色酸化粒
168			S149	弥生土器	壺	-	-	23.8	33.7	にふい黄橙 10YR7/4	にふい黄橙 10YR7/2	角閃石、雲母 微細な砂粒、赤色酸化粒
169	42	41・42	S150	弥生土器	鉢	11.3	-	-	8.0	にふい黄橙 10YR7/3	にふい黄橙 10YR6/3	石英、角閃石、雲母 微細な砂粒、赤色酸化粒
170			S152	弥生土器	壺	6.9	-	18.1	10.6	黒褐色 10YR3/2	黄褐色 2.5YR5/3	石英、角閃石、雲母 砂粒、赤色酸化粒
171	69	41・42	S156	弥生土器	壺	(17.3)	-	19.2	18.0	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/8	長石、石英、角閃石 雲母、微細な砂粒
172			S156	弥生土器	壺	17.4	-	20.8	17.8	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	角閃石、雲母、赤色酸化粒

Tab.9 出土遺物観察表-⑤

調査				備考	遺物番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
ハケ目後ナデ 工具ナデ	工具ナデ後ナデ	ハケ目後ナデ	工具ナデ後ナデ		140
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	内外器面黒斑	141
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ ナデ	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑 保付着	142
ナデ、ハケ目 ハケ目	ハケ目後ナデ、ハケ目	-	-	外器面敲打痕 外器面黒斑 口縁部外器面深付着	143
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ	-	-	鉛み目 繰描文、列点文 口縁部内器面黒斑	144
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	磨き	ハケ目後ナデ	ナデ	内器面黒斑	145
ナデ、工具ナデ後ナデ ハケ目、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑	146
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目、指頭圧痕	ナデ、ハケ目後ナデ ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	内外器面黒斑	147
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	148
ハケ目後ナデ、暗文	ナデ、指頭圧痕	-	-		149
ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ナデ、ハケ目後ナデ ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑	150
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	-	ハケ目	外器面黒斑	151
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	152
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、工具痕、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	153
ナデ、タタキ後ハケ目	ハケ目、ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑 保付着 内器面黒変	154
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、工具ナデ後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	155
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	156
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ ナデ	-	-	外底面黒斑	157
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目、工具痕	ナデ	ナデ	外底面黒斑	158
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面保付着	159
ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	-	-		160
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ハケ目	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	161
ナデ、タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目	-	-	外器面黒斑	162
ナデ、タタキ後ハケ 目、タタキ後工具ナデ	ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、指頭圧痕	ナデ、工具痕	ナデ、指頭圧痕	(台付縁) 外器面黒斑 内外器面保付着	163
ナデ、タタキ後ナデ タタキ後ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	164
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ナデ、ハケ目	ハケ目	ナデ	外器面黒斑 外器面の一部を打ち欠いた痕跡	165
ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ、ハケ目	ハケ目後ナデ	ナデ	(台付縁) 外器面黒斑	166
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑 内外器面保付着	167
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ハケ目、ハケ目後 ナデ、指頭圧痕	ナデ	ハケ目後ナデ	外器面黒斑	168
ナデ、ハケ目後ナデ 工具ナデ	ナデ、指頭圧痕	ナデ、工具ナデ	ナデ、指頭圧痕		169
ナデ、ハケ目後ナデ 磨き	ナデ、ハケ目、磨き	-	-	赤線 鉛み目尖端 内外器面赤色顔料	170
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ	-	-	外器面黒斑 保付着	171
ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目	ハケ目後ナデ、ハケ目	ナデ	ハケ目	外器面黒斑 底部外器面被熱 脊部中位保付着	172

遺物 番号	Fig. No.	PL. No.	遺構 番号	種別	器種	法量(cm)					色調		胎土	
						口径	底径	最大 胴径	残存高	外面	内面			
173	41・42	S156	弥生土器	甕		22.0	-	23.9	37.9	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR7/6	長石, 石英, 角閃石		
174		S156	弥生土器	甕		22.0	-	25.0	38.2	にぶい黄橙 10YR7/4	明褐 7.5YR5/6	長石, 石英, 黑色粒		
175	69	S156	弥生土器	高杯	31.2	19.5	-	25.5	にぶい黄橙 10YR7/4	明黄褐 10YR7/6	長石, 石英, 霽母 微細な砂粒			
176		S156	弥生土器	不明	-	10.1	-	16.9	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	長石, 角閃石, 霽母 砂粒, 赤色酸化粒			
177	41・43	S156	弥生土器	鉢	9.3	-	-	6.9	浅黄橙 7.5YR8/6	にぶい橙 7.5YR7/4	角閃石, 赤色酸化粒			
178		S156	弥生土器	鉢	8.5	-	-	8.6	橙 7.5YR6/6	明赤褐 SYR5/6	角閃石, 霽母			
179	S156	弥生土器	鉢	19.6	-	-	9.1	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	角閃石, 霽母, 赤色酸化粒				
180	43	S159	弥生土器	甕	16.9	-	(19.1)	22.3	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR6/2	長石, 石英, 霽母 赤色酸化粒			
181		S159	弥生土器	甕	20.8	-	24.6	29.1	浅黄 2.5Y7/3	淡黄 2.5Y8/3	角閃石, 微細な砂粒 赤色酸化粒			
182	70	S160	弥生土器	甕	-	17.6	-	17.6	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	長石, 石英, 角閃石			
183		S160	弥生土器	鉢	19.6	-	-	10.6	にぶい黄橙 10YR7/4	明黄褐 10YR7/6	石英, 角閃石, 霽母 黒色粒, 赤色酸化粒			
184	S167	弥生土器	鉢	13.5	-	-	9.2	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	長石, 石英, 角閃石, 霽母 黒色粒, 赤色酸化粒				
185	44	S172	弥生土器	壺	10.8	4.3	20.2	28.8	にぶい黄橙 10YR7/3	暗灰黄 2.5YR5/2	石英, 角閃石, 霽母 砂粒, 赤色酸化粒			
186	44・47	S172	弥生土器	ショッキ形 土器	(10.4)	11.1	-	8.4	橙 7.5YR6/6	黄褐 10YR5/6	長石, 石英, 角閃石, 霽母			
187	47	S172	弥生土器	ショッキ形 土器	-	10.4	-	9.0	明黄褐 10YR6/6	にぶい黄橙 10YR5/4	石英, 角閃石, 霽母, 砂粒			
188	44	S188	土師器	高坏	-	11.6	-	6.8	赤 10R5/8	橙 5YR7/6	長石, 石英, 角閃石, 赤色 砂粒, 砂粒			
189	47	S020	土師器	壺	16.1	7.2	-	6.0	橙 5YR7/6	暗灰 N3/	石英, 角閃石, 霽母			
190	45・46	S022	弥生土器	袋状口縁壺	(13.5)	6.8	27.0	36.1	黄褐 10YR5/6	にぶい黄橙 10YR6/4	長石, 石英, 角閃石 雲母, 微細な砂粒 赤色酸化粒			
191		S022	弥生土器	壺	15.8	7.5	27.5	32.8	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR5/4	長石, 石英			
192	71	S022	弥生土器	甕	(15.5)	(10.6)	-	23.8	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	長石, 石英, 角閃石 赤色酸化粒			
193		S022	弥生土器	甕	18.8	-	(21.1)	25.7	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	長石, 角閃石, 霽母			
194	S022	弥生土器	鉢	(34.8)	9.5	-	31.0	明赤褐 2.5YR5/8	橙 5YR7/6	長石, 石英				
195	44	調査 2区	弥生土器	高杯	33.0	-	-	16.9	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/4	角閃石, 石英, 1~3mm の砂粒, 赤色酸化粒			
196		調査 2区	弥生土器	鉢	15.6	-	-	13.0	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/3	長石, 角閃石, 赤色酸化粒			

Tab.10 出土遺物観察表-⑥

調査				備考	遺物 番号
外器面	内器面	外底面	内底面		
ナデ、ハケ目後 ナデ、タタキ後 ハケ目、タタキ後 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	-	ナデ	(台付讃) 内外器面黒斑 爪付着	173
ナデ、ハケ目後 ナデ、タタキ後 ハケ目、タタキ後 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目	-	-	(台付讃) 外器面黒斑 内外器面爪付着	174
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、暗文	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 絞り痕、指頭圧痕	内外器面黒斑	175
磨き、磨き後ナデ	ナデ、ハケ目	ナデ	ナデ	外底面輪状の接合痕	176
ナデ、ハケ目後ナデ ナデ、工具痕、指頭圧痕	ナデ、工具痕、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑	177
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、指頭圧痕	ナデ	ナデ、指頭圧痕	外器面黒斑 全面赤彩	178
ナデ、ハケ目後ナデ ナデ、ハケ目後ナデ ハケ目後ナデ 工具ナデ、指頭圧痕	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑	179
ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 工具ナデ、指頭圧痕	-	-	外器面黒斑	180
ハケ目後ナデ、ハケ目 タタキ後ハケ目後 工具ナデ	ハケ目後ナデ、ハケ目	-	-	外器面黒斑 口縁部内器面~外器面爪付着	181
ハケ目後ナデ	ナデ、工具痕	ナデ、ハケ目後ナデ タタキ、タタキ後 ナデ、工具痕	ナデ、ハケ目後ナデ 工具痕	(台付讃)	182
ナデ、ハケ目 ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、工具痕、指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑 爪付着	183
ハケ目後ナデ、ハケ目	ナデ、指頭圧痕	ハケ目	ナデ、指頭圧痕	外底面黒斑	184
ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ 指頭圧痕	外器面黒斑 内器面爪付着	185
ナデ、一部にハケ目	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目	タタキ後ナデ		186
ナデ	ナデ、ハケ目後ナデ 指頭圧痕	ハケ目後ナデ	ナデ	外器面黒斑	187
ヘラ磨き	-	ナデ	ヘラ磨き	内底面、外器面赤彩	188
ナデ、手持ちヘラ磨き	手持ちヘラ磨き	ナデ	手持ちヘラ磨き	黒色土器A類 外底面ヘラ記号	189
ナデ、ハケ目 タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目	ナデ	ハケ目	褐墨文	190
ナデ、タタキ後 ハケ目、タタキ後 ハケ目後工具ナデ	ナデ、ハケ目	ハケ目後ナデ	ハケ目	外器面黒斑 爪付着	191
ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、Jカ目後 工具ナデ	ハケ目後ナデ ハケ目、指頭圧痕	ナデ、ハケ目後ナデ	ナデ	(台付讃) 外器面爪付着	192
ナデ、ハケ目	ハケ目	-	-		193
ナデ、ハケ目後ナデ	ハケ目、ハケ目後ナデ	ナデ	ナデ	突帯 内外器面爪付着	194
ナデ、ハケ目、ハケ目後 ナデ、指頭圧痕	ナデ、暗文	ハケ目後ナデ	ナデ、絞り痕 指頭圧痕	口縁部内器面黒斑 杯部内底面は打ち欠いている	195
ハケ目後ナデ	ナデ、指ナデ	-	-		196

遺物番号	調査区	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量				
							全長(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	厚(cm)	重(g)
201	3	72	47	S147	鉄製品	錐	9.8	1.4	-	0.1	7.2
202	3		48	S156	銅製品	錐	(5.8)	(3.0)	-	(0.3)	13.1
203	3		5080	銅製品	錐	4.3	-	-	-	0.45	7.8
204	3		49	一括	銅製品	銅錐	3.2	0.9	-	0.4	1.8

遺物番号	調査区	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量				
							全長(cm)	全幅(cm)	孔径(cm)	厚(cm)	重(g)
200	3	72	47	調査区	石器	燧石	4.7	3.6	-	0.7	19.8
205	3		S067	石器	石錐	2.7	1.7	-	0.3	1.0	
206	2		S017	石器	石錐	2.0	1.7	-	0.4	1.0	
207	3		S069	石器	石錐	2.5	(2.1)	-	0.3	1.6	
208	3		S152	石器	石包丁	(3.9)	(4.1)	-	0.6	12.4	
209	3		S158	石器	石包丁	3.3	(8.15)	-	0.5	23.8	
210	3		S079	石器	石包丁	4.25	(7.75)	-	0.9	41.3	
211	3		S067	石器	石包丁	3.5	10.9	-	0.6	39.8	
212	3		S158	石器	石包丁	5.4	12.5	-	0.8	81.0	
213	3		S099	石器	石包丁	(7.8)	(10.1)	-	0.85	103.8	
214	2	73	F4-張	石器	磨製石斧	(8.9)	4.5	-	1.2	75.5	
215	3		S099	石器	打製石斧	(11.5)	7.2	-	1.9	228.2	
216	3		S099	石器	磨製石斧	11.0	4.7	-	1.9	124.6	
217	3		S093	石器	磨製石斧	(9.8)	5.0	-	2.5	156.7	
218	3		S099	石器	磨製石斧	8.9	5.1	-	3.5	204.0	
219	3		S153	石器	磨石	11.6	10.6	-	4.9	578	
220	3		S149	石器	磨石	(10.0)	(8.7)	-	3.5	337.2	
221	2		S001	石器	敲石	13.8	7.6	-	5.5	892	
222	3		S086	石器	敲石	9.5	7.4	-	6.4	519	
223	3		S099	石器	磨石・敲石	11.5	10.4	-	4.2	848	
224	3	74	S124	石器	燧石	9.1	7.7	-	5.1	555	
225	3		S151	石器	燧石	(9.0)	(8.3)	-	3.7	347.3	
226	3		S173	石器	燧石	20.4	9.9	-	5.7	1850	
227	2		S016	石器	燧石	(16.2)	(12.2)	-	7.0	1478	
228	3		S085	石器	燧石	(15.8)	(14.8)	-	4.9	1340	
229	3		S066	石器	燧石	24.4	14.2	-	7.8	3420	
230	3	75	S083	石器	燧石	20.1	12.1	-	7.5	1850	
231	3		S137	石器	燧石	23.9	13.8	-	7.6	3700	
232	3		S156	石器	燧石	(21.6)	(30.5)	-	15.7	14560	
233	3		S099	石器	燧石	(21.6)	(26.4)	-	13.2	7575	
234	3	76	S164	石器	台石	25.9	17.7	-	5.9	2830	

遺物番号	調査区	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量				
							全長(cm)	全幅(cm)	孔径(cm)	厚(cm)	重(g)
197	2	72	47	調査区	土製品	土鍤	2.6	3.1	-	2.3	20.1
198	2	72	47	S011	土製品	土鍤	3.2	3.1	0.5	2.8	27.6

遺物番号	調査区	Fig. No.	PL. No.	遺構番号	種別	器種	法量				
							最大径	最大厚	孔径(cm)	重(g)	
199	3	72	47	S156	ガラス製品	ガラス玉	4.8	2.1	2.0	計測不可	

Tab.11 鉄製品・銅製品出土遺物觀察表

備考	遺物番号
先端部欠損 先端部付近は若干上方に反る 先端部付近から基部まで横断面は緩やかに湾曲	201
鏡縁部 1/4 残存 (鏡元径 7.8cm) 全体研磨 突みあり 外区は楊齒文 内区文様体は平行花文か?	202
全体研磨 一部押された痕跡あり 鏡に紐の痕跡あり 外区は楊齒文 内区は裏背面に赤色顔料付着	203
旗身は中心の桟より左右同一方向に研磨 先端部分は左右研ぎ分け 並部分は説明のライン残る	204

Tab.12 石製品出土遺物觀察表

色調	石材	備考	遺物番号
にふい黄褐 10YR5/3	凝灰岩		200
灰 N4/	安山岩		205
ブラック 7.5YR1.7/1	安山岩	頭部先端と片脚先端欠損	206
暗灰 N3/	安山岩		207
暗灰 N3/	頁岩、粘板岩		208
暗灰 N3/	頁岩、粘板岩		209
暗灰 N3/	頁岩、粘板岩		210
暗灰 N3/	粘板岩		211
暗オリーブ灰 2.5G4/1	砂岩		212
オリーブ灰 2.5Gv5/1	千枚岩、ホレンフェルス		213
オリーブ灰 2.5Gv5/1	結晶片岩	細状瘤が2本	214
灰 10Y4/1	安山岩		215
暗灰 N3/	結晶片岩		216
暗灰 N3/	片岩		217
灰 N5/	安山岩、ホレンフェルス		218
にふい黄褐 10YR4/3	安山岩		219
灰 N4/	安山岩		220
灰 5Y4/1	安山岩		221
灰 7.5Y4/1	安山岩		222
灰 N5/	安山岩		223
黄褐 2.5Y5/3	砂岩		224
灰オリーブ 5Y5/3	砂岩		225
にふい黄 2.5Y6/3	砂岩		226
灰オリーブ 5Y5/2	砂岩		227
黒褐 2.5Y3/2	砂岩		228
にふい黄 2.5 Y 6/4	砂岩		229
灰オリーブ 5Y5/2	砂岩		230
灰 7.5Y4/1	砂岩		231
灰オリーブ 5Y6/2	安山岩		232
灰 5Y4/2	矽岩		233
オリーブ黒 7.5Y3/1	安山岩		234

Tab.13 土製品出土遺物觀察表

色調	胎土	備考	遺物番号
にふい橙 10YR7/3	長石、石英、雲母		197
にふい黄褐 10YR6/4	長石、石英、角閃石、雲母	ナデと押さえにより成形 圓側穿孔	198

Tab.14 ガラス製品出土遺物觀察表

色調	備考	遺物番号
淡青	平面形は正円にならず突みあり 若干多角形を呈する 側面に面を成す部分あり 片方の小口面が輪に対し斜行 微少な気泡が多く入る	199

第5章

総括

(1) 裝の形態分類 (Fig.50 ~ 71)

八島町遺跡は、多くの竪穴建物を検出した集落跡である。なかでも、2・3区においてその密度は高く、多くの竪穴建物は重複関係にあり、長期間に渡って集落が営まれていたことが確認された。これらの竪穴建物からは「壺形土器」や「壺形土器」、「高环形土器」、「鉢形土器」(以下、「形土器」を省略する。)など多くの弥生土器が出土している。これらの土器は弥生時代後期の特徴を示す一群であり、それらは細分が可能である。そこで、ここでは3区を中心に竪穴建物出土の装の形態変化に着目し、その共伴遺物とのセット関係及び先行研究を考慮して、当該期の土器変遷について考察する。

本調査で出土した装は口縁部が「く」字に屈曲しており、いずれも弥生時代後期に比定できる。これらを口縁部の長さや形態、体部最大径の位置や体部形態、脚台の状況、器面調整方法などから5類に細分する。

1類 (166・192・193)

口縁部は直線もしくは外湾して開く。体部最大径は中位よりやや上に位置し、口縁部と体部のくびれは強い。脚台は短く開く。器面調整は外・内共にハケ目調整を施す。

2類 (6・19・58・108・133)

口縁部は直線的に斜め上方に向かって開く。体部最大径は中位に位置し、器高は深くなる。脚台は長大化することが推定される。器面調整は外・内共にハケ目調整を施す。

3類 (7・57・59・60・61・62・63・99・100・101・118・119・154・163・173・174)

口縁部は直線的もしくはやや外湾して斜め上方に向かって開き、2類と比較してさらに長大化する。体部最大径は中位に位置し、長胴化する。脚台は10cm前後に長大化し、直線的に外方へ開く。器面調整は外器面の上半部に左上がりもしくは水平方向のタタキ痕跡を残し、内器面にはハケ目調整を施す。

4類 (5・93・162)

口縁部は直線的もしくはやや外湾して斜め上方に向かって開く。その端部はつまみ上げられ、内器面側には稜線が形成される。この端部のつまみ上げは、庄内式土器に特徴的な要素であることから、他地域の土器製作技法の影響を受けているとされている(植木町教育委員会2003)。体部最大径は中位に位置し、長胴化する。脚台はさらに長大化して12cm前後を測り、僅かに内湾しながら外方へ開くが、その開きは3類と比較して弱い。体部・脚台の器壁は薄く、器壁の厚さは4mmを測り、1~3類と比較すると2mm程薄くなる。器面調整は外器面の上半部に左上がりのタタキ痕跡を残し、内器面にはハケ目調整を施す。

5類 (164)

口縁部は直線的に斜め上方に開き、その端部はわずかにつまみ上げられる。体部最大径は中位に位置し、長胴化した体部から丸底の底部に至る。器面調整は外器面の上半部に左上がりのタタキ痕跡を残し、内器面にはハケ目調整を施す。

(2) 時期区分 (Fig.50 ~ 71, 77 ~ 79)

前項の5分類をこれまでの先行研究の成果と照合した結果、口縁部の長大化、体部最大径位置の下方への変化、体部形態や脚台の長大化及び喪失、外器面調整のハケ目調整からタタキ痕跡の残存への変化などから、1類→2類→3類→4類→5類の変遷が明らかである。これらの各部の変化は、壺や鉢においても概ね同様の変遷が認められる。そこで、装や他の遺物の変遷を基に弥生時代後期を4期に細分した。ここでは、各期を1期・2期・3期・4期として、八島町遺跡出土の各期の土器の変遷について検討する。

1期

土坑S148(3区)とS022(排水処理槽予定地)の出土遺物を想定する。装は1類(166・192・193)を基本とする。

土坑S022では、壺（190・191）と大形の鉢（194）が共伴する。壺（190・191）の体部は球形を呈し、張りが強い。その最大径は中位に位置し、平底（状）の底部に至る。壺（190）の口縁部は複合口縁状を呈し、頸部には突帯が巡り、体部には不精緻な櫛描きの文様が施される。2期以降に認められる白川流域型の複合口縁壺の祖形と推定される。大形の鉢（194）の体部最大径は上位に位置し、凸レンズ状の底部に至る。また、頸部には突帯が巡る。これらの壺（190・191）と大形の鉢（194）には、平底（状）の底部を持つ点や器面調整は外・内共にハケ目調整を施す点、頸部に突帯が巡る点等の共通点が認められる。

2期

竪穴建物S048・097・134（3区）を想定する。甕は2類（19・108・133）を基本とする。

単純口縁壺（18）や白川流域型の複合口縁壺（17）、小形の壺（132）等の壺類や台付鉢（106・107）、単純口縁の丸底鉢（20・21・22・109・110・135・136）や屈曲口縁の丸底鉢（23・134）等の鉢類を伴う。これらの壺・鉢類には、体部最大径が中位に位置することが特徴として挙げられる。また、体部最大径が中位に位置する単純口縁の丸底鉢（140・141・142）や屈曲口縁の丸底鉢（143）を作う竪穴建物SI135（3区）を甕は未出土であるが、同時期の遺構と推定する。

3期

竪穴建物S001（2区）やS066・095・099・145・156（3区）を想定する。甕は3類（7・63・174）を基本とし、4類（5）を伴う。

大形の壺類の体部は3期と比較すると、長胴化して体部最大径の張りが強くなる。白川流域型の複合口縁壺の頸部は短くなり、くびれが増す。屈折口縁を持つ体部球形の中形の壺類や鉢類も、体部最大径の位置が中位よりやや下方に位置し、重心が下方へ移る。また、本遺跡では、口縁部が鈞状に広がる屈折口縁の丸底鉢も、新たに組成に加わる。大形の鉢（15・16・87・88）も継続して使用されているが、体部最大径は1期のものと比較するとやや下方に位置し、87や88の形態から丸底を呈することが分かる。高环はその形態から1・2類に大別できる。1類は、扁平な鉢形の体部を持ち、口縁部が直線的に外方へ広がる1a類（10・11・65）と長大で大きく外湾する1b類（64・175）に細分でき、脚部は下方に向かって緩やかに開く。2類（67・68）は、直線的に斜め上方に開く口縁部から椀状の体部に至る。脚部は「ハ」字に広がる。

4期

竪穴建物S092・147（3区）を想定する。甕は4類（93・162）を基本とし、5類（164）を伴う。

単純口縁の丸底鉢（97）や口縁部が鈞状に広がる屈折口縁の丸底鉢（165）などの様々な形態の鉢類を伴い、いずれも体部最大径の位置は中位よりやや下方に位置し、重心が低い。

（3）まとめ

本遺跡では、排水処理槽予定地・1～3区にかけて弥生時代後期を通して集落が営まれていたことが確認された。ここでは、竪穴建物S147（3区）で脚台の付かない甕5類（164）が出土した点に着目する。この甕5類は白川上流域や菊池川流域等の他地域では弥生時代終末期に位置づけられており、本遺跡においても該期まで集落が成立していたと認識する。この甕5類の白川下流域での出土例は管見に触れるることはできず、白川水系で直近の遺跡としては、山尻遺跡（熊本市北区弓削山尻）（古庄1989）に求めることができる。

集落からは、銅鏡が竪穴建物内より2点出土している。1点（203）は竪穴建物S080（3区）から出土した小形仿製鏡である。鏡面を上方に向けて、水平に残置された状態で硬化面上より出土した。重圓文系の鏡であり、全長4.3cmの完形である。文様構成は狹縁で外区には櫛歯文帯が巡り、内区の文様帯には抽象化された文様が鋳出されている。鏡背面には文様の観察し難い範囲があり、この方向に湯口があったと考える。また、鏡背面全体は研磨され、赤色顔料の付着が認められ、鏡には僅かに紐の痕跡が認められる。この鏡は弥生時代後期中頃に生産され、佐賀平野をはじめ北部九州一円に分布していることから、肥後地域における鏡の流通主体であった菊池川中流域を経由して、本遺跡に流入したものとされている（南2007b）。

もう1点（202）は竪穴建物S156（3区）の埋土中から出土した小形仿製鏡片である。内行花文日光鏡系の鏡片であり、鏡縁から内行花文帯までの残存率は1/4程度で、復元径は7.8cmを測る。文様構成は平縁で外

区には柳衛文帯が巡り、内区は内行花文帯となる。本鏡片（202）は、当該期の集落遺跡である石川遺跡（熊本県熊本市北区植木町）より出土した鏡片と類似している。この石川遺跡出土鏡片は、高岡原遺跡（熊本県玉名市）や西弥護免遺跡（熊本県菊池郡大津町）出土鏡と同型式であることが指摘されている（南2007a）。また、南（南2007a・b）はこれらの鏡は画一的な文様構成が特徴であり、その鏡型が福岡県須久永田遺跡で出土していることから、大半の製品が須久遺跡群で製作されたものとした。そして、その生産時期を小形彷彿鏡生産の最終段階に位置づけ、それまで全ての鏡の流通主体であった菊池川中流域において仿製鏡に対する優位性が見られなくなっていることから、菊池川中流域とは異なる地域から流入された可能性が高いとした。なお、本鏡片の出土した竪穴建物S156からは、3期の腰・高杯・鉢が出土している。

このように、生産時期や流通形態において差異が認められる点の鏡は、最終的にはいずれも豊穴建物内に廃棄されている。この廃棄に対する意識は、菊池川中流域を核とした菊池川以南の肥後地域と共にして認められる事象（南2007a）であり、本遺跡の出土状況もこれに類似している。

また、今回発掘調査を行った八島町遺跡は、「熊本県遺跡地図」による「八島町遺跡」（Fig.3）の南東端に位置し、3区の一部は「八島町遺跡」の南東に位置する「南新宮遺跡」（Fig.3）に接している。この「八島町遺跡」・「南新宮遺跡」は、いずれも「熊本県遺跡地図」では弥生時代の包蔵地として周知されている。また、両遺跡の周辺には「道城方遺跡」（Fig.3）も所在し、同じく弥生時代の包蔵地とされている。

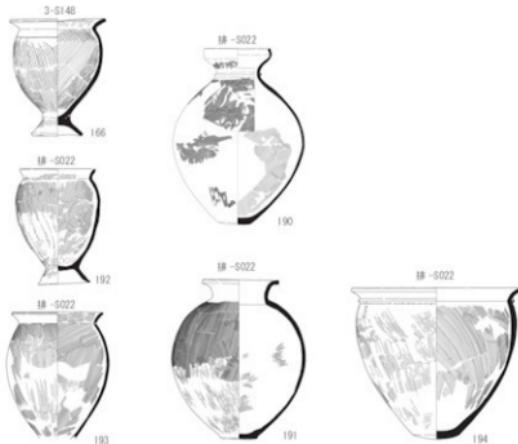
道場方遺跡では、1955年に行われた排水溝工事および1963年に行われた下水工事の際に、遺物が採取されている。そして、1989～1991年にかけて熊本市教育委員会によって試掘調査が行われ、調査では5～7軒の弥生時代後期の竪穴建物を検出している。また、隣接する南新宮遺跡でも調査が行われており、弥生時代後期の遺物が出土しているが、遺構については不明である。さらに、「熊本市史」（1932）では、「湯ノ原遺跡」（Fig.3）からも、同時期の遺物が出土していることが報告されている。なお、湯ノ原遺跡は熊本県西区二本木4丁目に所在することから、現在の「二本木遺跡群」の南端に位置していると推定される。

これらの遺跡の調査結果から、佐藤は道場方遺跡・南新宮遺跡・湯ノ原遺跡は小字名で別の遺跡に区分されているが、本来は万日山から南に延びた微高地（自然堤防）の先端部に営まれた弥生時代後期から終末期にかけての一つの大規模な集落と考えられるとの指摘を行っている（佐藤1996）。ここでは、新宮遺跡と接する本遺跡についても、道場方遺跡・南新宮遺跡・湯ノ原遺跡を包括する大規模集落の一端であったと考える。また、これらの遺跡は現坪井川の左岸に所在するが、坪井川右岸に所在し、八島町遺跡から約250m北方に位置する二本木遺跡群田崎地区（熊本県教育委員会2013）においても、本遺跡と同時期の遺構や遺物（破鏡・小形彷彿鏡含む）が出土している点は、本遺跡を含む白川下流域の集落規模やその在り方を考察する上で重要な要素である。

以上のことから、本遺跡は現在の小字を超越した白川下流域の広範囲に渡って、弥生時代後期を通して営まれた大規模集落の一端であることが確認できた。この集落には多くの竪穴建物が建てられ、2点の鏡が出土した。また、銅鏡（204・調査3区内）や鉄製鉗（201・3区竪穴建物S147）といった金属器や、内行花文日光鏡系の鏡片（202）が出土した竪穴建物S156（3区）ではガラス玉（199）も出土しており、多様な遺物を所有していたことも確認された。

（長谷部・上高原）

1期



2期

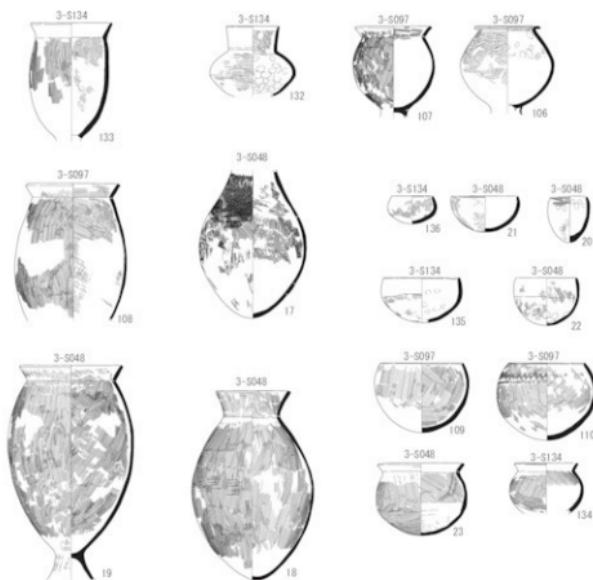


Fig.77 八島町遺跡 土器変遷図（1）

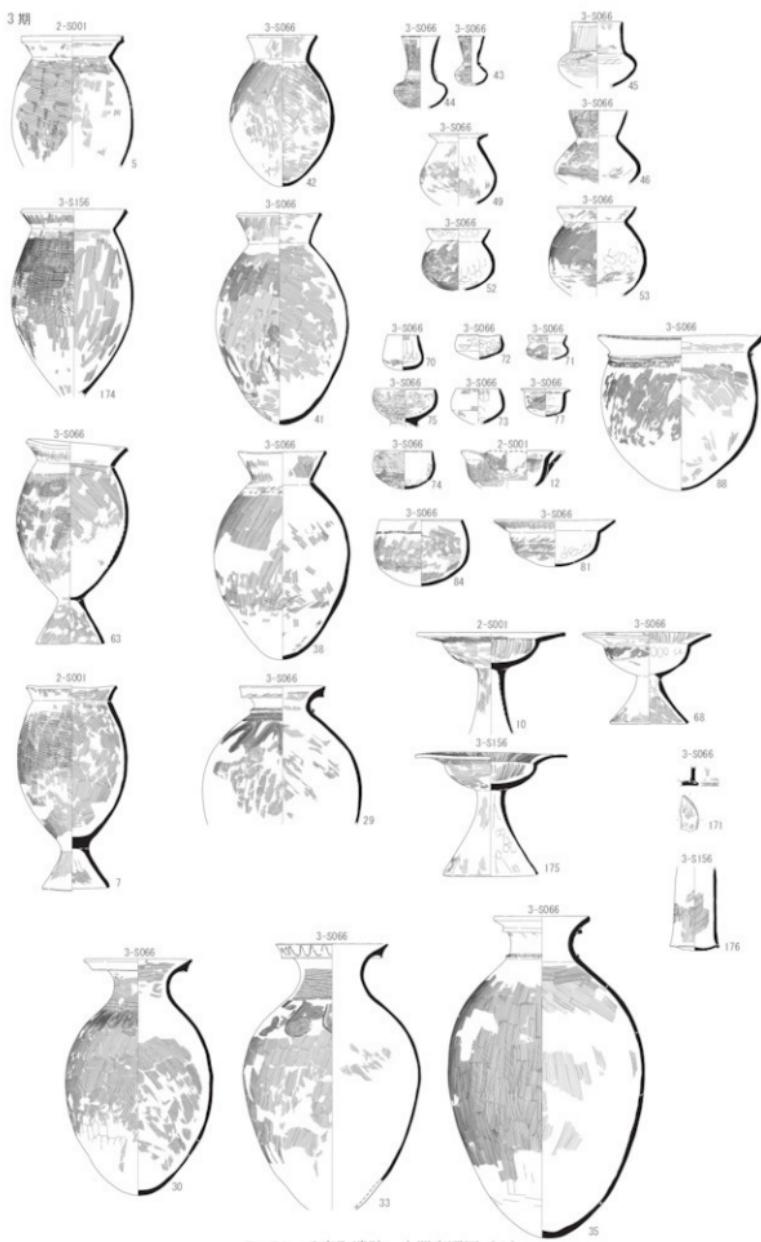


Fig.78 八島町遺跡 土器変遷図（2）

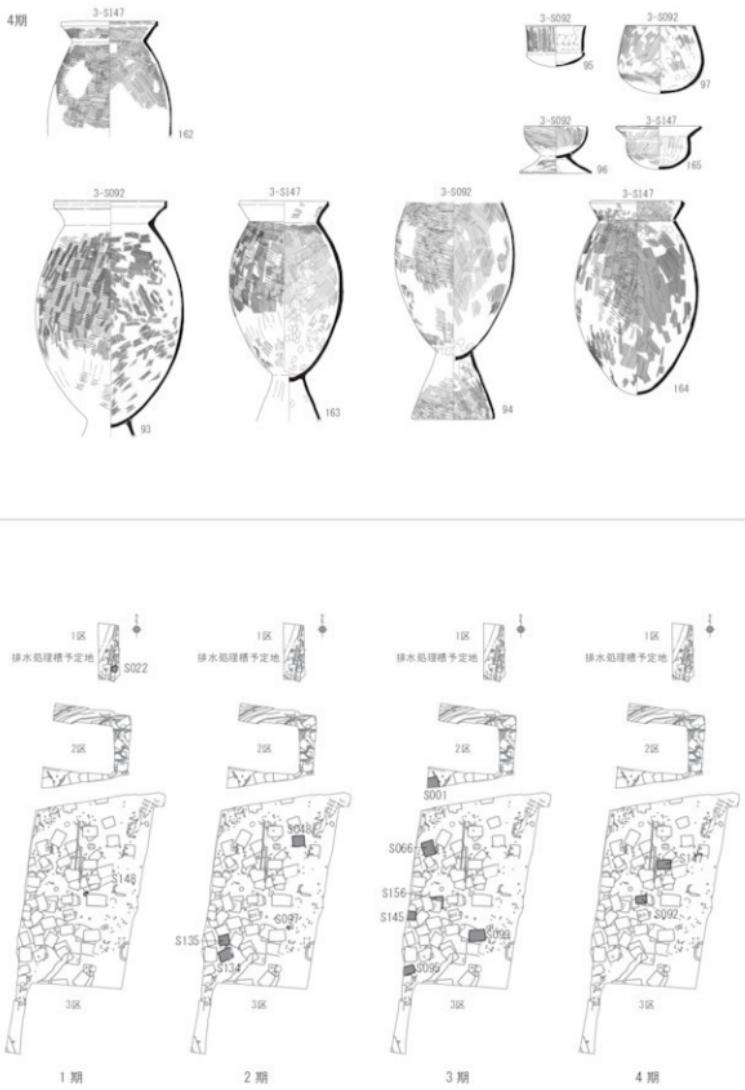
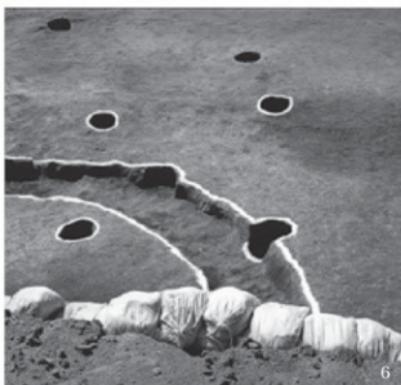
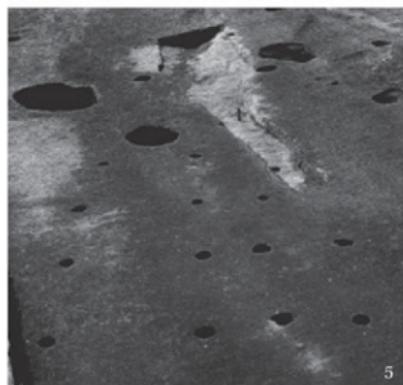


Fig.79 (上段) 八島町遺跡 土器変遷図 (3)
 (下段) 八島町遺跡 遺構変遷図

引用・参考文献

- 隈 照志 1982 「熊本県下の弥生時代鏡鑑」『森貞次郎博士古希記念 古文化論集』上巻
森貞次郎博士古希記念文集刊行会
- 河森一浩 1998 「免田式土器の再検討 - 様式構造をめぐって -」『肥後考古』第 11 号 肥後考古学会
- 佐藤伸二 1996 「道城方遺跡（南新宮遺跡・湯ノ原遺跡）」『新熊本市史』史料編 第一巻 考古資料
新熊本市史編纂委員会
- 高倉洋彰 1972 「弥生時代小形仿製鏡について」『考古学雑誌』第 58 卷第 3 号 日本考古学会
- 田崎博之 1984 「北部九州における弥生時代終末前後の鏡について」『史淵』第百二十一輯
九州大学文学部
- 辻田淳一郎 2005 「破鏡の伝世と副葬 - 穿孔事例の観察から -」『史淵』第百四十二輯
九州大学大学院人文科学研究院
- 原田範昭 1999 「中九州における弥生時代後期土器の編年・熊本平野部の土器にみる社会風景 -」
『先史学・考古学論究』Ⅲ 立田考古会
- 藤丸詔八郎 1993 「破鏡の出現に関する一考察 - 北部九州を中心にして -」『古文化談叢』第 30 集（上）
九州古文化研究会
- 古庄浩明 1989 「中九州における古式土器師の研究 - 白川・緑川水系を中心に -」
『國學院大學考古学資料館紀要』第 5 集 乙益重隆先生古希記念号 國學院大學考古学資料館
- 南健太郎 2007a 「肥後地域における銅鏡の流入とその特質」『肥後考古』第 15 号 肥後考古学会
2007b 「弥生時代九州における漢鏡の流入と小形仿製鏡の生産」『熊本大学 社会文化研究』5
熊本大学大学院社会文化科学研究所
- 2008 「弥生時代における銅鏡の副葬と廐棄」『熊本大学 社会文化研究』6
熊本大学大学院社会文化科学研究所
- 新熊本市史編纂委員会 1996 『新熊本市史』史料編 第一巻 考古資料
- 熊本県教育委員会 1987 『下山西遺跡』熊本県文化財調査報告第 88 集
- 熊本県教育委員会 1993 『二子塚』熊本県文化財調査報告第 117 集
- 熊本県教育委員会 1993 『狩尾遺跡群』熊本県文化財調査報告第 131 集
- 熊本県教育委員会 1994 『熊本県遺跡地図』
- 熊本県教育委員会 1996 『蒲生・上の原遺跡 附編大場石棺群』熊本県文化財調査報告第 158 集
- 熊本県教育委員会 1999 『二木本遺跡群』熊本県文化財調査報告第 174 集
- 熊本県教育委員会 2001 『梅ノ木遺跡Ⅱ』熊本県文化財調査報告第 199 集
- 熊本県教育委員会 2001 『柳町遺跡Ⅰ』熊本県文化財調査報告第 200 集
- 熊本県教育委員会 2007 『上ノ郷遺跡』熊本県文化財調査報告第 239 集
- 熊本県教育委員会 2008 『二木本遺跡群Ⅱ』熊本県文化財調査報告第 243 集
- 熊本県教育委員会 2010 『二木本遺跡群Ⅲ』熊本県文化財調査報告第 256 集
- 熊本県教育委員会 2010 『小野原遺跡群』熊本県文化財調査報告第 257 集
- 熊本県教育委員会 2010 『福佐津留遺跡 西安寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 263 集
- 熊本県教育委員会 2012 『二木本遺跡群（春日地区）5』熊本県文化財調査報告第 271 集
- 熊本県教育委員会 2013 『二木本遺跡群 7 田崎地区田崎市道切替田崎陸橋』
熊本県文化財調査報告第 280 集
- 植木町教育委員会 2003 『北牟田遺跡』植木町文化財調査報告書第 16 集
- 熊本市教育委員会 2006 『江津湖遺跡群Ⅱ』江津湖遺跡群第 7 次・第 10 次発掘調査報告書
- 熊本市教育委員会 2007a 『二木本遺跡群Ⅲ』二木本遺跡群第 26 次調査区発掘調査報告書
- 熊本市教育委員会 2007b 『二木本遺跡群Ⅳ』二木本遺跡群第 27 次調査区発掘調査報告書
- 熊本市教育委員会 2008a 『二木本遺跡群Ⅴ』二木本遺跡群第 28 次調査区発掘調査報告書
- 熊本市教育委員会 2008b 『二木本遺跡群Ⅶ』二木本遺跡群第 28 次調査区・第 32 次調査区発掘調査報告書
- 熊本市教育委員会 2009 『戸坂遺跡Ⅱ』戸坂遺跡第 3 次調査区発掘調査報告書
- 熊本市教育委員会 2011 『二木本遺跡群XV』二木本遺跡群第 40 次調査区・第 47 次調査区

写 真 PLATE



1. 1区完掘状况

3. 竖穴建物 S001 完掘状况

5. 挖立柱建物 S046 完掘状况

2. 2区完掘状况

4. 3区完掘状况

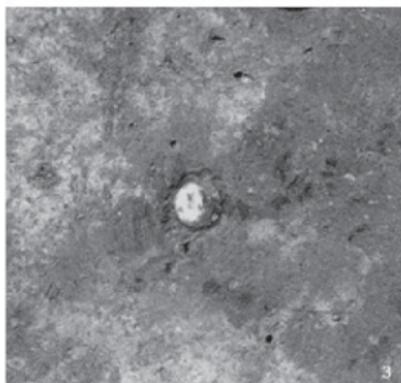
6. 挖立柱建物 S131 完掘状况



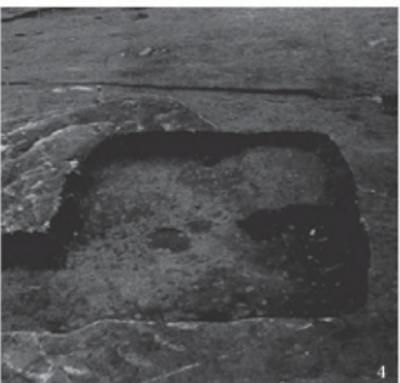
1



2



3



4



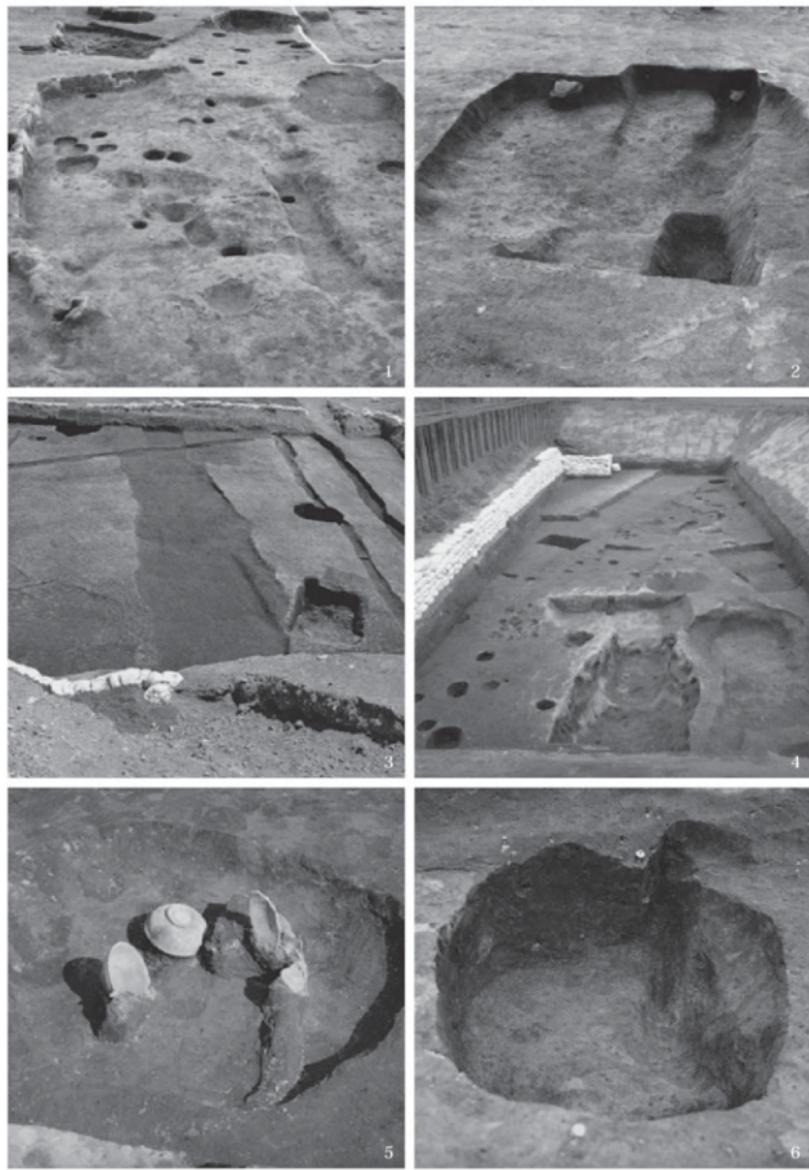
5



6

1. 竖穴建物 S048 完掘状況
3. 竖穴建物 S080 小形仿製鏡出土状況
5. 竖穴建物 S095 完掘状況

2. 竖穴建物 S066 完掘状況
4. 竖穴建物 S084 完掘状況
6. 竖穴建物 S096 完掘状況



1. 穹穴建物 S140 完掘状況
3. 5 区調査区完掘状況
5. 排水処理槽予定地 墓 S020 遺物出土状況

2. 土坑 S152 完掘状況
4. 排水処理槽予定地完掘状況
6. 排水処理槽予定地土坑 S022 完掘状況



竖穴建物 S001 出土遺物 - ①

PL.17



竖穴建物 S001 出土遺物 - ②



竖穴建物 S001 出土遺物 - ③



1



4



2



3



5

竖穴建物 S001 出土遺物 - ④



竖穴建物 S048 出土遺物 - ①



竖穴建物 S048 出土遺物 - ②



竖穴建物 S066 出土遺物 - ①



竖穴建物 S066 出土遺物 - ②



竖穴建物 S066 出土遺物 - ③



竖穴建物 S066 出土遺物 - ④



1



2

竖穴建物 S066 出土遺物 - ⑤

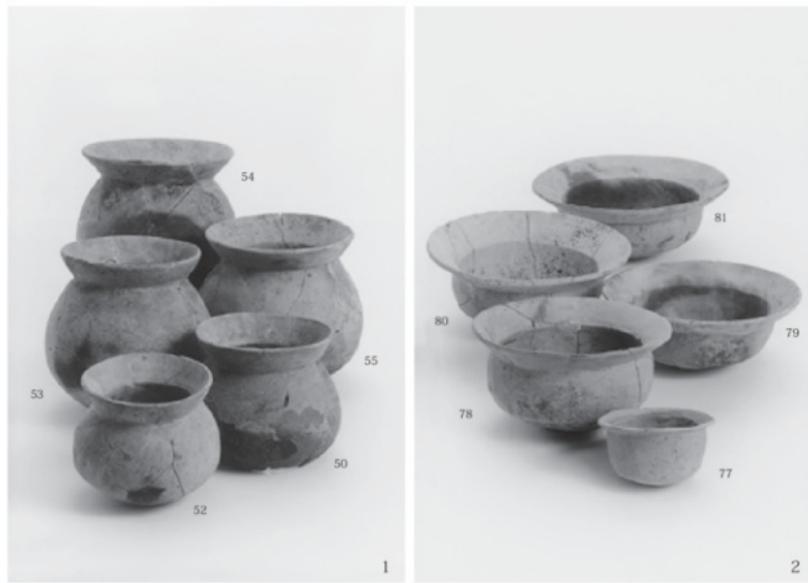


1



2

竖穴建物 S066 出土遺物 - ⑥



1

2



3

4

1. 2. 竪穴建物 S066 出土遺物 - ⑦
3. 竪穴建物 S079 出土遺物

4. 竪穴建物 S086 出土遺物



1



2



3

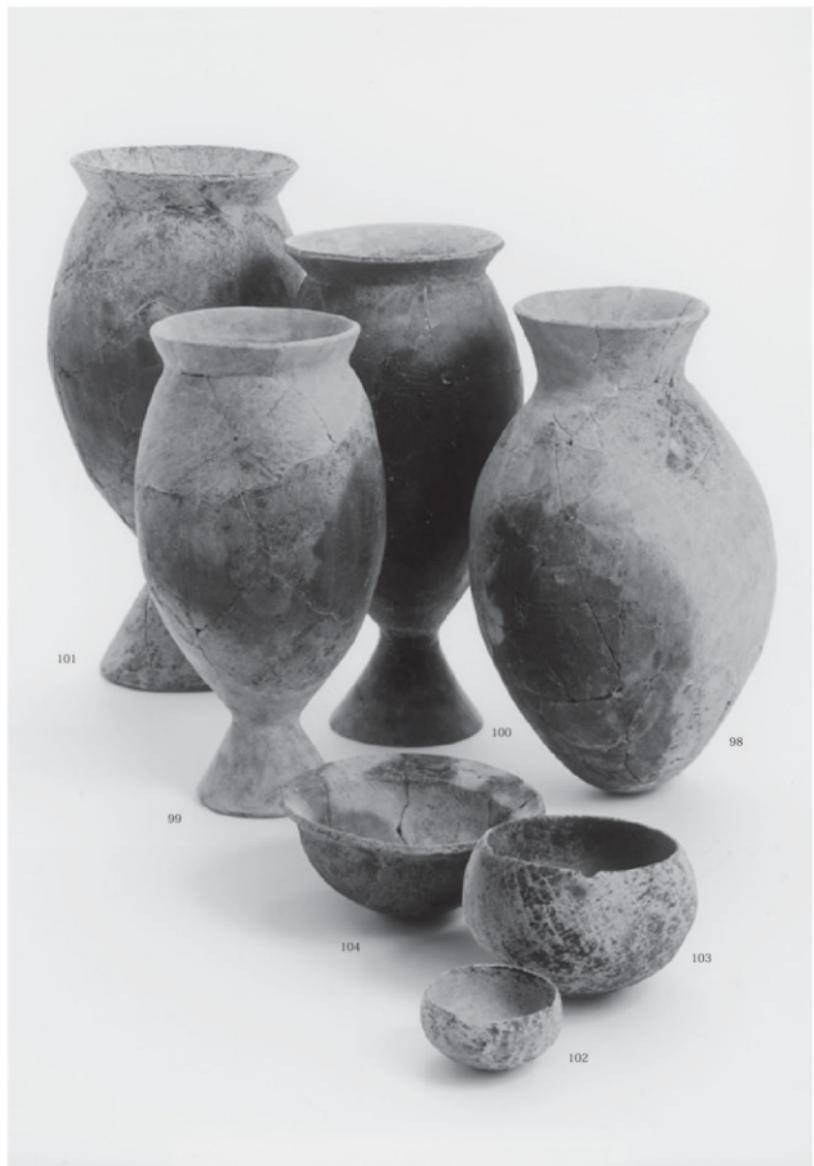


4

1. 穹穴建物 S089 出土遺物

4. 穹穴建物 S095 出土遺物 - ①

2. 3. 穹穴建物 S092 出土遺物



竖穴建物 S095 出土遺物 - ②



1



2



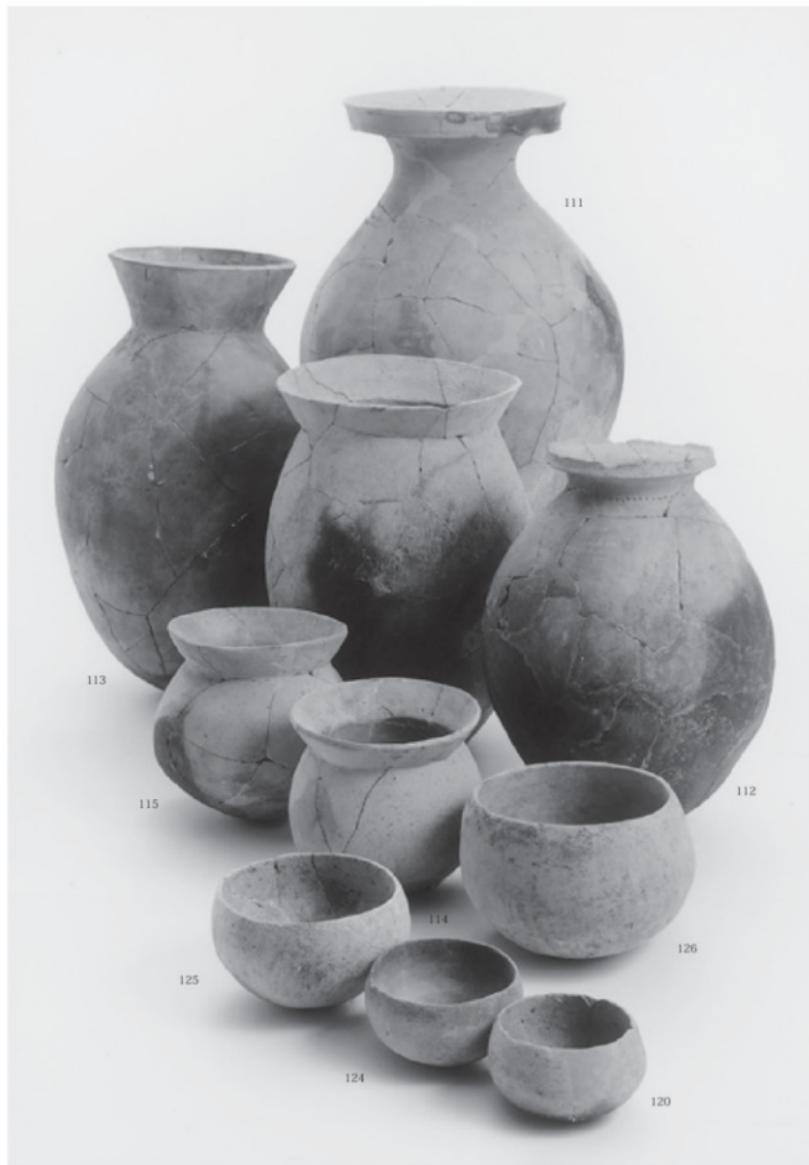
3



4

1, 2. 穹穴建物 S095 出土遺物 - ③
3. 穹穴建物 S096 出土遺物

4. 土坑 S097 出土遺物



竖穴建物 S099 出土遺物 - ①



1



2



3



4

1. 土坑 S097 出土遺物

2. 3. 4. 穹穴建物 S099 出土遺物 - ②



竖穴建物 S099 出土遺物 - ③



1. 穹穴建物 S099 出土遺物 - ④
3. 穹穴建物 S134 出土遺物

2. 穹穴建物 S101 出土遺物



131

130

1



138

137

2



139

3



143

4

1. 穹穴建物 S124 出土遺物
3. 4. 穹穴建物 S135 出土遺物 - ①

2. 穹穴建物 S134 出土遺物



1



2



3



4

1. 竖穴建物 S135 出土遺物 - ②
3. 竖穴建物 S141 出土遺物

2. 竖穴建物 S140 出土遺物
4. 竖穴建物 S143 出土遺物



竖穴建物 S145 出土遺物 - ①



1. 2. 穹穴建物 S145 出土遺物 - ②
3. 土坑 S148 出土遺物



1



2

3

1. 穹穴建物 S147 出土遺物
2. 穹穴建物 S149 出土遺物

3. 穹穴建物 S150 出土遺物



竖穴建物 S156 出土遺物 - ①



1

2



3

4

竖穴建物 S156 出土遺物 - ②



1

2



3



4

1. 土坑 S152 出土遺物
3. 穹穴建物 S160 出土遺物

2. 穹穴建物 S159 出土遺物
4. 穹穴建物 S167 出土遺物



1



2



3



4

1, 2. 穹穴建物 S172 出土遺物
3. 土坑 S188 出土遺物

4. 調査区内出土遺物



排水處理槽预定地土坑 S022 出土遺物 - ①



1

2



193

192

3

194

4

排水处理槽预定地土坑 S022 出土遗物 - ②



1

2



3

4



5

6

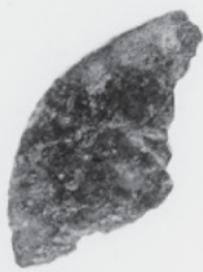
1. 排水処理槽予定地墓 S020 出土遺物
3. 土錘
5. ガラス玉

2. ジョッキ形土器
4. 砥石
6. 鉋 (ヤリガンナ)



203

1

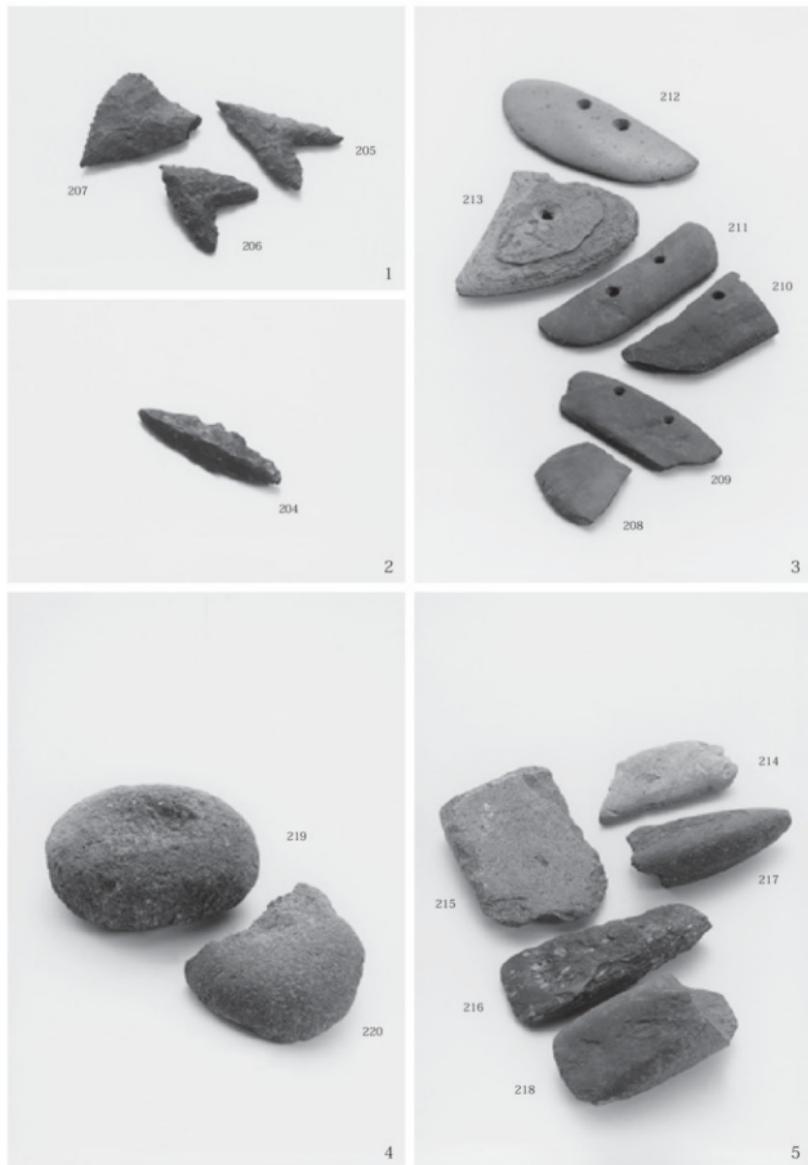


202

2

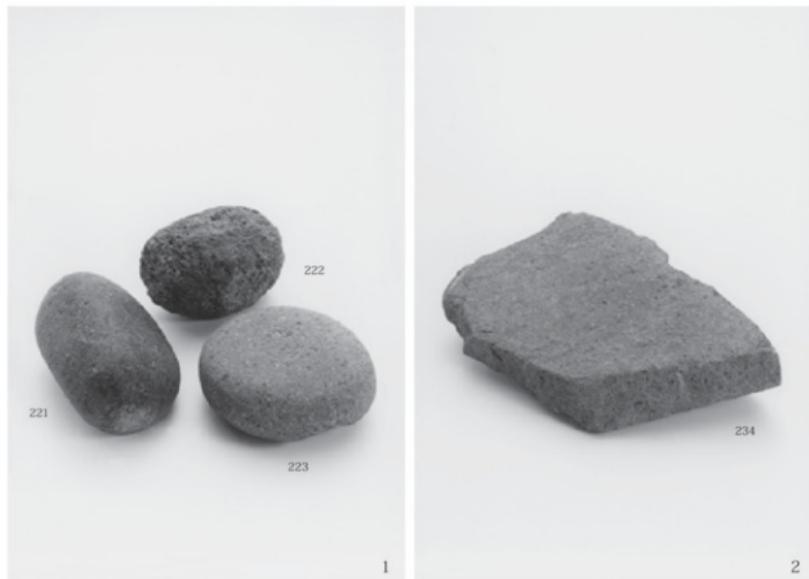
1. 穹穴建物 S080 出土遺物小形仿製鏡（重圓文系鏡）

2. 穹穴建物 S156 出土遺物小形仿製鏡（內行花文鏡）



1. 石鑑
2. 銅鑑
3. 石包丁

4. 磨石
5. 石斧



1. 敲石
3. 碾石

2. 台石



Fig.80 座標測地点 (No.1 ~ No.4)

報告書抄録

ふりがな	やしままちいせき
書名	八島町遺跡
副書名	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	第 281 集
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
編著者名	長谷部善一・上高原 雄
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号 TEL. 096-333-2706
発行年月日	2013 年 3 月 31 日
資料の保管場所	熊本県文化財資料室 〒 861-4215 熊本県南区城南町沈目 1677 TEL. 0964-28-4933

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北 緯	東 緯	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
八島町遺跡	熊本県西区蓮台寺町 103 熊本県西区	43 熊本県 266	No 1 32° 46' 42.31312"	No 1 32° 46' 11.65730"	20030527 ~ 20040228	4976m ²	九州新幹線 建設工事	
			No 2 32° 46' 41.01451"	No 2 32° 46' 11.66185"				
			No 3 32° 46' 39.06563"	No 3 32° 46' 11.28439"				
			No 4 32° 46' 35.49252"	No 4 32° 46' 10.52834"				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八島町遺跡	集落	弥生・古代	堅穴建物、掘立柱建物、井戸、溝、墓、柱穴群	弥生土器、銅鏡、石製品、銅製品、鐵製品、土製品	小形彷製鏡 2 点 (内行花文鏡・重圓文鏡)

要 約	八島町遺跡は、熊本県中央を西流する白川・井芹川・坪井川によって形成された標高 6 ~ 7 m の複数高地上に立地する遺跡である。九州新幹線建設工事に伴い、平成 15 年・16 年度に熊本県教育委員会で発掘調査を実施した。 主な検出遺構は堅穴建物や掘立柱建物、井戸、溝、土坑などが挙げられる。なかでも、調査 2・3 区では多くの堅穴建物が密集して検出されている。それらは、弥生時代後期に比定され、調査地周辺には該期の集落があったことが確認された。遺構からは大量の土器と共に、小形彷製鏡 2 点や銅鏡、鐵製鏡、ガラス玉などが出土している。
-----	--

本書の仕様

- 判型 A4 判
- 頁数 174 頁
- 組版 13 級 小塚明朝 Pro 基本
adobe In DesignCS5.5 (for Windows)
- 印刷 オフセット印刷
- 製版 本誌のモノクロ及びカラー写真はすべてスクリーン線数 220 線で製版
- 用紙 表紙 アートボスト菊判 220kg
本文 マットアート 110kg
図版 特アート SA 金藤 4/6 135kg
- 製本 糸かがり綴じ
- 表紙加工 PP (ポリプロピレン) 貼り

2013年3月31日 印刷
2013年3月31日 発行

熊本県文化財調査報告第281集
八島町遺跡

著作権所有 熊本県中央区水前寺6丁目18番1号
発行者 熊本県教育委員会
印刷者 熊本市北区龍田弓削1丁目4番12号
ホープ印刷株式会社

発行者：熊本県
所屬：教育庁文化課
発行年度：平成 24 年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 281 集を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用
してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図
書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用
方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：八島町遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話：096-383-1111

URL : <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日